



大田区子どもたちの生活実態に関する アンケート調査結果概要

令和3年4月
大田区福祉管理課

目次

1. 実態調査の概要 3
2. 子どもの生活実態調査結果のポイント 14
3. ひとり親家庭の生活実態に関する調査結果
のポイント 52
4. 新たな課題 68
5. おおた 子どもの生活応援プランに関する
活動状況等調査結果のポイント 90
6. 次期プランの策定に向けて 97

1. 実態調査の概要

(1) 子どもの生活実態調査の概要

(2) ひとり親家庭の生活実態に関する調査の概要

(3) おおた 子どもの生活応援プランに関する活動
状況等調査の概要

(4) 集計結果の表示方法

【実態調査の主な目的】

○次期プラン策定に向けた基礎資料としての現状把握

○新型コロナウイルス感染症拡大による子どもや家庭
への影響を把握

1-(1) 子どもの生活実態調査の概要

- 実施時期 令和2年9月16日～10月16日 ※1
- 実施方法 区立小学校を經由して配布・回収
- 調査対象 区立小学校5年生とその保護者
- 調査項目 (保護者票) 家庭の経済・就労・生活・子育て等の状況、新型コロナウイルスの流行による影響等、(子ども票) 学習状況・生活の様子、健康状態、新型コロナウイルスの流行による影響等
- 配布・回収状況

調査対象	配布数	有効回答数(率%)
保護者(保護者票)※2	4,853件	4,095件(84.4%)
小学校5年生(子ども票)※3	4,853件	4,176件(86.0%)

※1 調査期間後に回収した調査票についても、できる限り結果に反映した

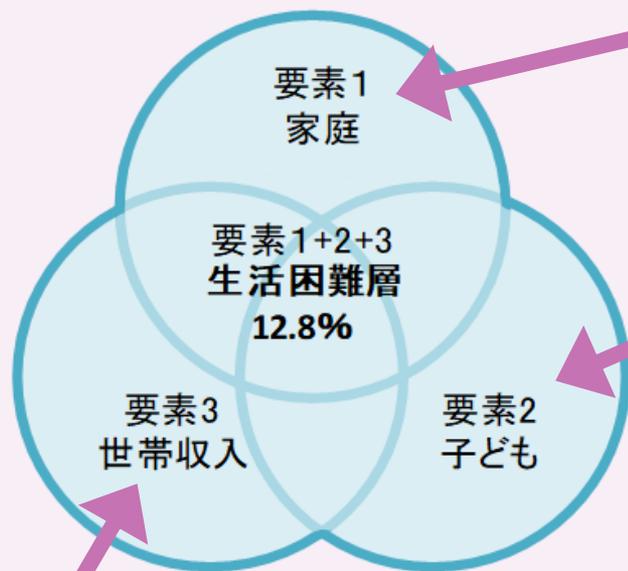
※2 子どもの生活実態調査(保護者票)を、本資料では「小5保護者」と省略して表示

※3 子どもの生活実態調査(子ども票)を、本資料では「小5子ども」と省略して表示

1-(1) 子どもの生活実態調査 分析の視点 区における「生活困難層」の定義

子どもの生活実態調査の結果を基に、「家庭」「子ども」「世帯収入」の3つの要素に着目し、これらのうちいずれか1つ以上に該当する場合を「生活困難層」、いずれの要素にも該当しない場合を「非生活困難層」と分類。

非生活困難層 87.2%



公的年金や社会保障給付を含めた世帯の総収入に関して、世帯人数を踏まえて算出した額が一定水準未満※とみなされる世帯

過去1年間に買えなかった・支払えなかった経験が1つ以上ある世帯(次の7項目)

- ①食料、②衣類、③電話料金、④電気料金、⑤ガス料金、⑥水道料金、⑦家賃

子どもとの経験・所有物等に関して、経済的な理由で与えられていないと3つ以上回答した世帯(次の14項目)

- ①海水浴に行く、②博物館・科学館・美術館などに行く、③キャンプやバーベキューに行く、④スポーツ観戦や劇場に行く、⑤毎月おこづかいを渡す、⑥毎年新しい洋服・靴を買う、⑦習い事(音楽・スポーツ・習字など)に通わせる、⑧学習塾に通わせる、⑨1年に1回程度家族旅行に行く、⑩クリスマスのプレゼントをあげる、⑪正月のお年玉をあげる、⑫子どもの年齢に合った本がある、⑬子ども用のスポーツ用品・おもちゃがある、⑭子どもが自宅で宿題をすることができる場所がある

1-(1) 子どもの生活実態調査 生活困難層の割合

- 生活困難層の割合は12.8%で、前回調査の21.0%と比較すると8.2ポイント低下
- 要素1(家庭)に該当した割合は5.9%で、前回調査の11.0%と比較すると5.1ポイント低下
- 要素2(子ども)に該当した割合は7.6%で、前回調査の10.3%と比較すると2.7ポイント低下
- 要素3(世帯収入)※1に該当した割合は4.8%で、前回調査の9.3%と比較すると4.5ポイント低下
- (参考)国民生活基礎調査の子どもの貧困率の割合※2は、2012年(16.3%)から2018年(13.5%)の6年間で2.8ポイント低下

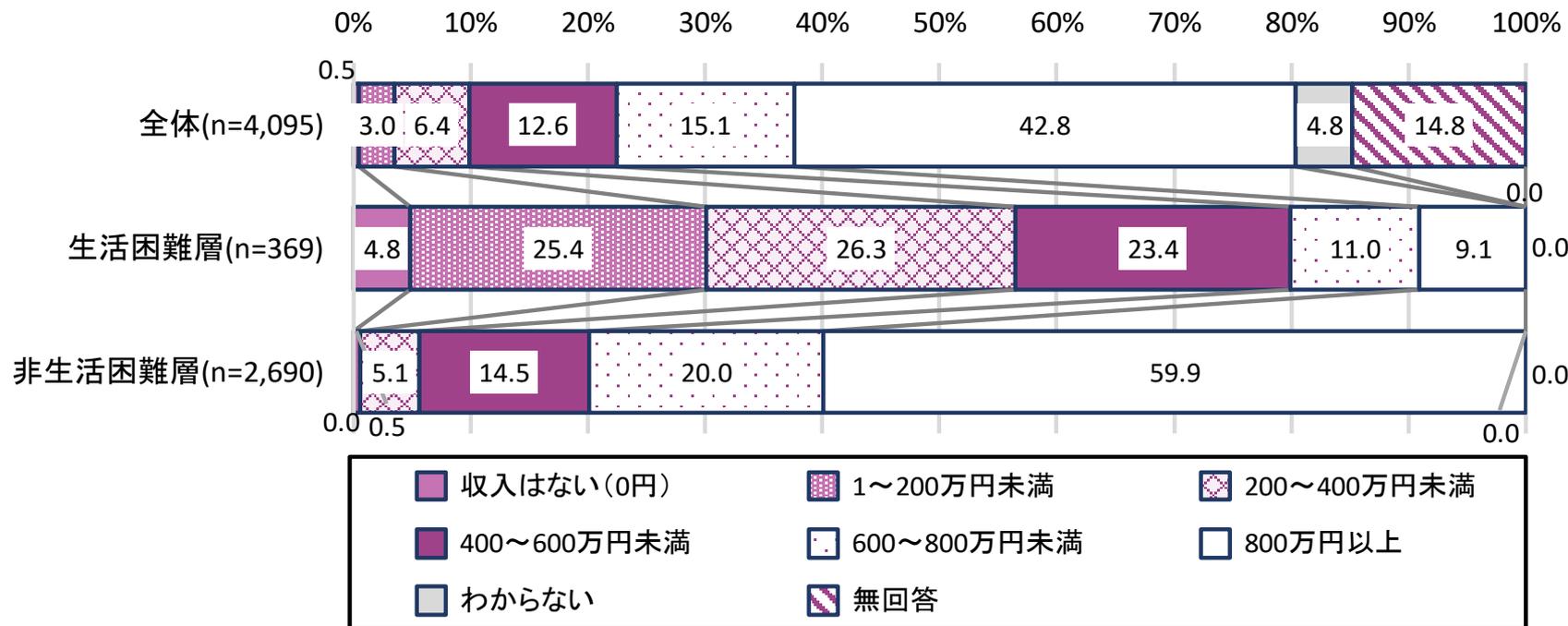
※1 要素3の世帯収入の基準は調査年の1年前である令和元年の収入に基づいている点に留意

※2 子どもの貧困率は貧困線(等価可処分所得の中央値の半分)に満たない世帯に暮らす17歳以下の子どもの割合

1-(1) 子どもの生活実態調査 世帯の年間収入(税込)

世帯の年間※収入(税込)【小5保護者Q19】

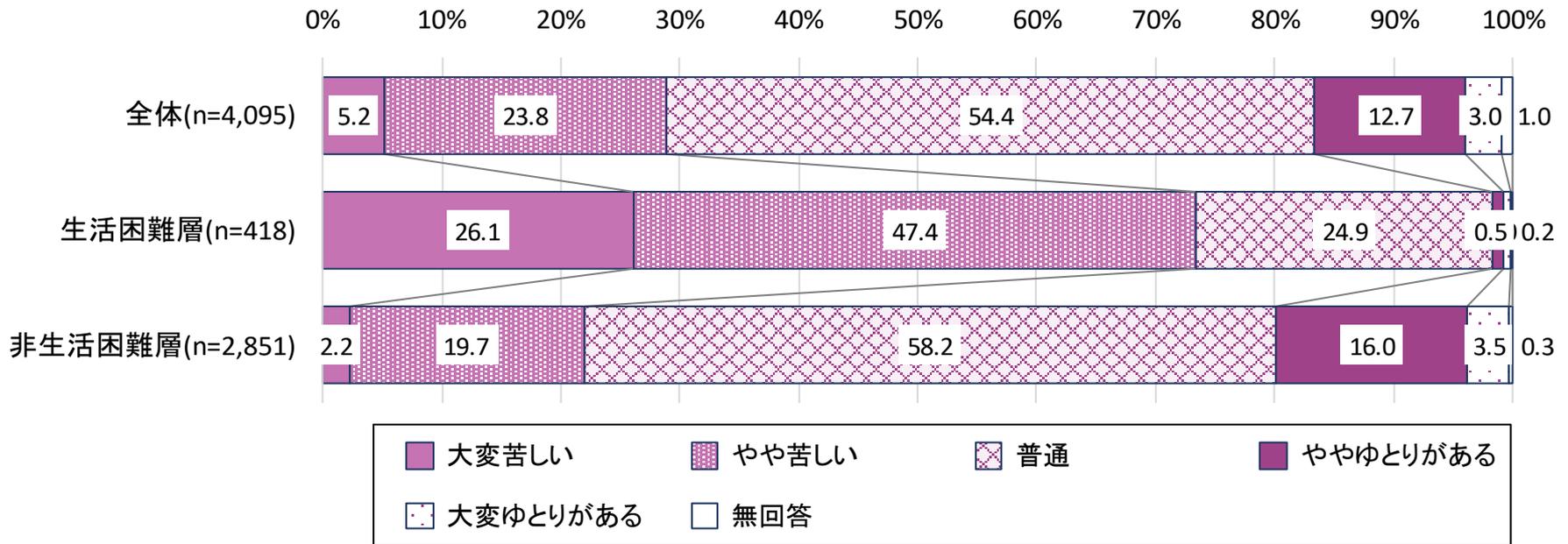
※平成31年1月～令和元年12月



- 世帯の年間収入(公的年金と社会保障給付金以外の税込額)は、「800万円以上」の回答が最も多く42.8%
- 世帯の年間収入が、200万円未満の回答を合計した割合は全体で3.5%
- 前回調査(全体)と比較すると「800万円以上」が約10ポイント上昇

1-(1) 子どもの生活実態調査 暮らし向き

暮らし向きに対する認識【小5保護者Q25】



- 現在の暮らし向きを「大変苦しい」「やや苦しい」と回答した割合は、全体では29.0%、生活困難層では73.5%
- 前回調査(全体)と比較すると「大変苦しい」の割合が約5ポイント低下

1-(2)ひとり親家庭の生活実態に関する調査の概要

- 実施時期 令和2年9月4日～9月25日※1
- 実施方法 郵送による配布及び回収
- 調査対象 令和2年度の児童育成手当受給世帯のうち、無作為に抽出した2,000世帯
- 調査項目 家庭の経済・就労・生活状況、子どもや子育ての状況、新型コロナウイルスの流行による影響等
- 配布・回収状況

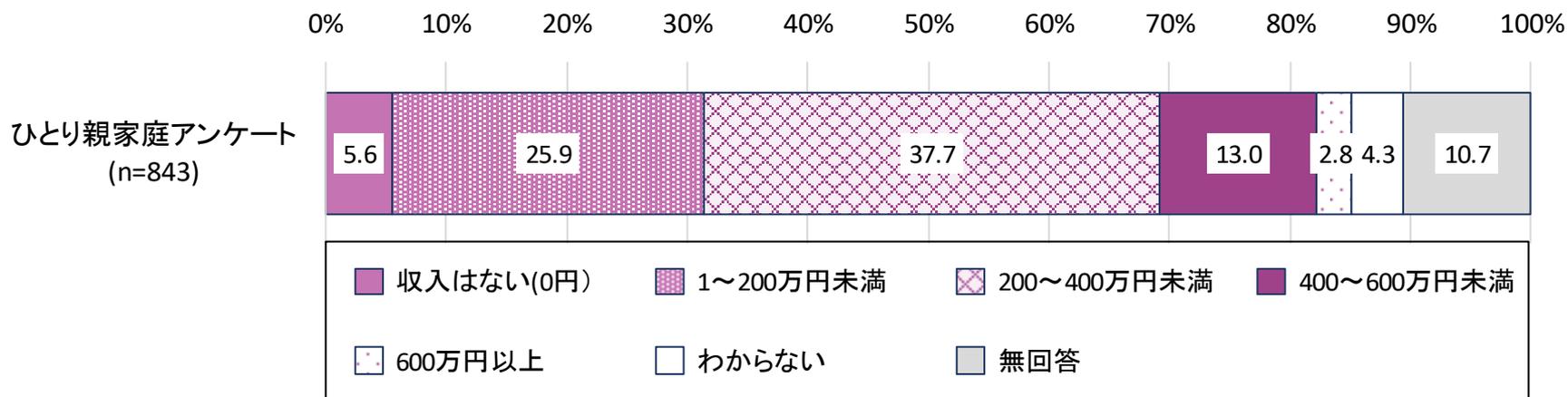
調査名称	配布数	有効回答数(率%)
ひとり親家庭の生活実態に関する調査※2	2,000件	843件(42.2%)

※1 調査期間後に回収した調査票についても、できる限り結果に反映した

※2 ひとり親家庭の生活実態に関する調査を、本資料では「ひとり親家庭調査」または「ひとり親」と省略して表示

1-(2)ひとり親家庭調査 世帯の年間収入(税込)

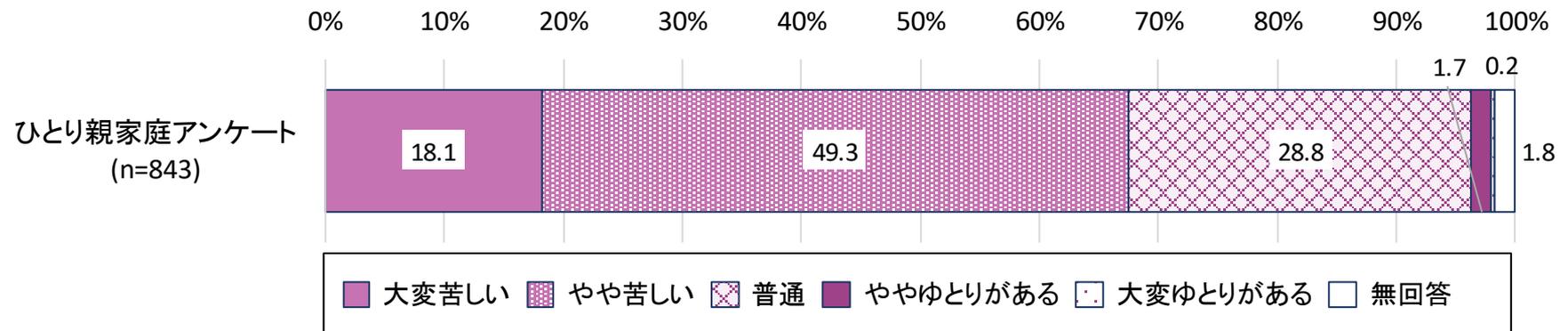
世帯の年間収入(税込)【ひとり親Q27】



- 世帯の年間収入(公的年金と社会保障給付金以外の税込額)は、「200~400万円未満」が37.7%、「1~200万円未満」が25.9%、「収入はない(0円)」が5.6%
- 前回調査(全体)と比較すると、400万円以上と回答した割合が約7ポイント上昇

1-(2)ひとり親家庭調査 暮らし向き

暮らし向きに関する認識【ひとり親Q32】



- 現在の暮らし向きを「大変苦しい」と回答した割合は18.1%、「やや苦しい」と回答した割合は49.3%
- 前回調査(全体)と比較すると、「大変苦しい」の回答割合は約8ポイント低下

1-(3) おおた 子どもの生活応援プランに関する 活動状況等調査の概要

- 実施時期 令和2年9月18日～10月9日※1
- 実施方法 郵送・電子メールによる配布・回収
- 調査対象 大田区区民活動情報サイト登録団体(自治会・町会除く)、大田区社会福祉法人協議会参加法人
- 調査項目 活動団体の基本情報、活動状況、子ども・家庭に必要な支援等に関する意見等
- 配布・回収状況

調査名	有効回答件数
おおた 子どもの生活応援プランに関する 活動状況等調査	106件

※1 調査期間後に回収した調査票についても、できる限り結果に反映した

1-(4) 集計結果の表示方法

- 図表内の「n=〇〇」はその設問についての有効回答数を示している。
- 集計は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 子どもの生活実態調査の生活困難層／非生活困難層を定義するための要素として使用した設問への回答数(3,269件)と、全体の有効回答数(保護者票4,095件、子ども票4,176件)は異なるため、図表中のn値は「生活困難層＋非生活困難層＝全体数」とはならない。
- 複数選択の設問(棒グラフ)については、概要版では回答割合の高い選択肢を中心に部分的に抜粋し、無回答の割合等の掲載を省略している。



2. 子どもの生活実態調査結果のポイント

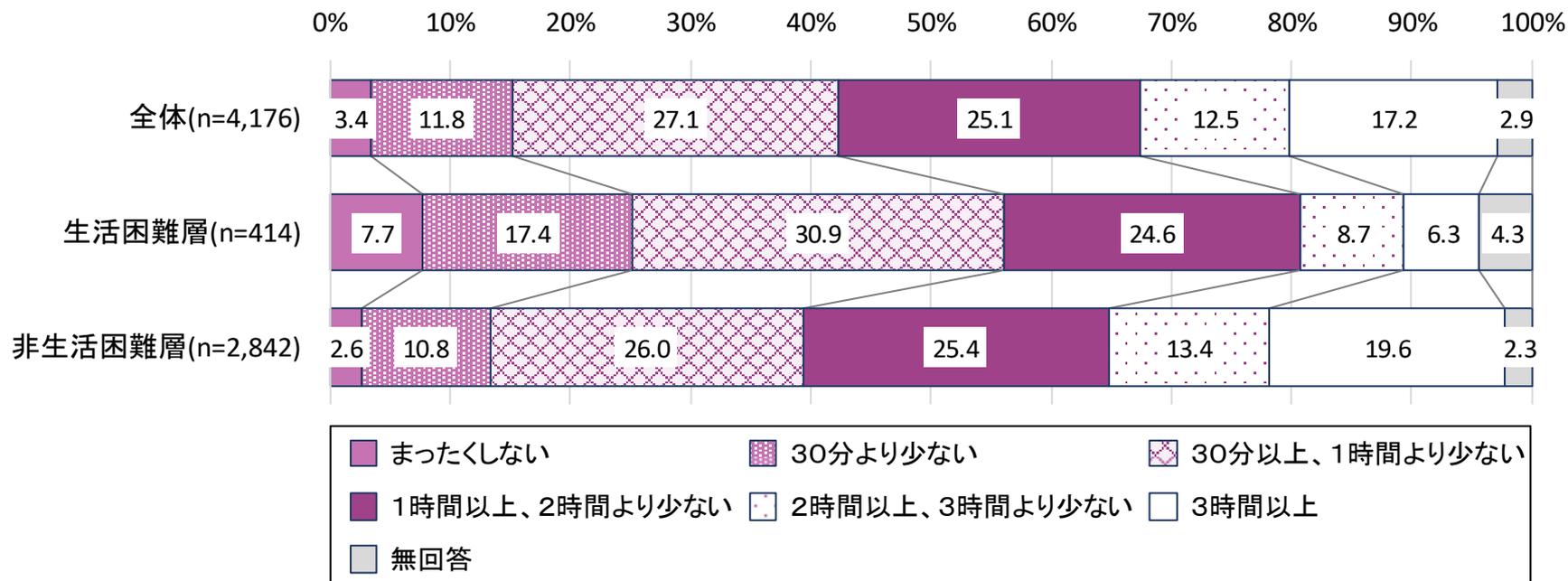
(1) 経験・学力に関連する状況

(2) 生活・健康に関連する状況

(3) 居場所・包摂に関連する状況

2-(1)子どもの学習状況

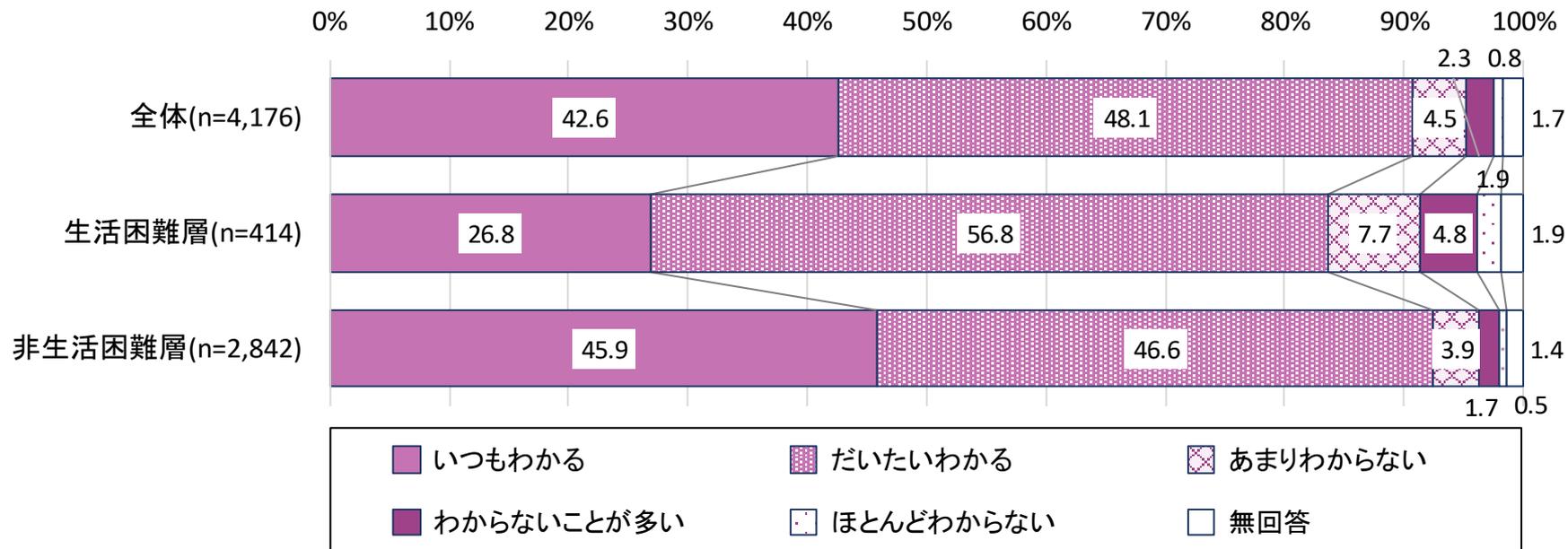
平日の学習時間(学校外)【小5子どもQ23】



- 平日の学校外での学習時間について、「まったくしない」と「30分より少ない」を合わせた回答割合は、全体では15.2%、生活困難層では25.1%

2-(1)学校の授業理解

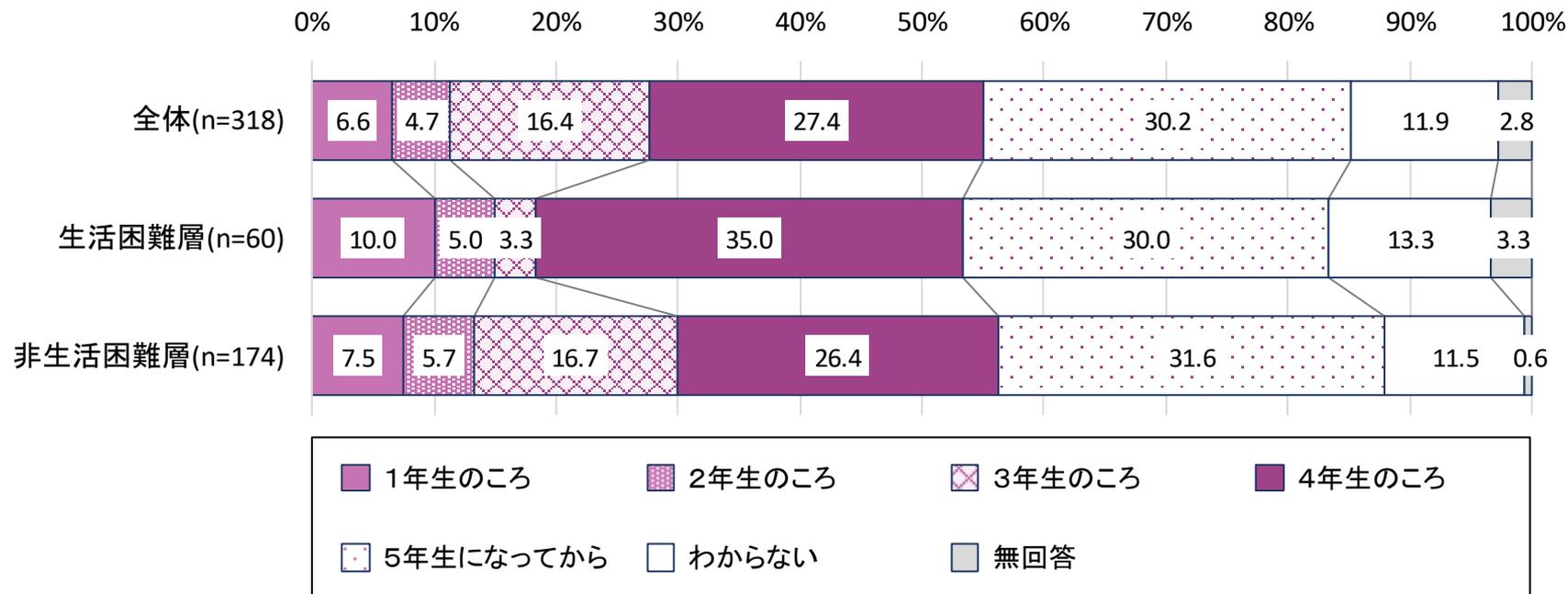
学校の授業の理解度【小5子どもQ19】



- 学校の授業がわからないと回答した割合（「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」の合計）は、全体では7.6%、生活困難層では14.4%

2-(1) 授業が分からなくなった時期

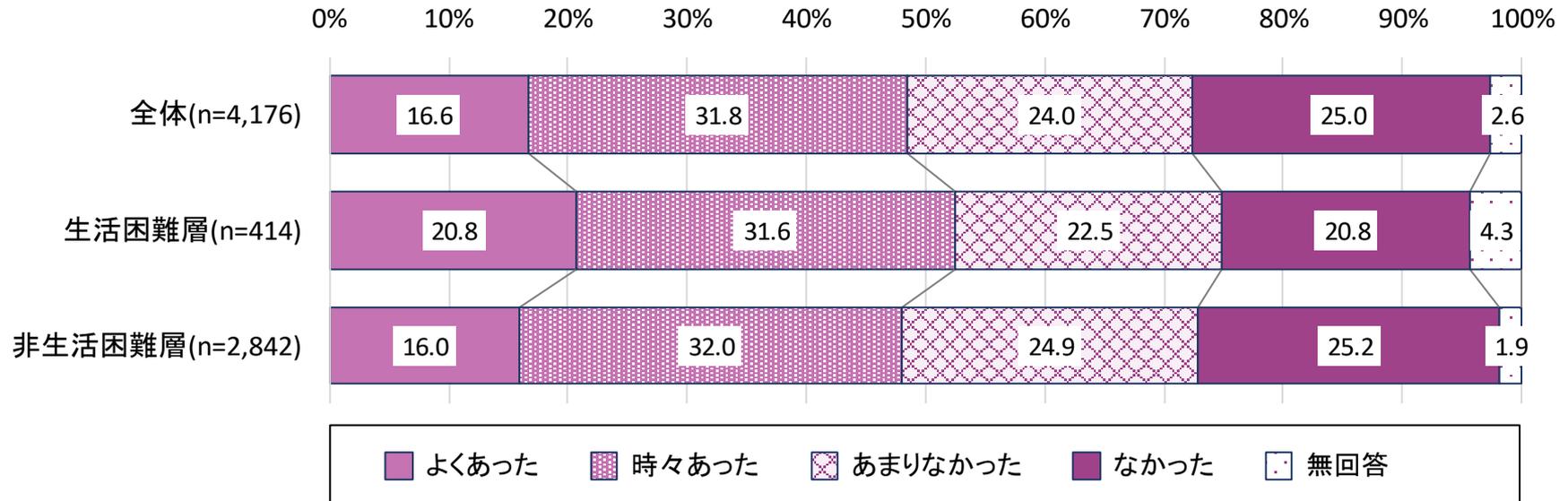
学校の授業が分からなくなった時期【小5子どもQ19-1】



- 学校の授業がわからないと回答した人に、わからなくなった時期を尋ねたところ、「5年生になってから」が30.2%、「4年生のころ」が27.4%

2-(1) 学校に行きたくないと思ったこと

学校に行きたくないと思ったこと【小5子どもQ29A】



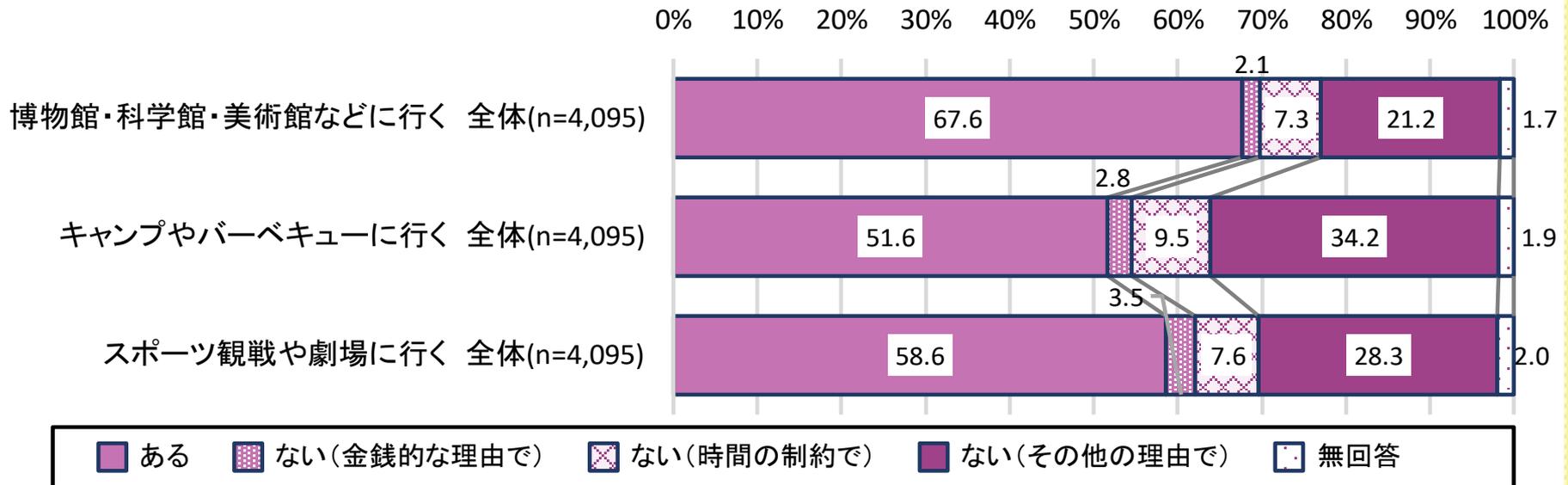
- これまでに「学校に行きたくないと思った」ことがあるかを尋ねた設問に対して、「よくあった」「時々あった」と回答した割合は全体で48.4%
- 前回調査(全体)と比較すると、「よくあった」と「時々あった」を合わせた回答割合が約7ポイント上昇

2-(1) 子どもの体験の状況

生活
困難層
判定要素

柱1
経験・
学力

子どもの体験の状況 【小5保護者Q23】



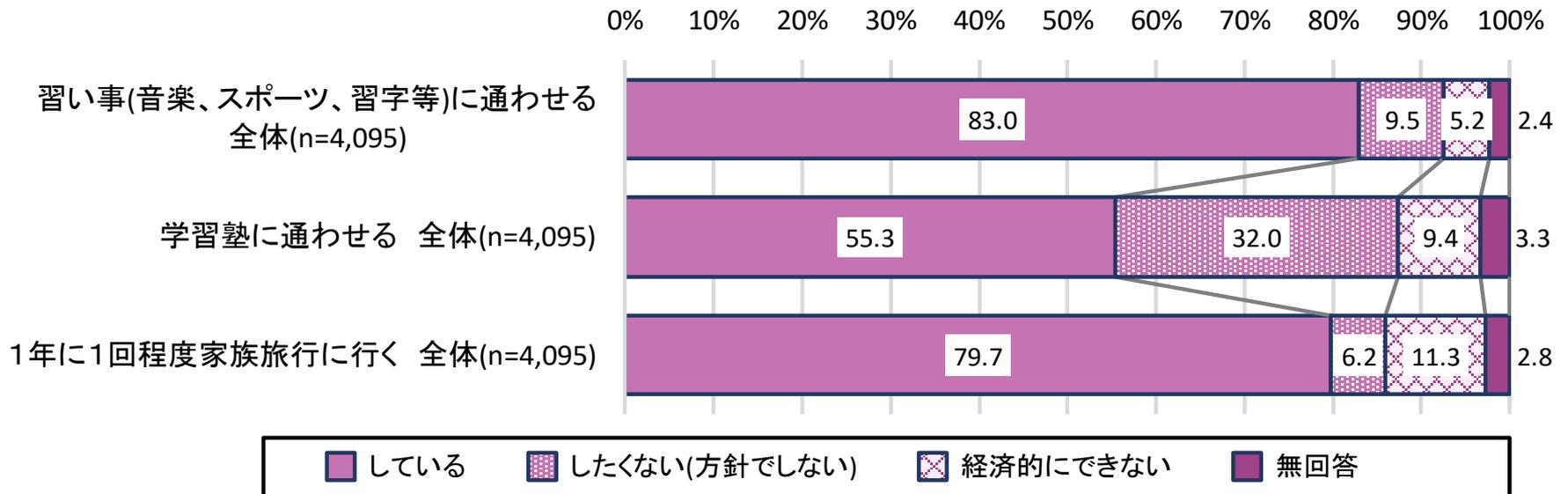
- 子どもの体験に関連して「ない(金銭的な理由で)」と回答した割合は、「博物館・科学館・美術館などに行く」かについて全体では2.1%、「キャンプやバーベキューに行く」かについて全体では2.8%、「スポーツ観戦や劇場に行く」かについて全体では3.5%であった

2-(1) 子どもの体験の状況

生活
困難層
判定要素

柱1
経験・
学力

子どもの体験の状況 【小5保護者Q31】



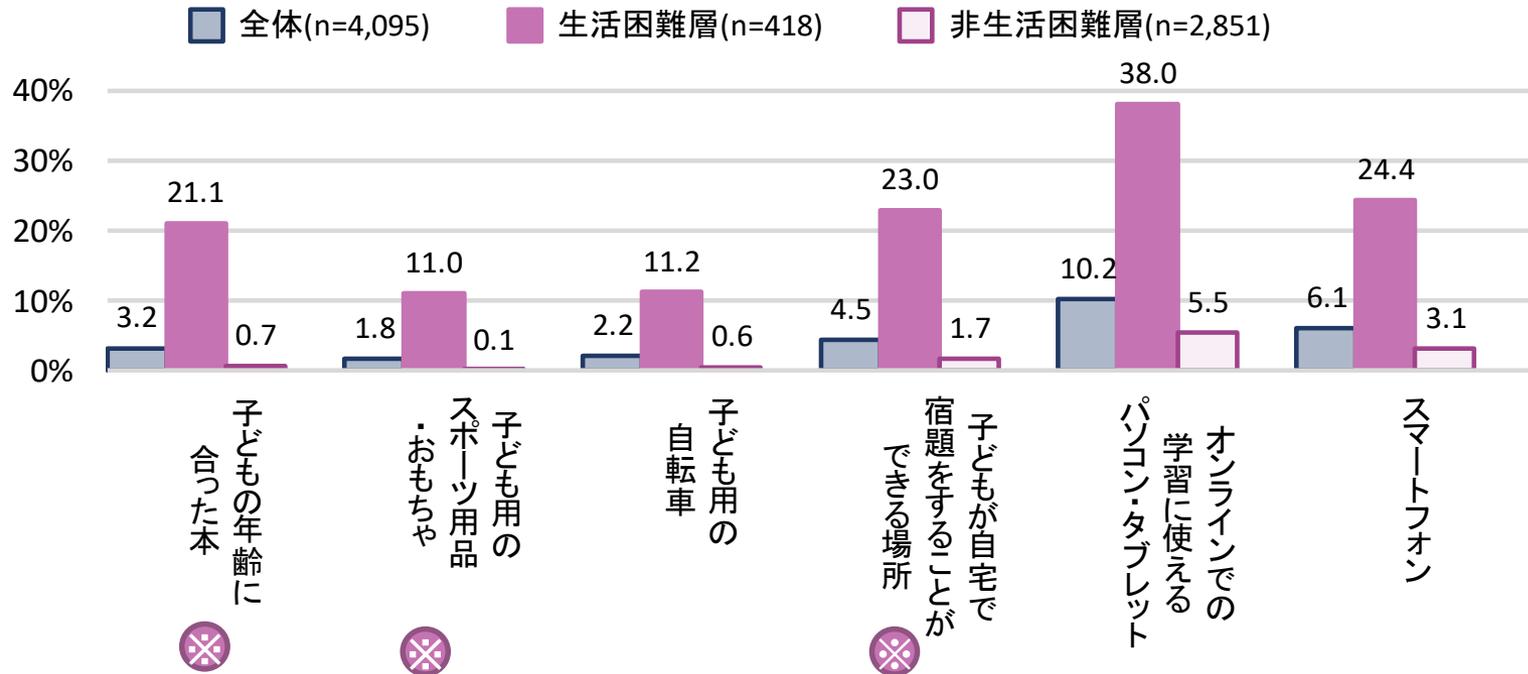
- 子どもの体験に関連して「経済的にできない」と回答した割合は、「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる」が全体では5.2%、「学習塾に通わせる」が全体では9.4%、「1年に1回程度家族旅行に行く」が全体では11.3%であった

2-(1)子どもの体験・学習環境

生活
困難層
判定要素

柱1
経験・
学力

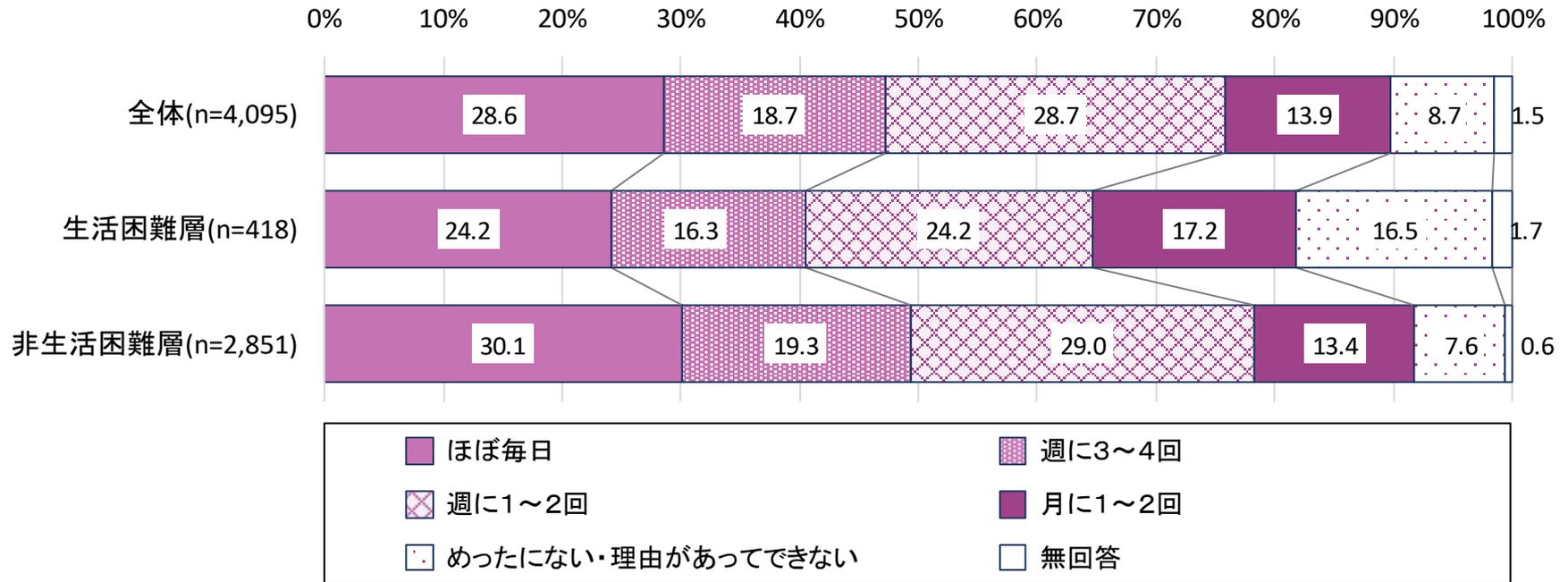
経済的理由のために世帯にないもの【小5保護者Q32】



- 経済的理由のために世帯にないものを尋ねたところ、生活困難層では、「オンラインでの学習に使えるパソコン・タブレット」が38.0%、「スマートフォン」が24.4%、「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」が23.0%と回答

2-(1) 保護者の教育に関する関与

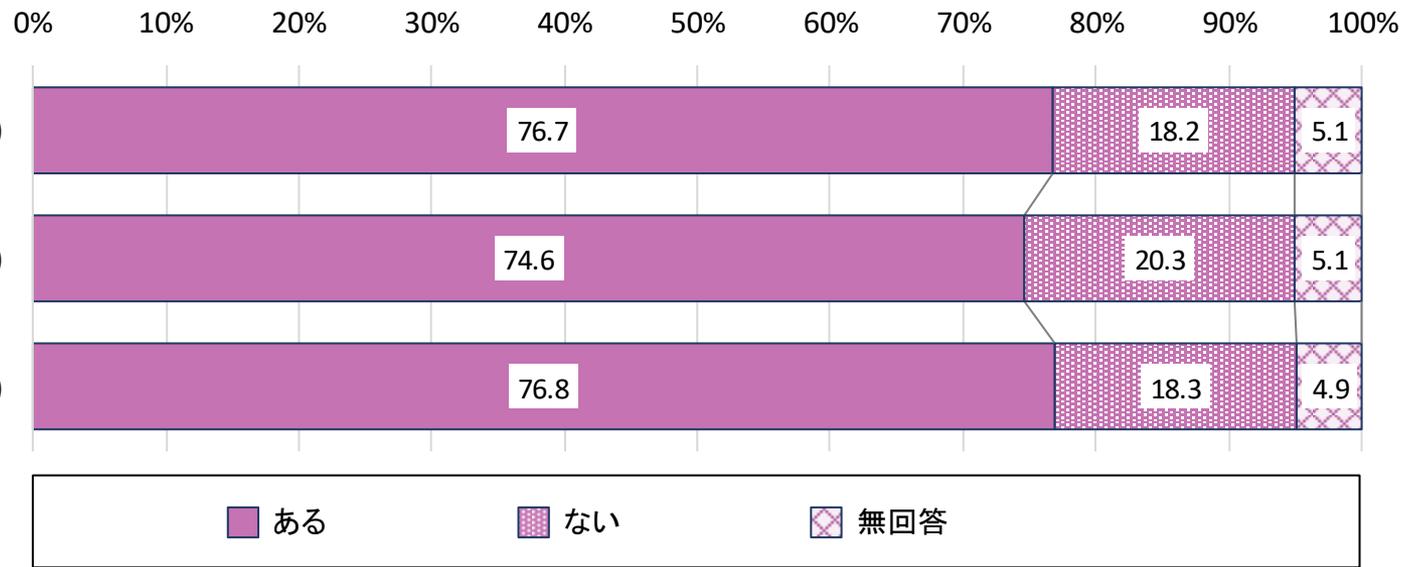
お子さんの勉強をみること【小5保護者Q22A】



- 家庭でお子さんの勉強をみることが「めったにない・理由があってできない」と回答した割合は、全体では8.7%、生活困難層では16.5%

2-(1) 子どもの将来の夢の有無

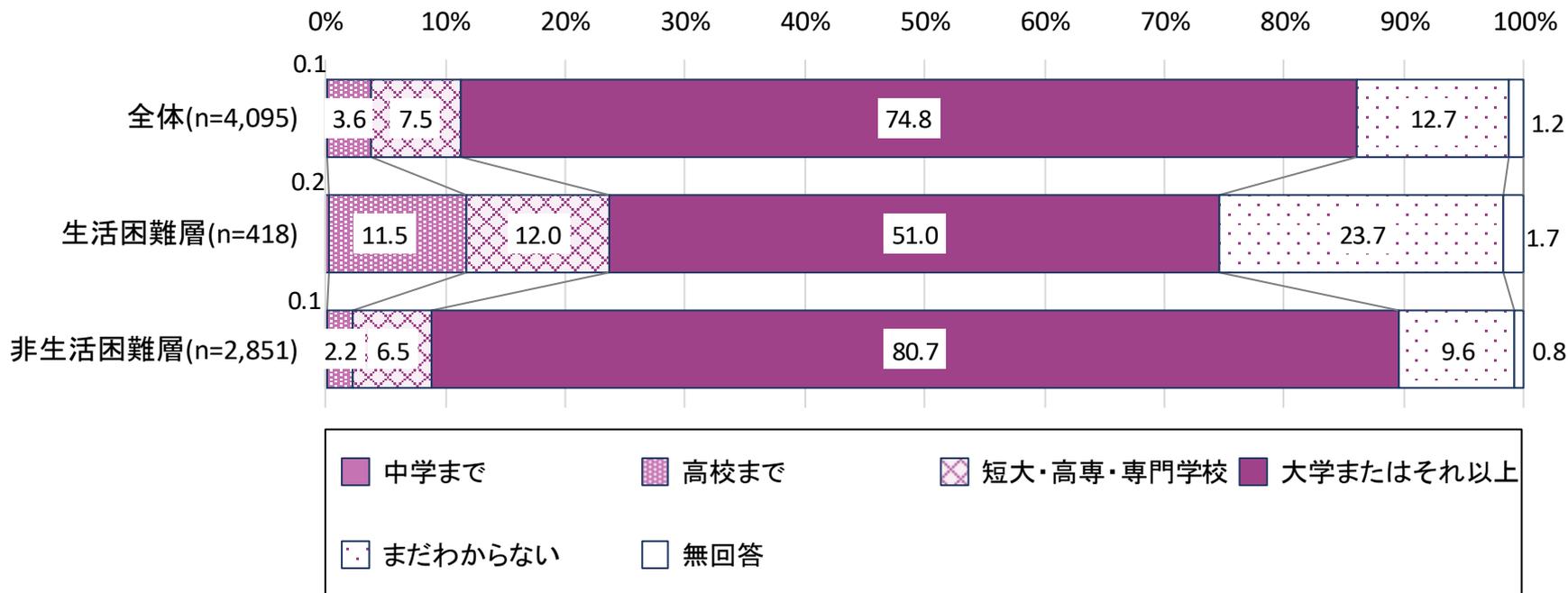
将来の夢の有無【小5子どもQ27】



- 将来のゆめが「ある」と回答した割合は、全体では76.7%
- 前回調査(全体)と比較すると、将来のゆめが「ある」と回答した割合が約5ポイント低下

2-(1)子どもへの進学期待

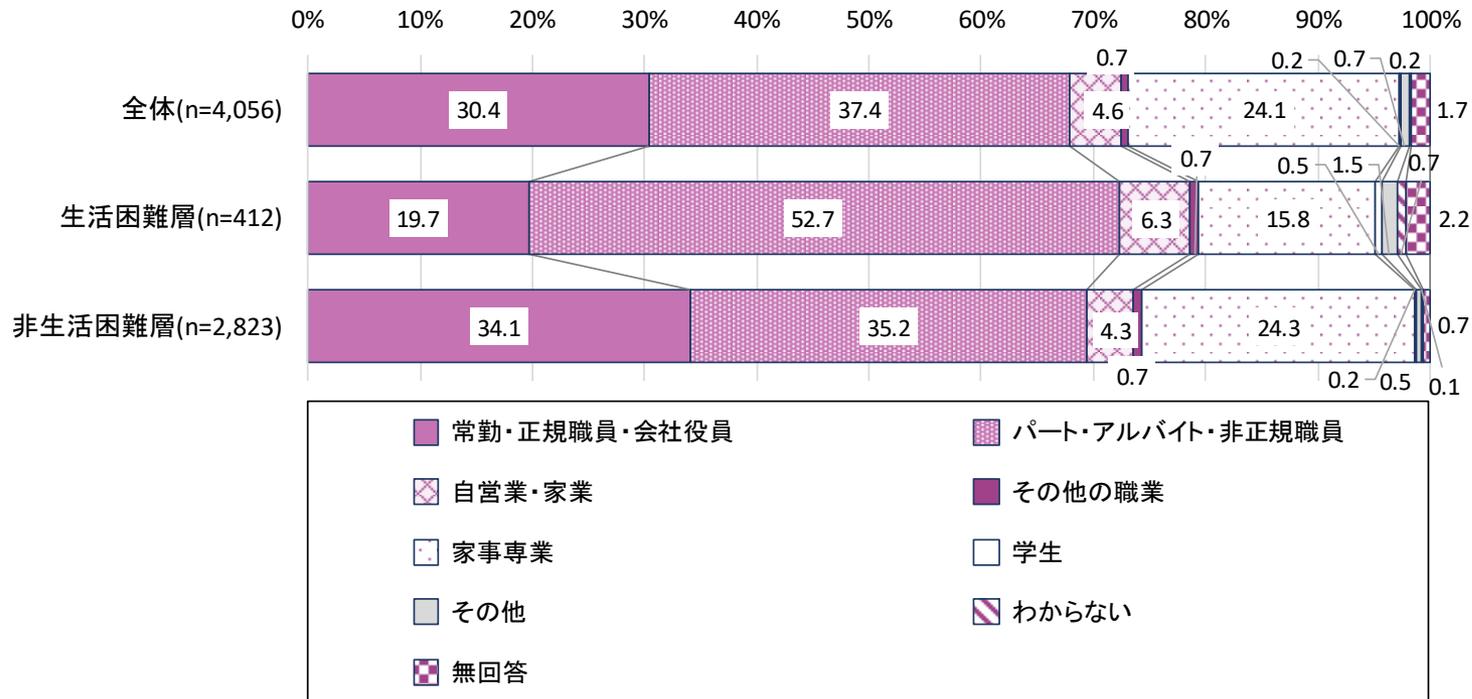
子どもへの進学期待【小5保護者Q13】



- お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいか尋ねた設問に、「大学またはそれ以上」と回答した割合は、全体では74.8%、生活困難層では51.0%
- 前回調査(全体)と比較すると、「大学またはそれ以上」の割合が2.5ポイント上昇

2-(2) 保護者の就業状況

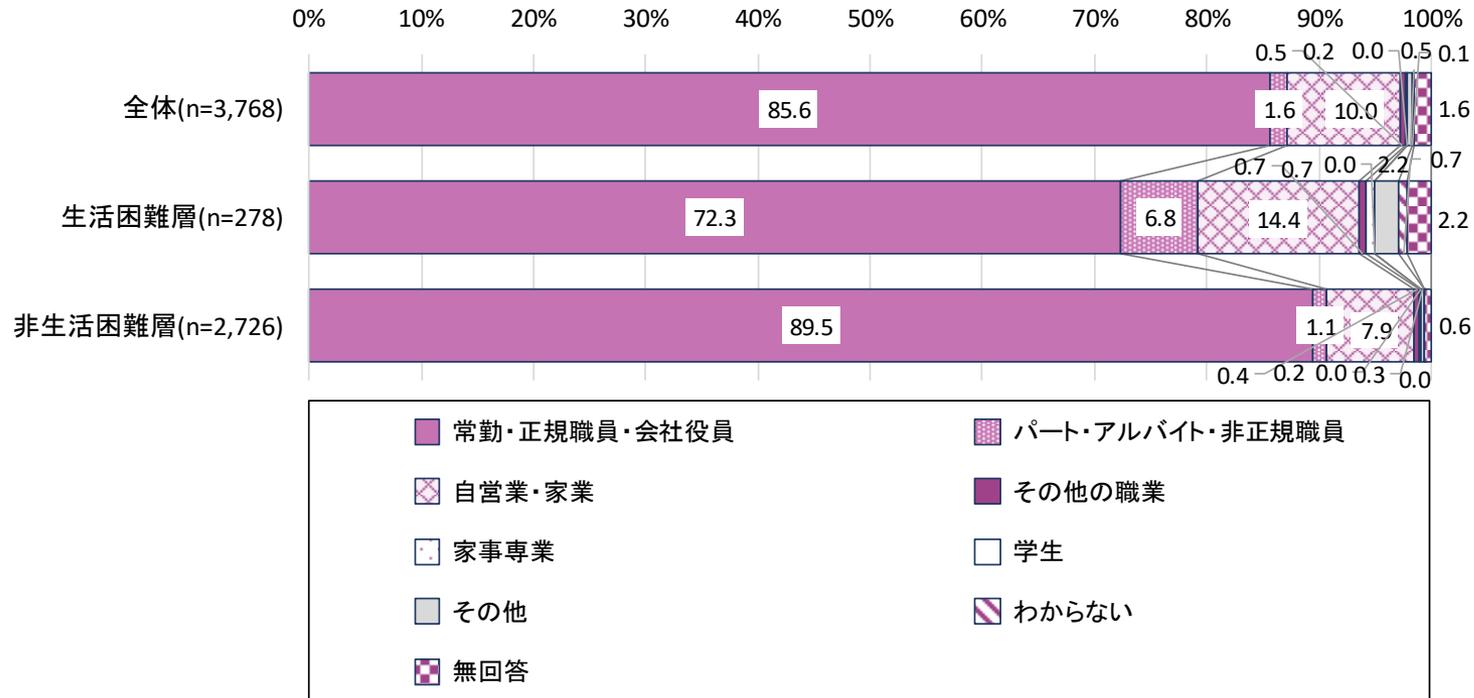
現在の母親の職業【小5保護者Q9-①-(B)】



- 母親の現在の職業を「常勤・正規職員・会社役員」と回答した割合は全体では30.4%、生活困難層で19.7%、「パート・アルバイト・非正規職員」と回答した割合は、全体では37.4%、生活困難層では52.7%

2-(2) 保護者の就業状況

現在の父親の職業【小5保護者Q9-②-(B)】



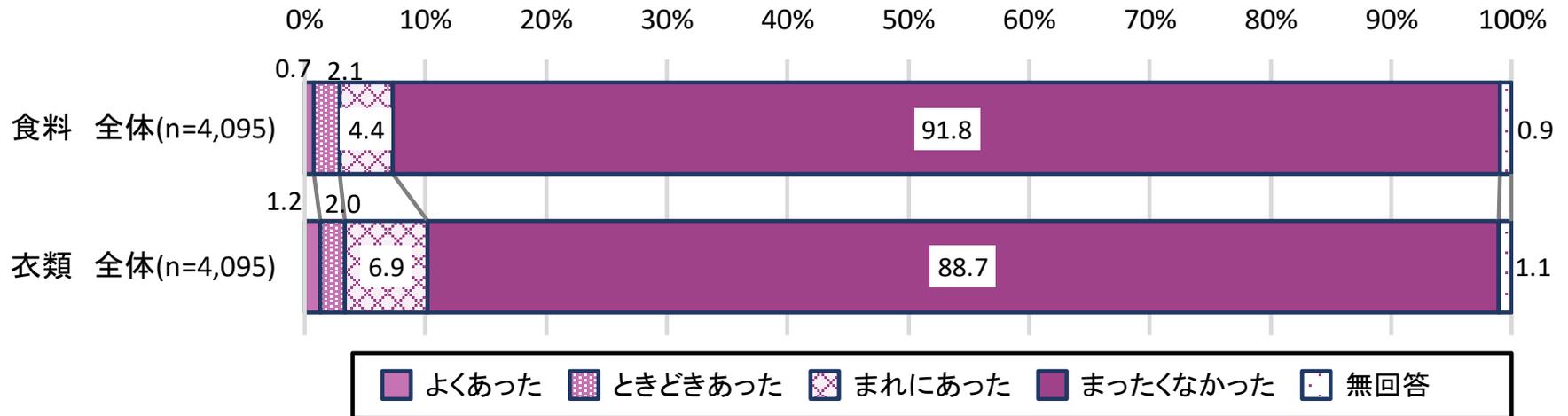
- 父親の現在の職業を「常勤・正規職員・会社役員」と回答した割合は、全体で85.6%、生活困難層で72.3%、「パート・アルバイト・非正規職員」と回答した割合は、全体では1.6%、生活困難層では6.8%

2-(2) 物質的・経済的困難

生活
困難層
判定要素

柱2
生活・
健康

過去1年に必要とする食料・衣類が買えなかった経験【小5保護者Q27、Q28】



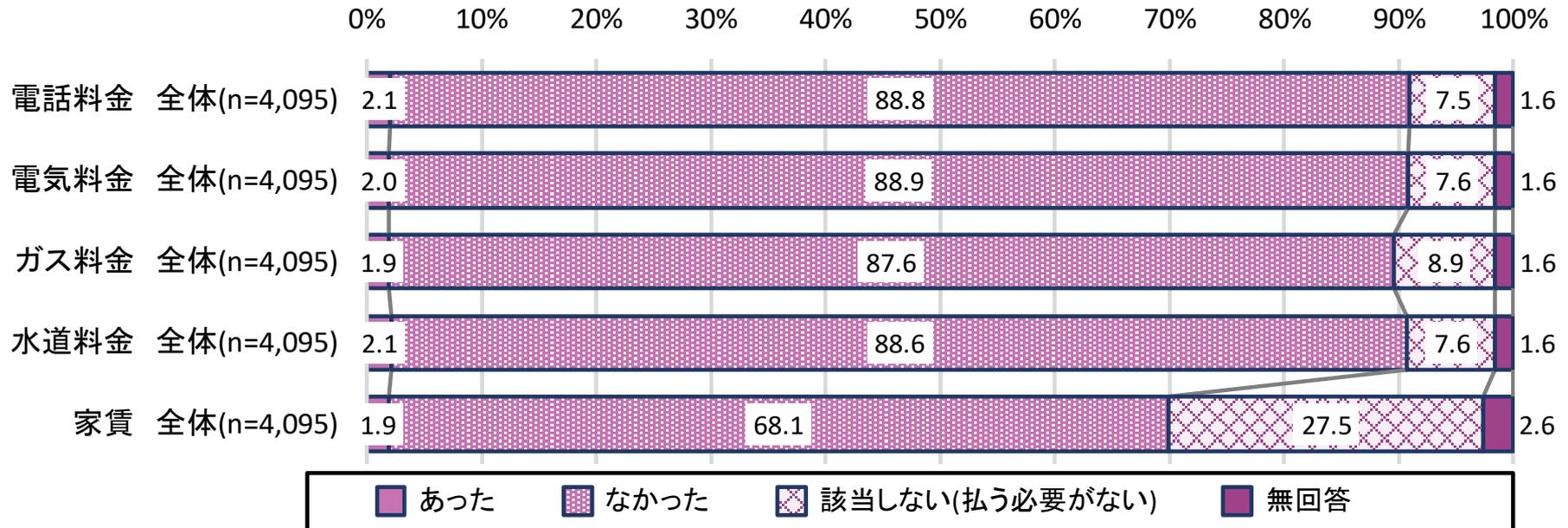
- 過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことが「よくあった」「ときどきあった」という回答の割合を合わせると、全体では2.8%、衣類が買えないことが「よくあった」「ときどきあった」という回答の割合を合わせると全体では3.2%
- 前回調査(全体)と比較すると、「まったくなかった」が食料・衣類とも約7ポイント上昇

2-(2) 物質的・経済的困難

生活
困難層
判定要素

柱2
生活・
健康

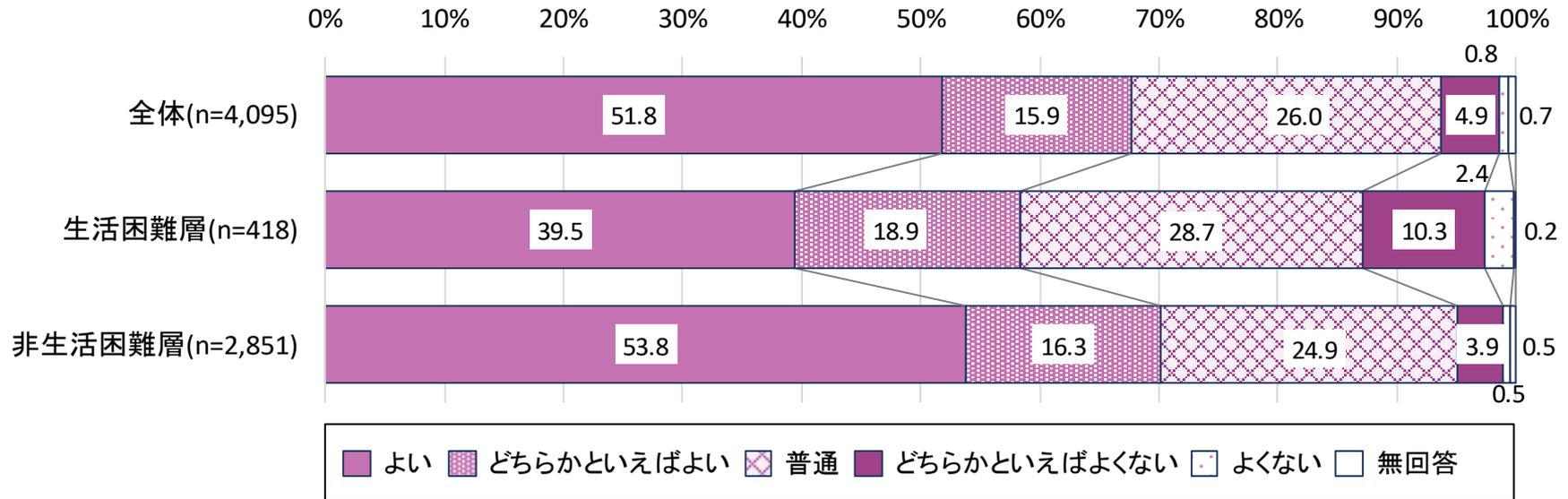
公共料金等不払いの経験【小5保護者Q29】



- 過去1年間に、経済的な理由により「電話料金」「電気料金」「ガス料金」「水道料金」「家賃」が支払えないことが「あった」と回答した割合はそれぞれ約2%
- 前回調査結果(全体)と比較すると、「あった」の回答割合が低くなっていた

2-(2) 保護者の心身の健康

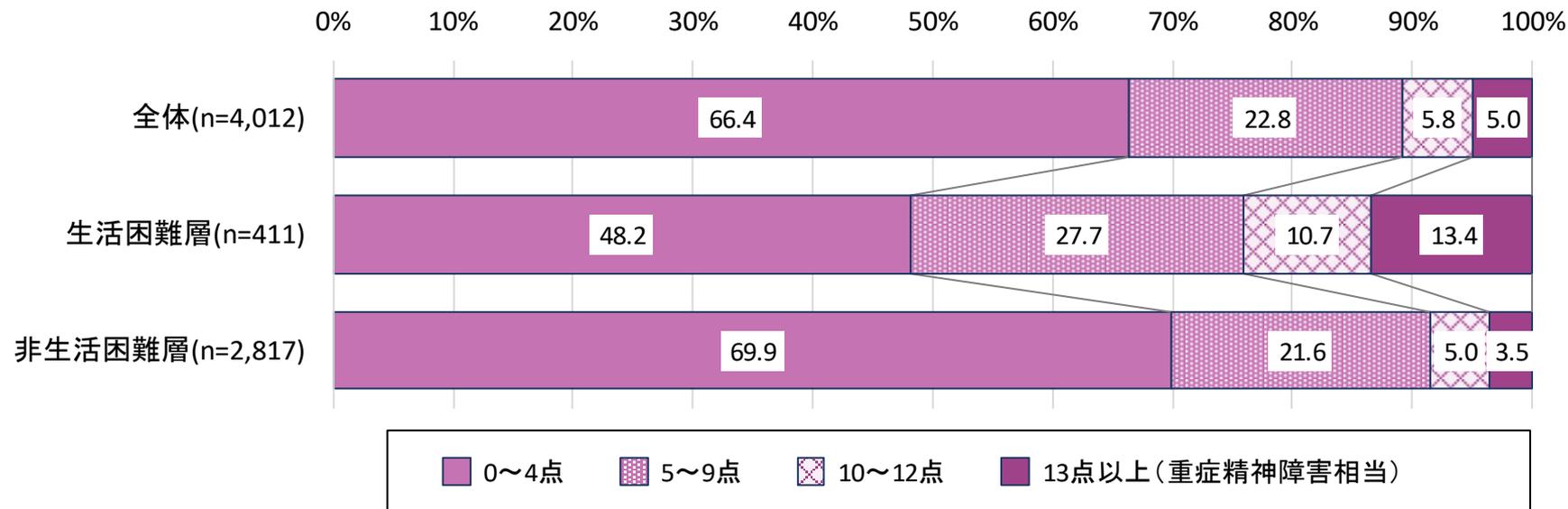
保護者の健康状態【小5保護者Q14】



- 回答者(子どもの保護者)の健康状態が「よい」「どちらかといえばよい」と回答した割合を合わせると、全体では67.7%、生活困難層では58.4%

2-(2) 保護者の心身の健康

保護者の抑うつ傾向(K6)【小5保護者Q16】



- 回答者のうつ傾向を測る指標(K6)を算出したところ、全体では「10~12点」が5.8%、「13点以上(重症精神障害相当)」が5.0%
- 生活困難層では、「10~12点」が10.7%、「13点以上(重症精神障害相当)」が13.4%



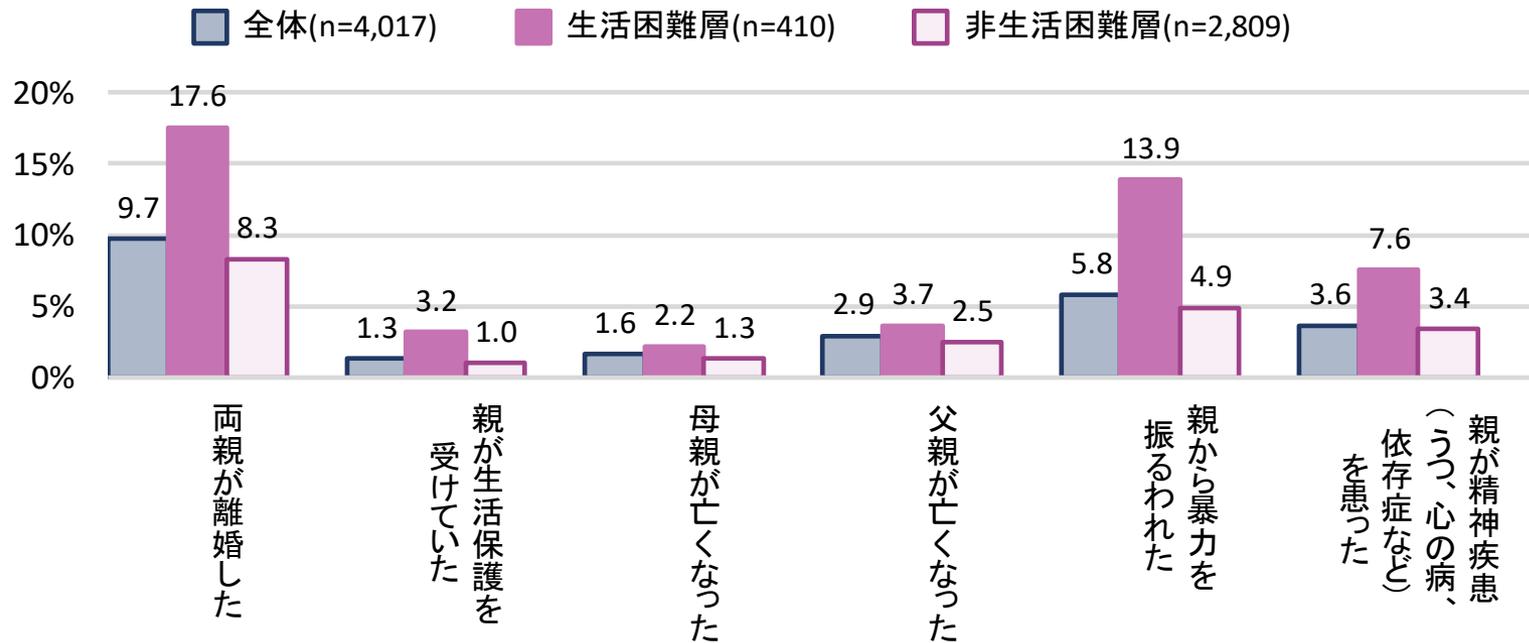
解説

うつ傾向の判定方法(K6)

- 子どもの生活実態調査(保護者票)の問16、ひとり親家庭調査の問18のA~Fの6つの設問を使用して判定
- 6つの設問は、ここ1か月について、「自分が神経過敏になっていると感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわしたり、落ちつきなく感じたりしましたか」「気分が沈みこんで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」の6項目それぞれについて、「まったくない」を0点、「少しだけ」を1点、「ときどき」を2点、「たいてい」を3点、「いつも」を4点とし、すべてを足し上げた0点から24点の指標
- 東京都健康福祉局(2017)「東京都子供の生活実態調査報告書」では、5点以上を「心理的ストレス反応相当」、9点以上および10点以上を「気分・不安障害相当」、13点以上を「重症精神障害相当」としている。

2-(2) 保護者が成人する前の体験

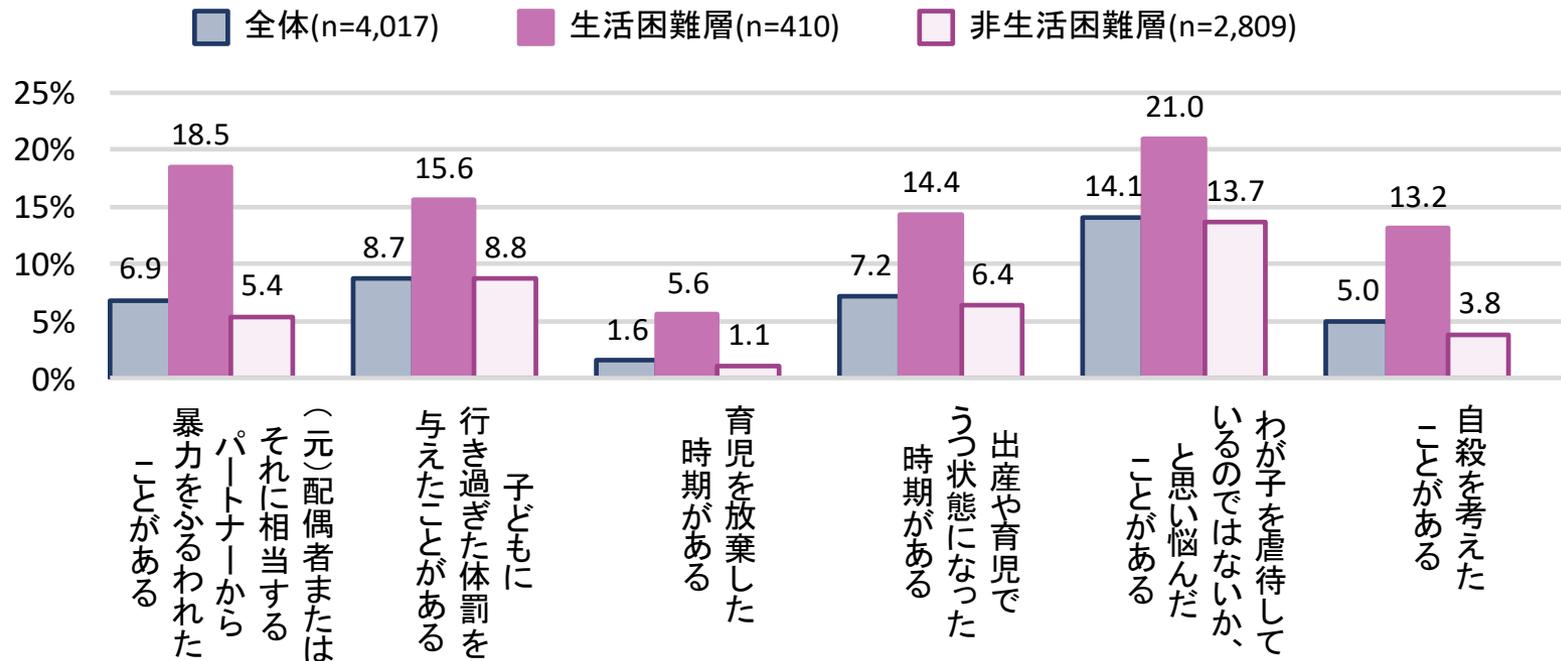
保護者が成人する前の体験【小5保護者Q38】



- 保護者の「両親が離婚した」のは、全体では9.7%、生活困難層では17.6%
- 保護者が「親から暴力を振るわれた」のは、全体では5.8%、生活困難層では13.9%
- 保護者の「親が精神疾患を患った」のは、全体では3.6%、生活困難層では7.6%

2-(2) 子どもの養育

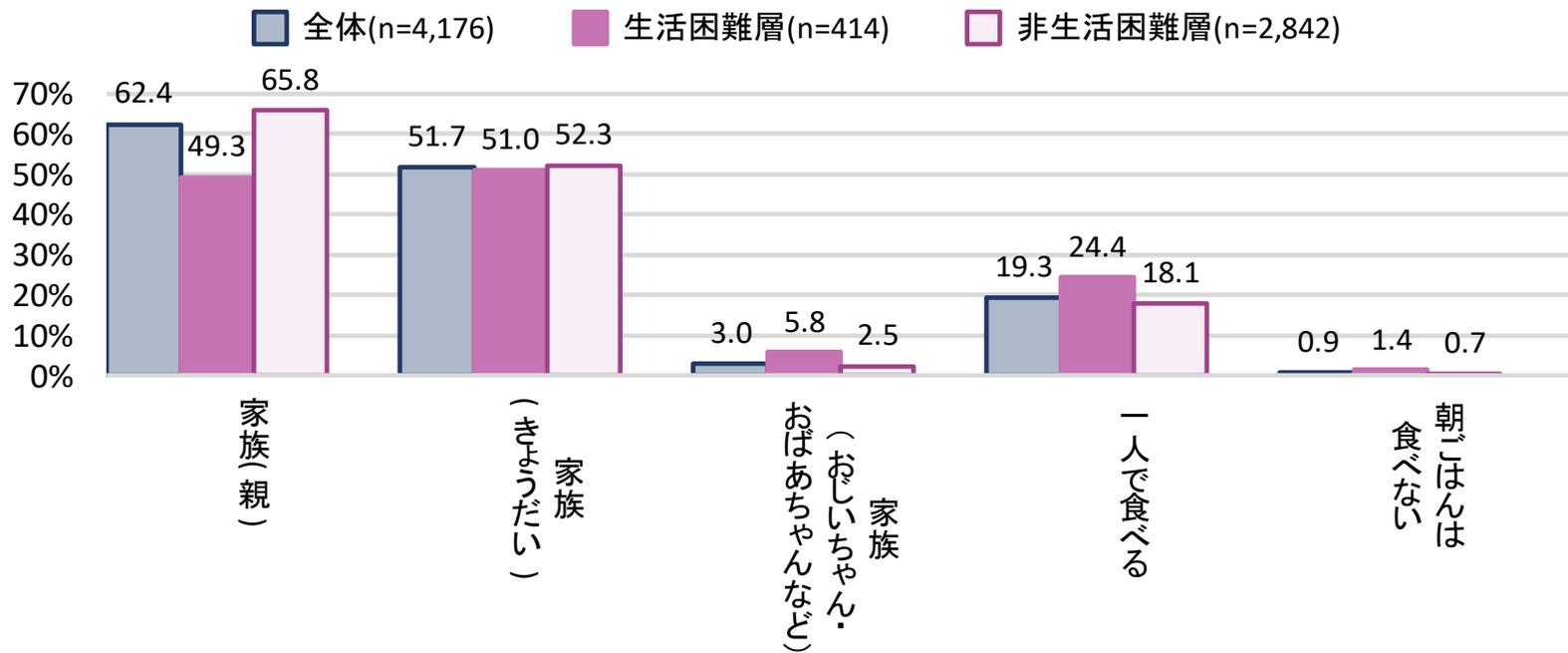
子育てに関わってから経験したこと【小5保護者Q39】



- 「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」割合は、全体では14.1%、生活困難層では21.0%
- 「(元)配偶者またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある」割合は、全体では6.9%、生活困難層では18.5%

2-(2) 子どもの生活習慣

朝ごはんを一緒に食べる相手(平日)【小5子どもQ16】



- 朝ごはんを「家族(親)」と食べる回答した割合は、全体では62.4%、生活困難層では49.3%
- 「一人で食べる」の回答割合は、全体では19.3%、生活困難層では24.4%
- 前回調査(全体)と比較すると、「一人で食べる」割合が3.7ポイント上昇

2-(2) 子どもの生活習慣／医療へのアクセス

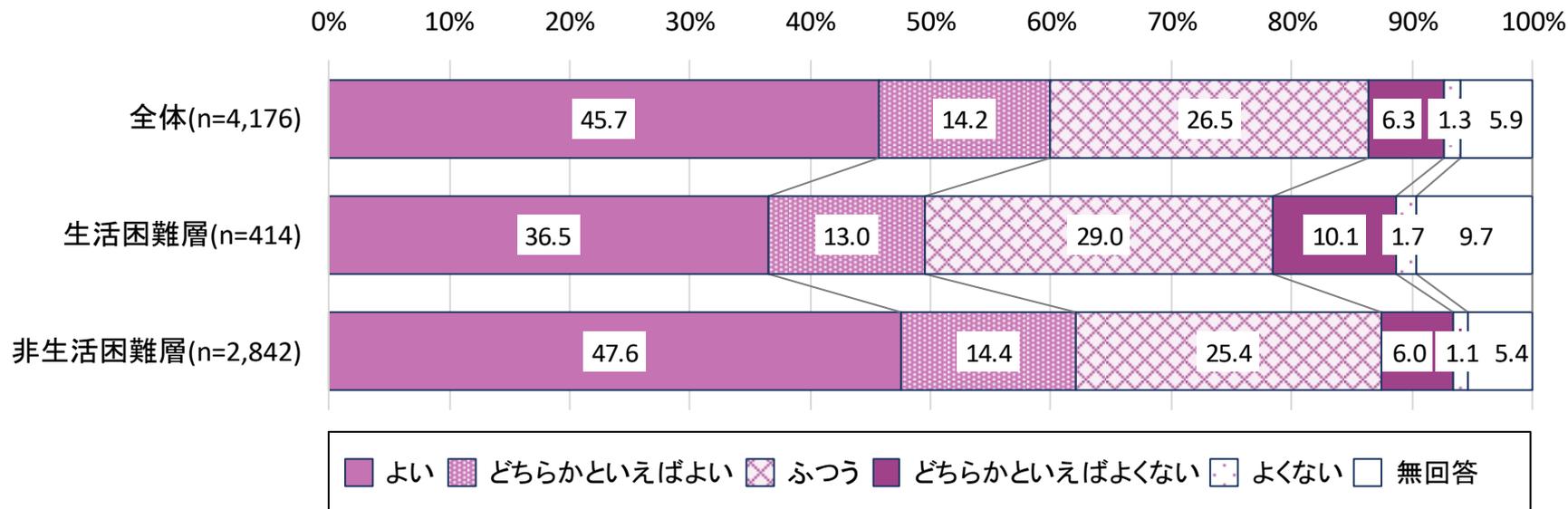
子どもの虫歯の本数【小5保護者Q12】



- 子どもの虫歯の本数を尋ねた設問に対して、1本以上の回答割合は、全体では10.8%、生活困難層では17.0%
- 前回調査(全体)と比較すると、「0本」の回答割合が2.6ポイント上昇

2-(2) 子どもの心身の健康

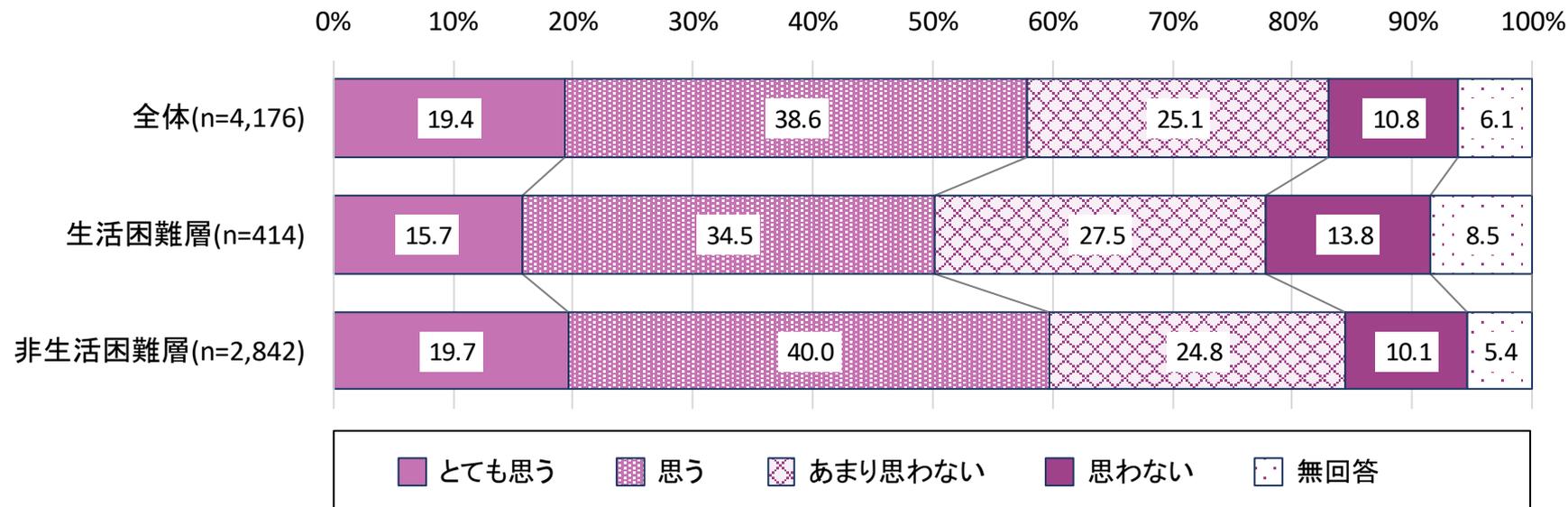
子どもの健康状態【小5子どもQ18】



- 「自分の健康状態についてどう感じていますか」と尋ねた設問に対して、「よくない」と「どちらかといえばよくない」を合わせた回答割合は、全体では7.6%、生活困難層では11.8%
- 前回調査(全体)と比較すると、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた回答割合が約3ポイント低下

2-(2) 子どもの心身の健康

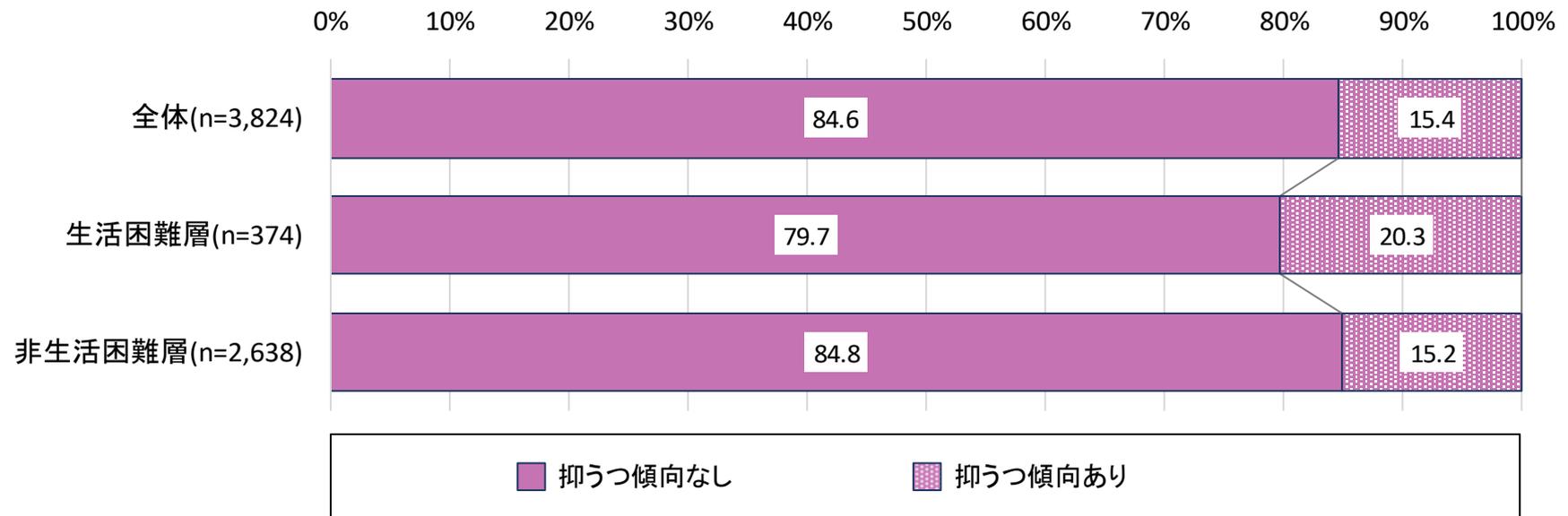
子どもの自己肯定感【小5子どもQ28B】



- 「自分は価値のある人間だと思う」と思うかに、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答割合は、全体では35.9%、生活困難層では41.3%
- 前回調査(全体)と比較すると、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答割合は3ポイント低下

2-(2) 子どもの心身の健康

DSRS-Cバールソン児童用抑うつ性尺度【小5子どもQ31(新設)】



- 最近1週間の気持ちについて「楽しみにしていることがたくさんある」から「とても退屈な気がする」までの18項目から回答者の抑うつ傾向を測る指標(DSRS-Cバールソン児童用抑うつ性尺度)を算出したところ、うつ傾向がある児童の割合は、全体では15.4%



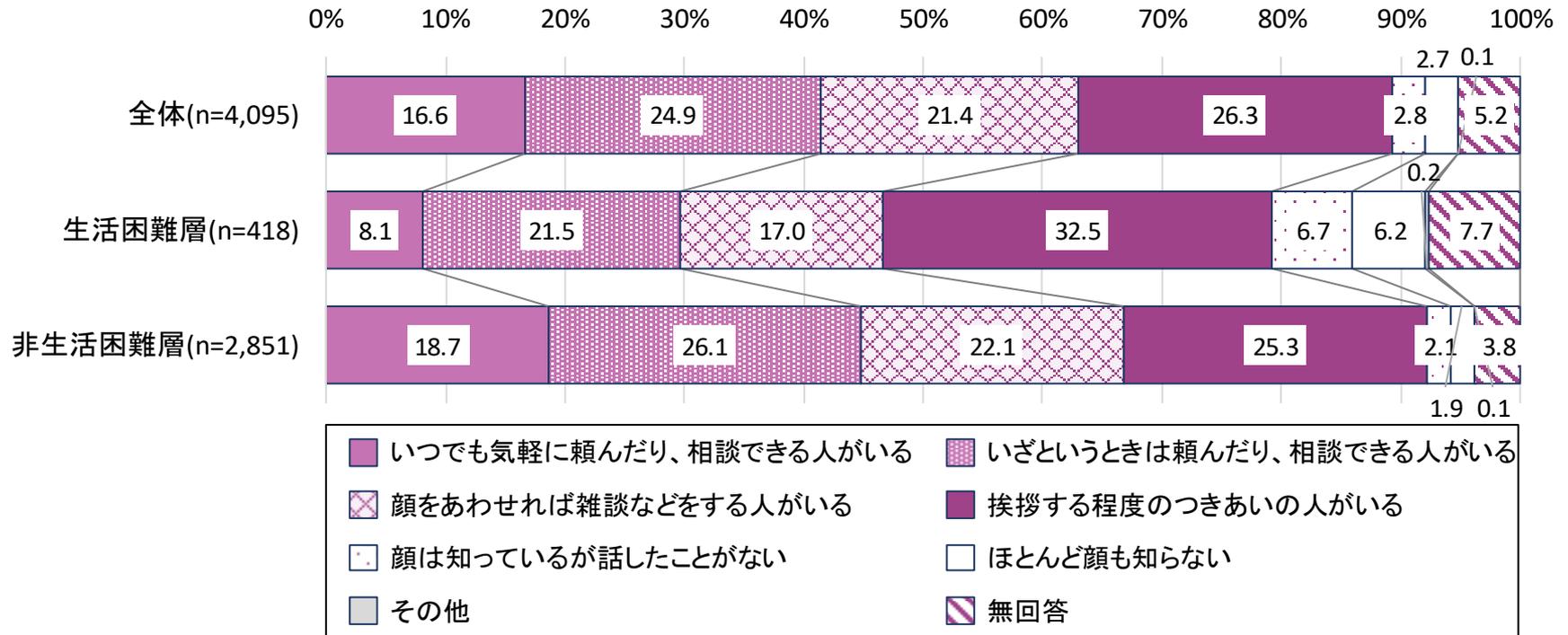
解説

DSRS-Cバールソン児童用抑うつ性尺度

- 小学5年生の子ども票の問31の設問(18項目)を使用して判定
- 18項目それぞれについて、「いつもそうだ」から「そんなことはない」の選択肢に対して0~2の点数を割り当てて指標化し、その合計が16点以上だった場合に「抑うつ傾向あり」としている。
- DSRS-Cバールソン児童用抑うつ性尺度は、「信頼性と妥当性が確認された尺度として国内外で広く用いられている」(東京都健康福祉局(2018)『東京都受託事業「子供の生活実態調査」詳細分析報告書』より)

2-(3) 保護者の近所づきあい

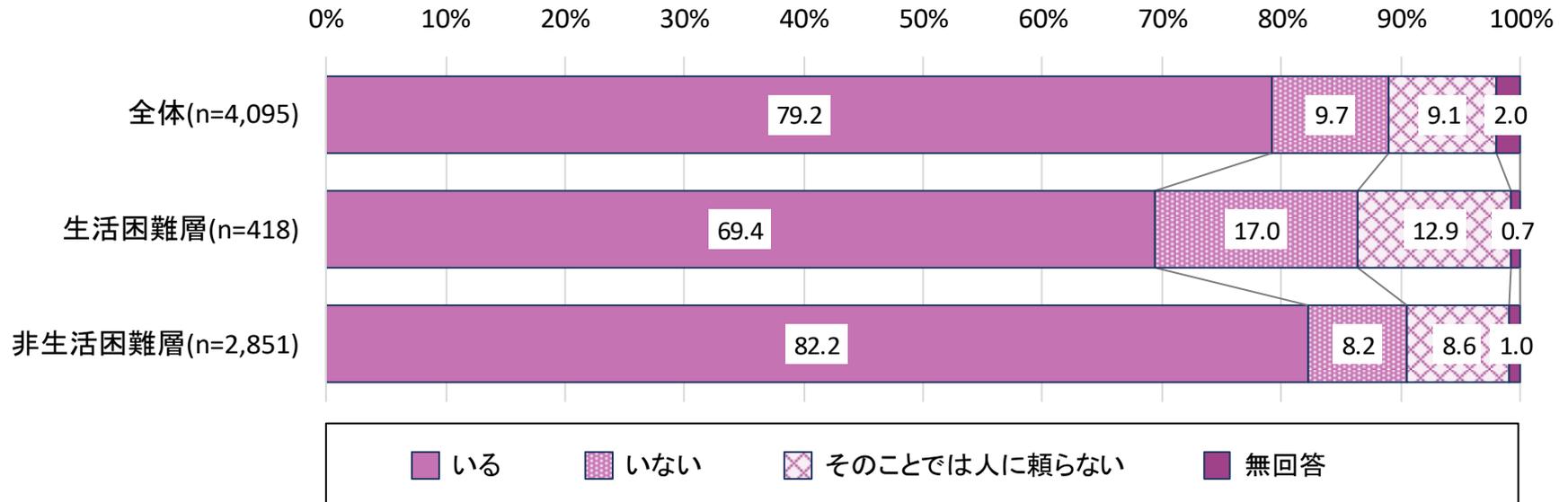
近所づきあい【小5保護者Q33(新設)】



- 近所づきあいに関して、「いつでも気軽に頼んだり、相談できる人がいる」と「いざというときは頼んだり、相談できる人がいる」を合わせた回答割合は、全体では41.5%、生活困難層では29.6%
- 「ほとんど顔も知らない」と回答した割合は、全体では2.7%、生活困難層では6.2%

2-(3) 保護者の相談相手・頼れる人

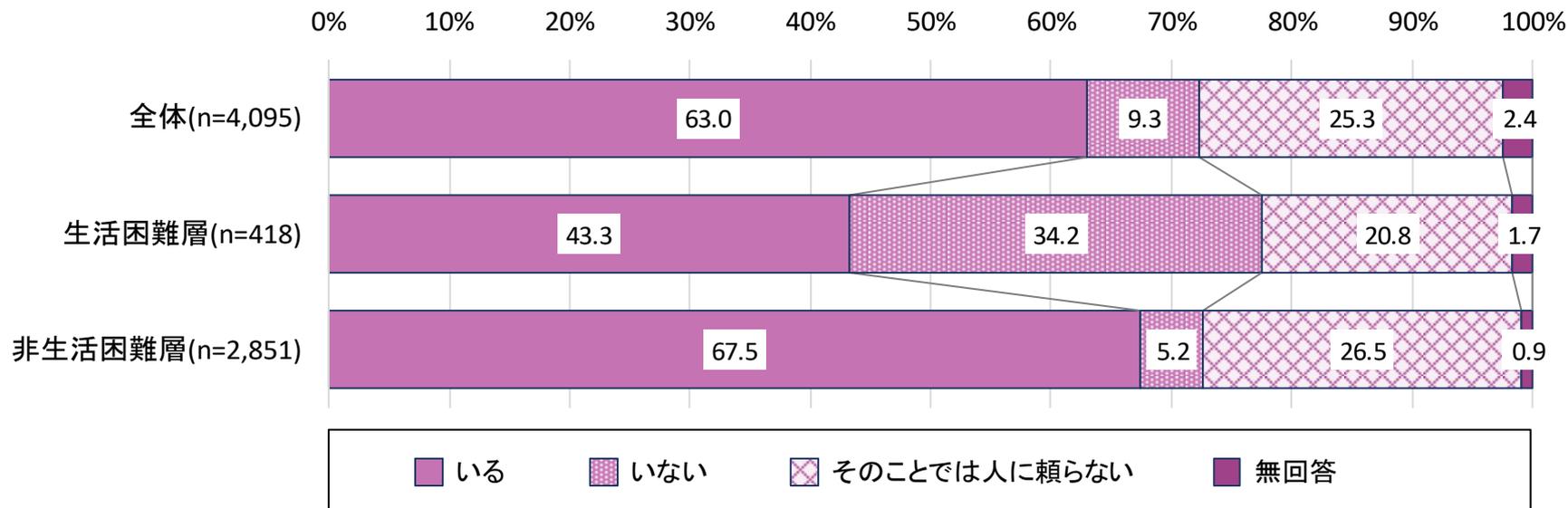
頼れる人の有無(子どもの世話や看病)【小5保護者Q35A】



- 「子どもの世話や看病」で頼れる人がいるかを尋ねた設問に対して、「いない」と回答した割合は、全体では9.7%、生活困難層では17.0%

2-(3) 保護者の相談相手・頼れる人

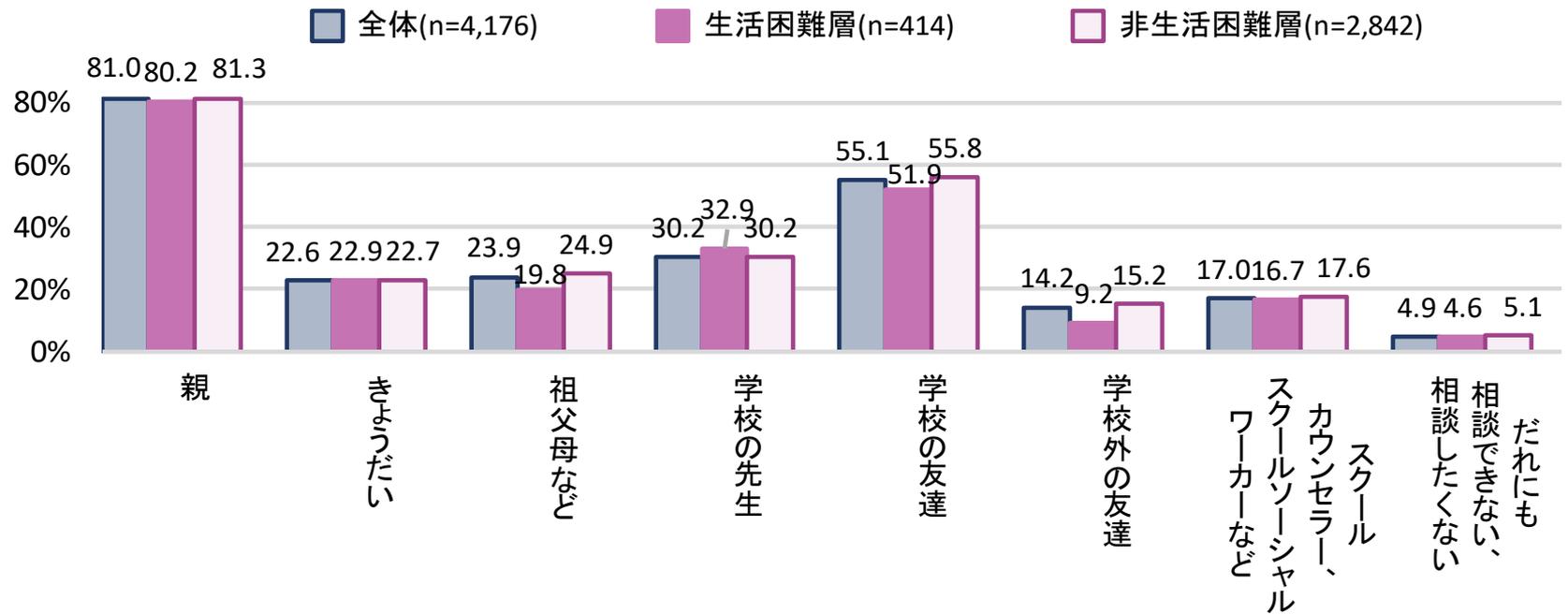
頼れる人・いざというときのお金(10万円程度)の援助【小5保護者Q35E】



- 「いざという時のお金(10万円程度)」で頼れる人がいるかを尋ねた設問に対して、「いない」と回答した割合は、全体では9.3%、生活困難層では34.2%

2-(3) 子どもの相談相手・頼れる人

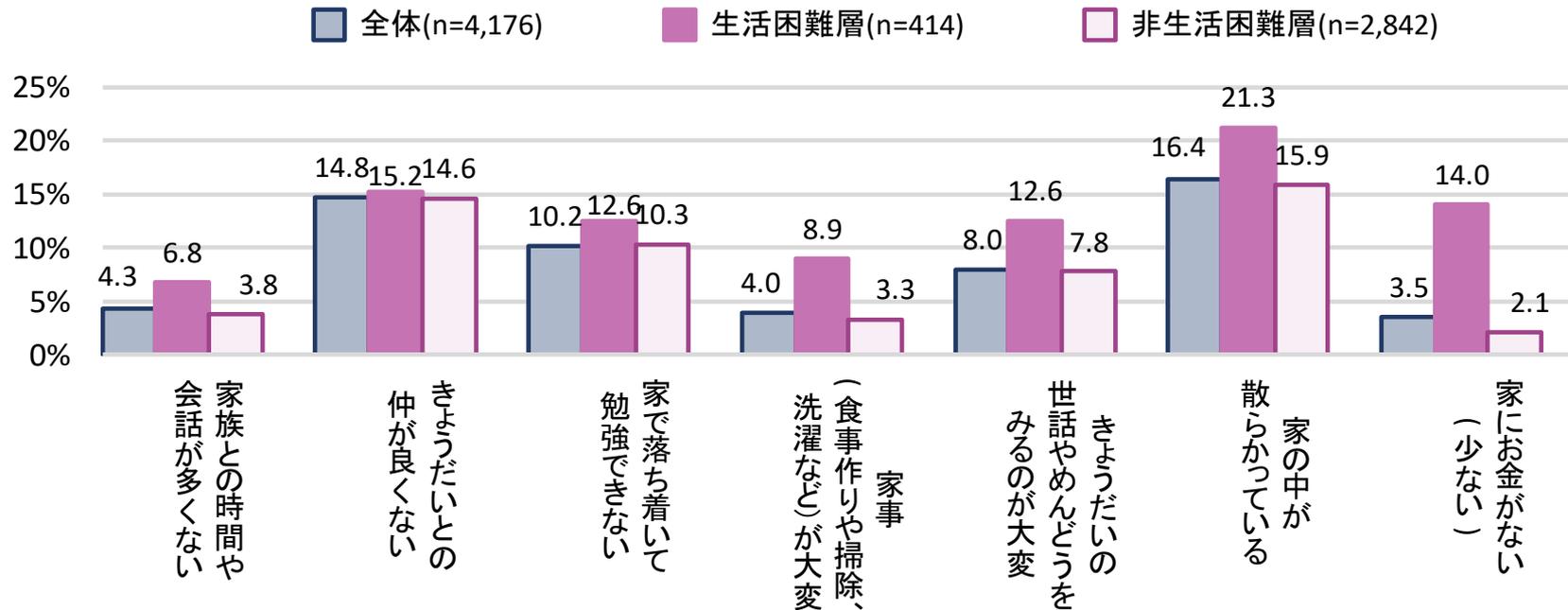
相談相手【小5子どもQ14】



- 困っていることや悩みごとを相談できると思う人として、全体では、「親」が81.0%、「学校の友達」が55.1%、「学校の先生」が30.2%
- 「だれにも相談できない、相談したくない」という回答は全体で4.9%

2-(3) 子どもの悩みごと・困りごと

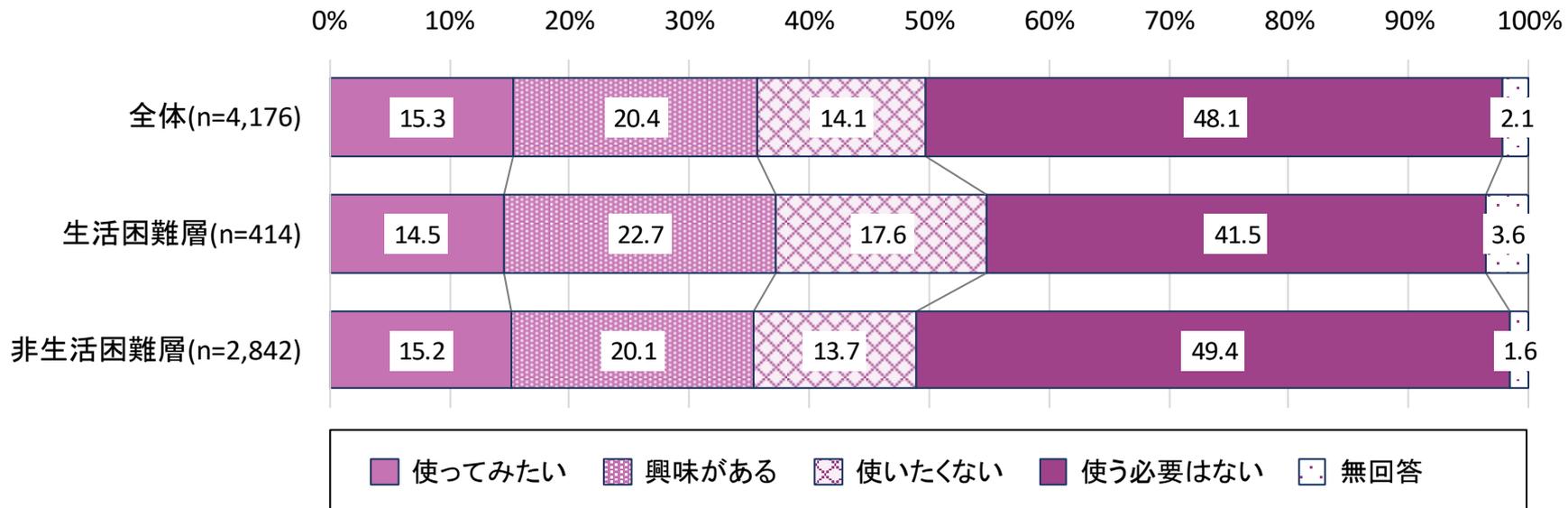
自分や家族の困りごと【小5子どもQ30(新設)】



- 困りごととして、「家の中が散らかっている」の回答は、全体では16.4%、生活困難層では21.3%
- 「きょうだいの世話やめんどうをみるのが大変」の回答は、全体では8.0%、生活困難層では12.6%
- 「家事(食事作りや掃除、洗濯など)が大変」の回答は、全体では4.0%、生活困難層では8.9%

2-(3) 支援ニーズ(子どもの利用意向)

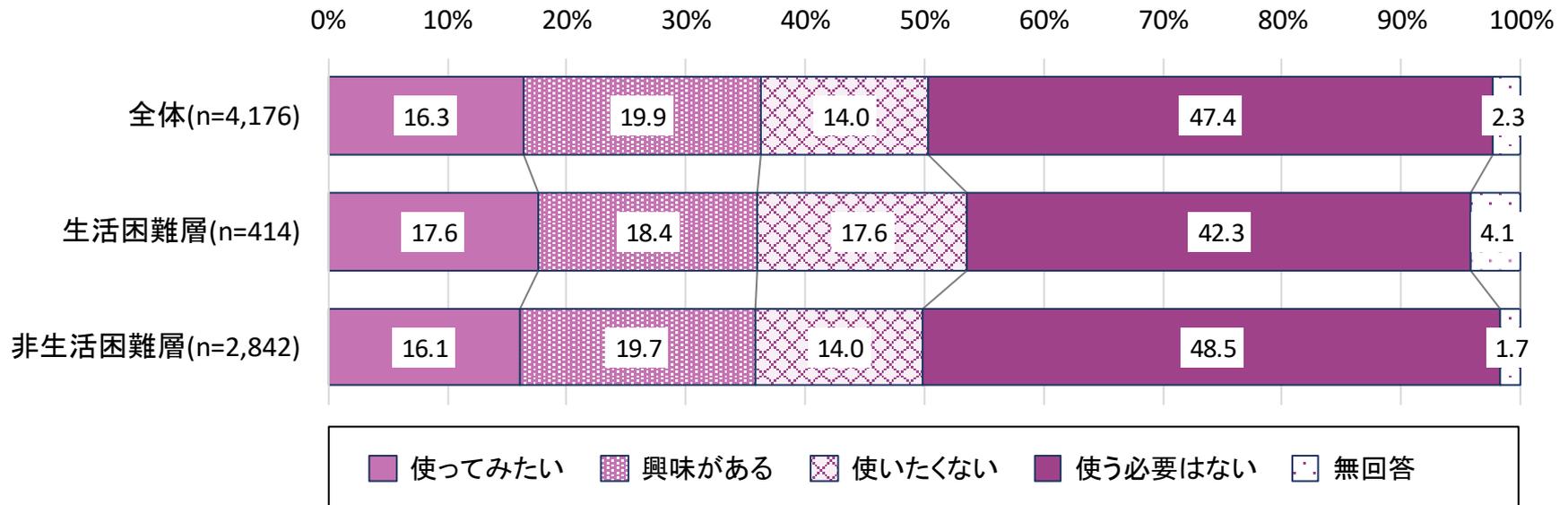
(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所【小5子どもQ32A】



- 「(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所」について、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体で35.7%
- 前回調査結果(全体)と比較すると、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は約5ポイント上昇

2-(3) 支援ニーズ(子どもの利用意向)

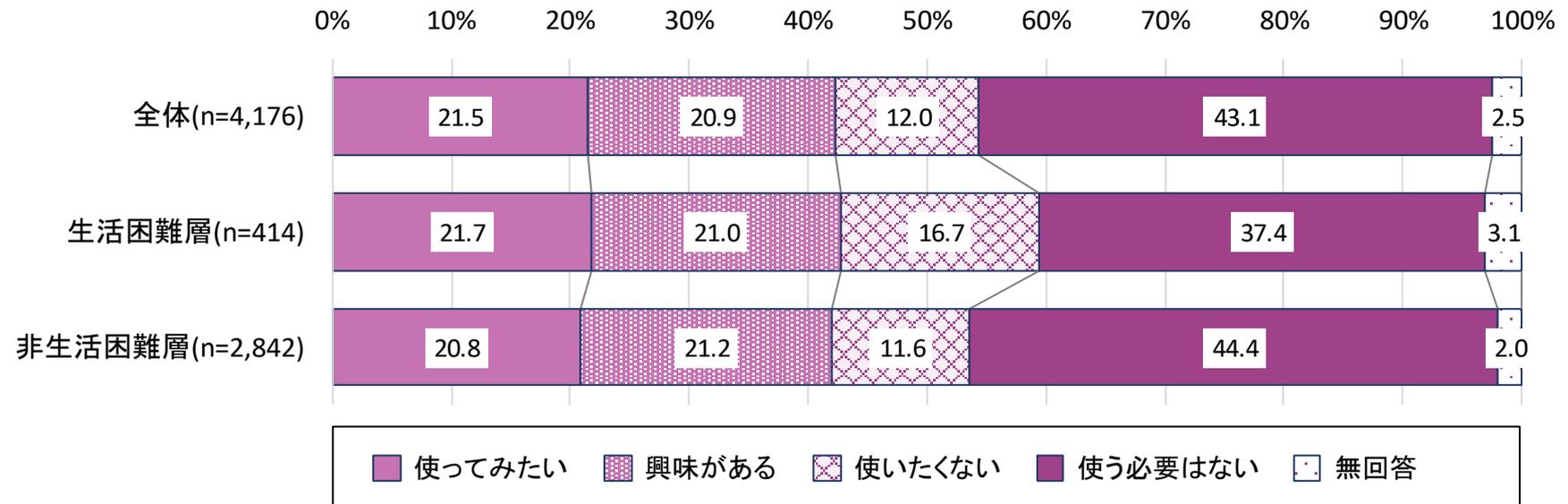
(家以外で)休日に夜までいることができる場所【小5子どもQ32B】



- 「(家以外で)休日に夜までいることができる場所」について、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体で36.2%
- 前回調査結果(全体)と比較すると、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は約6ポイント上昇

2-(3) 支援ニーズ(子どもの利用意向)

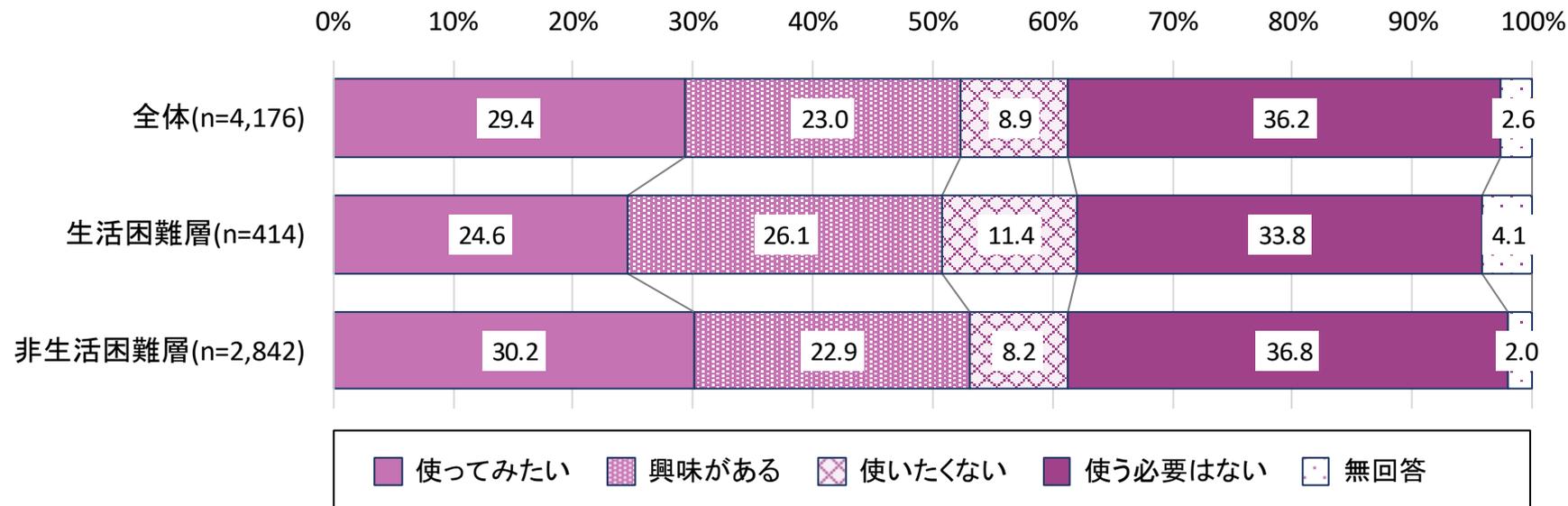
家の人がないときに夕ご飯をみんなで食べることができる場所【小5子どもQ32C】



- 「家の人がないとき、夕ご飯をみんなで食べることができる場所」について、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体では42.4%

2-(3) 支援ニーズ(子どもの利用意向)

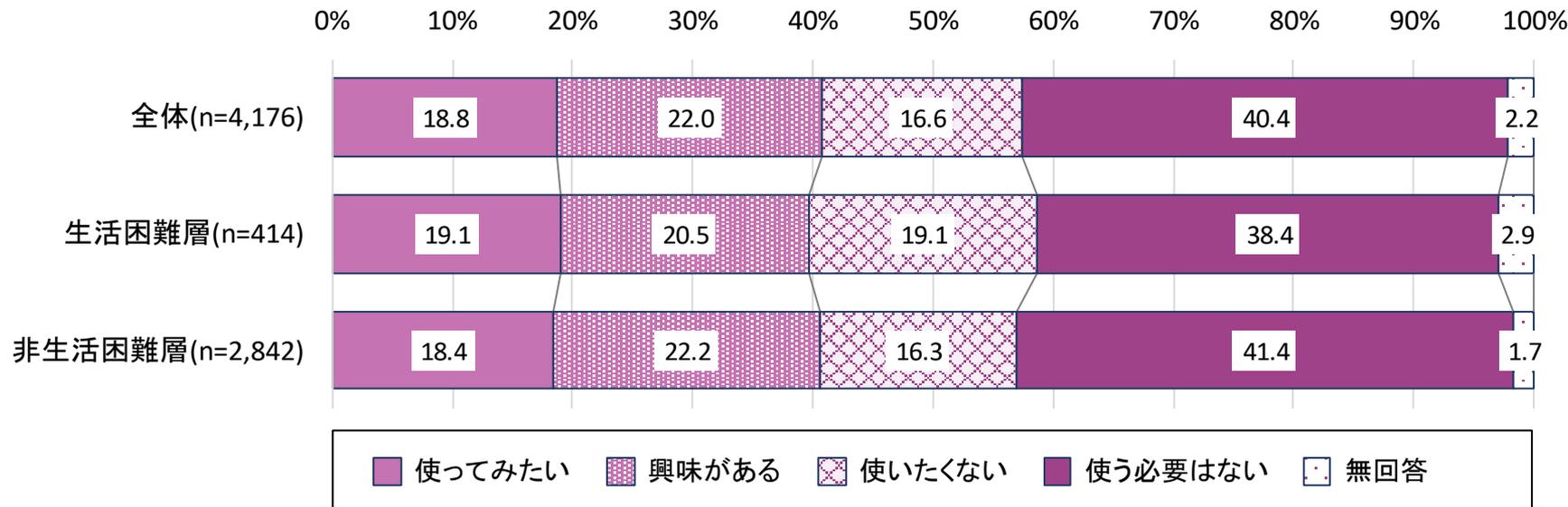
家で勉強ができないとき、静かに勉強ができる場所【小5子どもQ32D】



- 「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」について、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は全体で52.4%

2-(3) 支援ニーズ(子どもの利用意向)

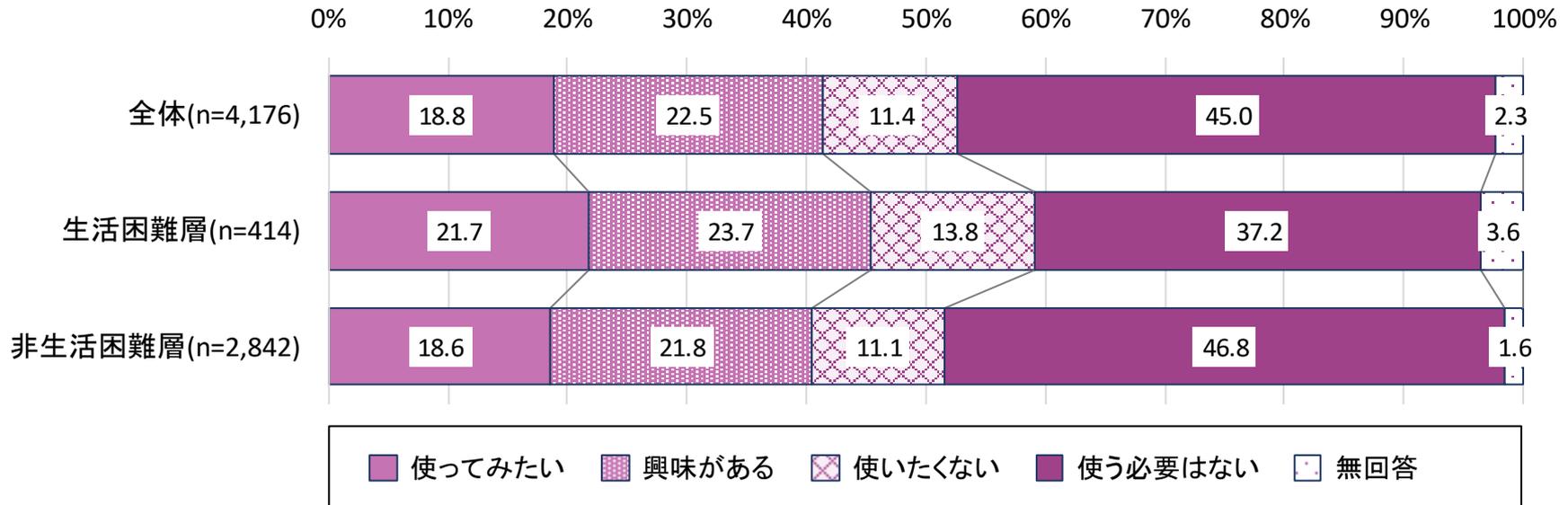
大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所【小5子どもQ32E】



- 「大学生のお兄さんやお姉さんが、勉強を無料でみてくれる場所」について、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は全体で40.8%

2-(3) 支援ニーズ(子どもの利用意向)

(学校以外で)なんでも相談できる場所【小5子どもQ32F】



- 「(学校以外で)なんでも相談できる場所」について、「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた回答割合は、全体では41.3%、生活困難層では45.4%

2-(3) 子どもの自由記述

アンケートの感想や大人に言いたいこと(自由回答)【小5子どもQ33(新設)】

順位	自由記述の分類	件数 (件)	割合 (%)
1	アンケートの感想	420	27.6%
2	新型コロナウイルス感染症	205	13.5%
3	勉強・授業・宿題	154	10.1%
4	社会問題	124	8.2%
5	子どもへの指導・かかわり方	106	7.0%
6	友達等との関係・いじめ	90	5.9%
7	学校のルール・設備・行事	84	5.5%
8	遊び、自由に関すること	78	5.1%
9	他者・社会・子どもへの配慮	77	5.1%
10	親・家族の関係	72	4.7%
11	平和・協調	70	4.6%

順位	自由記述の分類	件数 (件)	割合 (%)
12	自分の持ち物等	68	4.5%
13	社会制度・政治	67	4.4%
14	将来のこと・目標・進路	64	4.2%
15	悩み事や相談先について	57	3.8%
16	犯罪・不正	44	2.9%
16	社会・大人の理不尽さ・不満	44	2.9%
18	学校の先生	41	2.7%
19	居場所	34	2.2%
20	大人への感謝・励まし	33	2.2%
21	公園・遊び場	32	2.1%

回答者数:1,520人 意見の合計数:2,146件



3. ひとり親家庭の生活実態に関する 調査結果のポイント

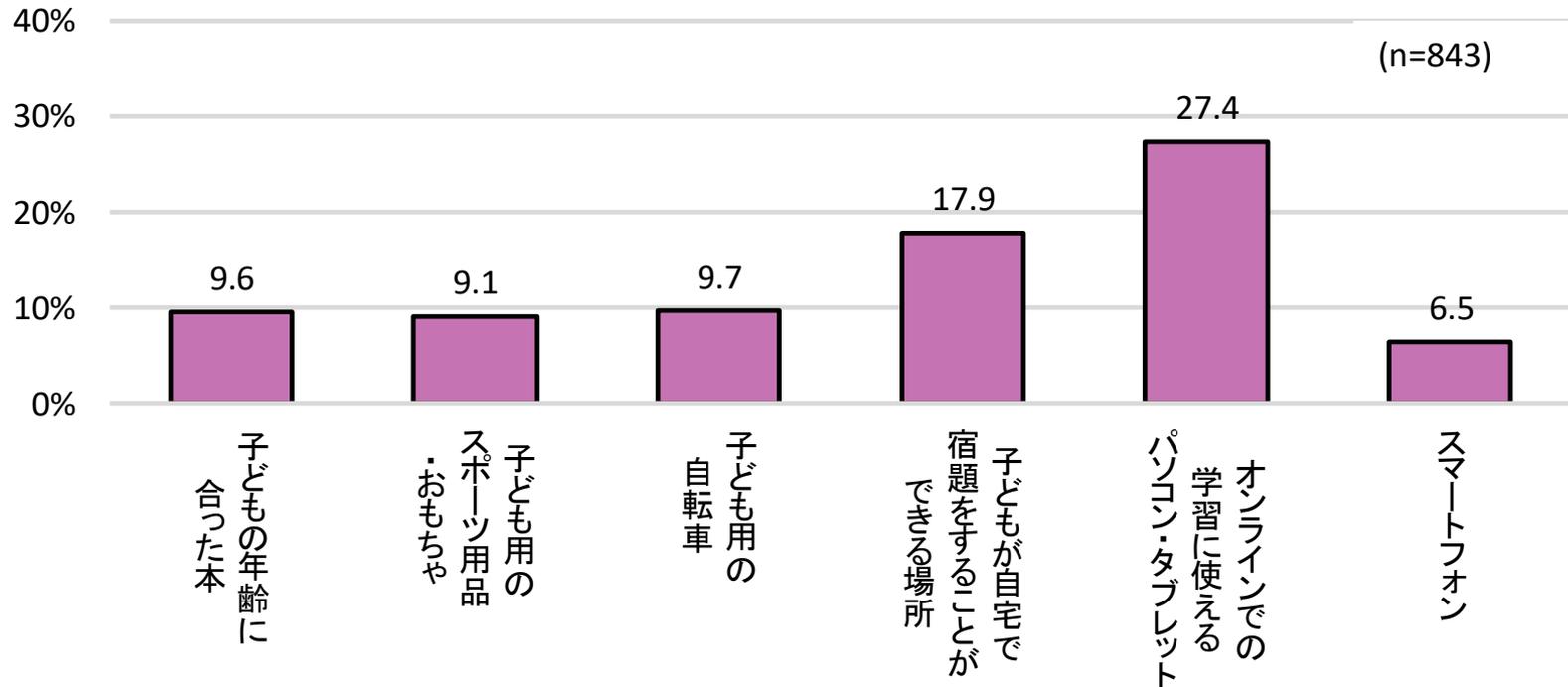
(1) 経験・学力に関連する状況

(2) 生活・健康に関連する状況

(3) 居場所・包摂に関連する状況

3-(1) 子どもの体験・学習に関する環境

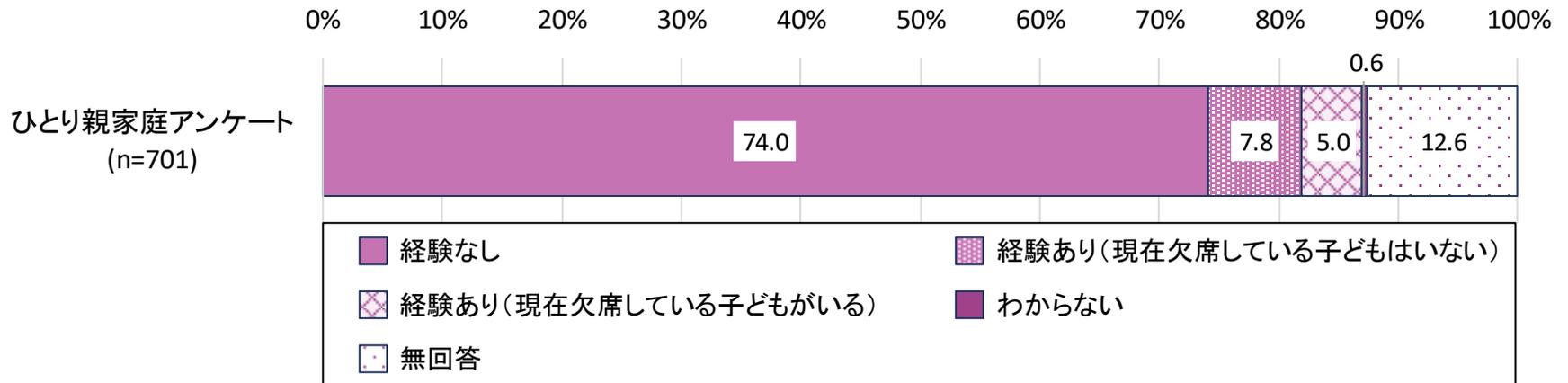
経済的理由のために世帯にないもの【ひとり親Q35】



- 経済的理由のために世帯にないものを尋ねたところ、「オンラインでの学習に使えるパソコン・タブレット端末」と回答した割合が27.4%、「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」と回答した割合が17.9%

3-(1) 子どもの不登校経験

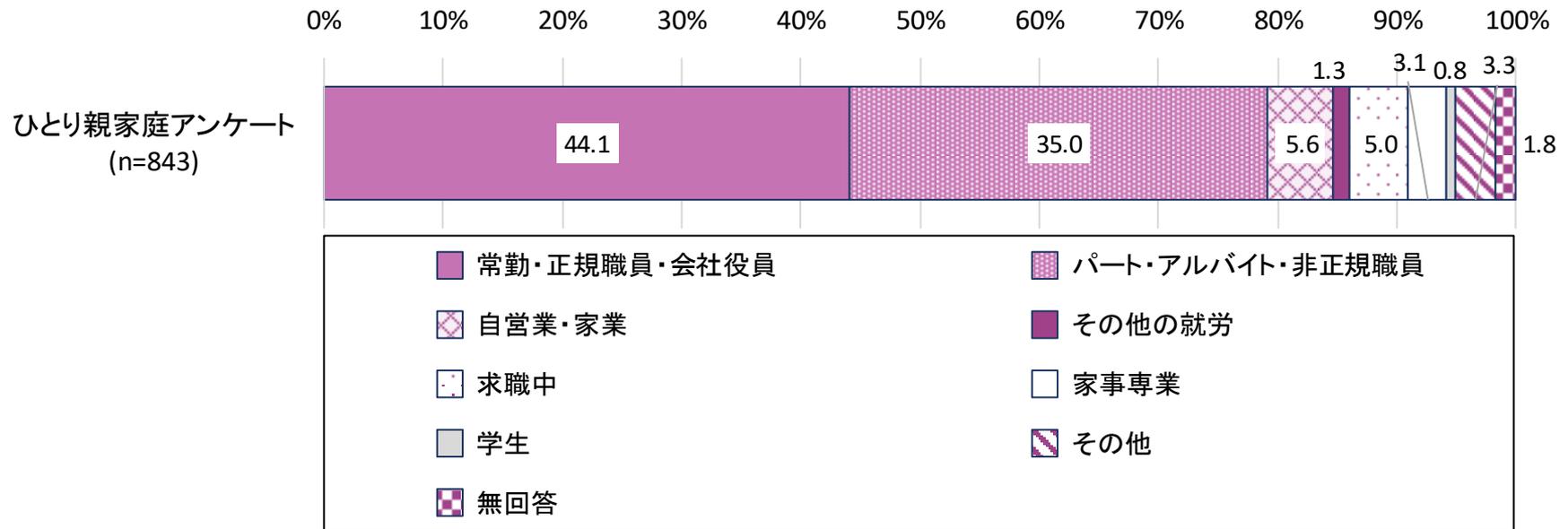
小学生以上の子どもの不登校の経験【ひとり親Q11】



- 小学生以上のお子さんが年間30日以上学校を欠席した経験について、「経験あり(現在欠席している子どもはいない)」は7.8%、「経験あり(現在欠席している子どもがいる)」は5.0%で、経験ありと回答した割合はあわせて12.8 %

3-(2) 保護者の就業状況

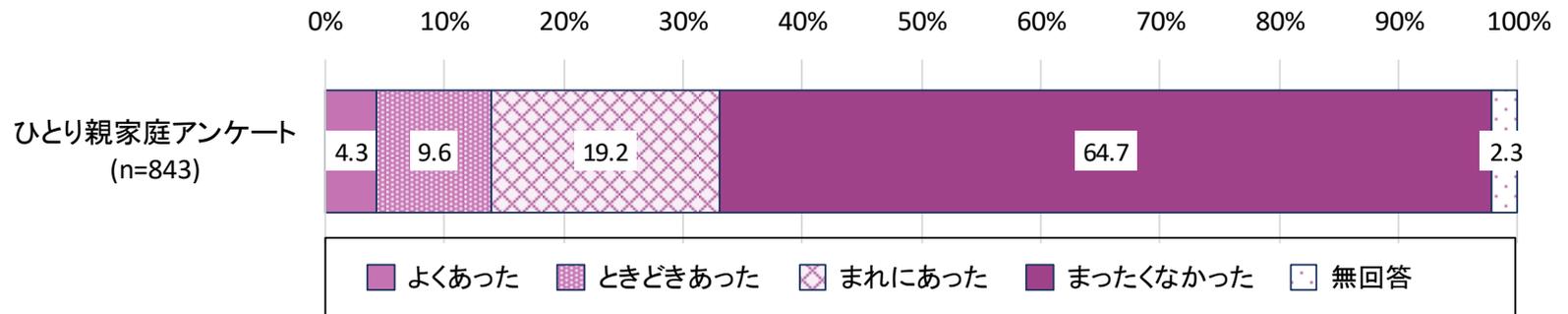
現在の就労状況 【ひとり親Q15(1)B】



- ひとり親世帯の保護者の現在の就労状況について、「常勤・正規職員・会社役員」と回答した割合は44.1%、「パート・アルバイト・非正規職員」と回答がした割合は35.0%

3-(2) 物質的・経済的困難

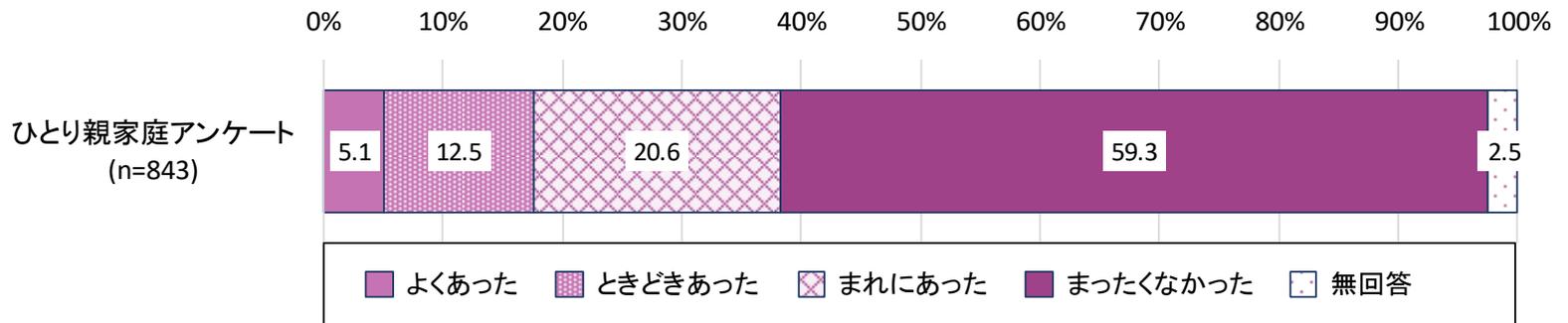
過去1年に必要とする食料が買えなかった経験【ひとり親Q33】



- 過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことが「よくあった」と回答した割合は4.3%、「ときどきあった」と回答した割合は9.6%
- 前回調査(全体)と比較すると、「まったくなかった」が約10ポイント上昇

3-(2) 物質的・経済的困難

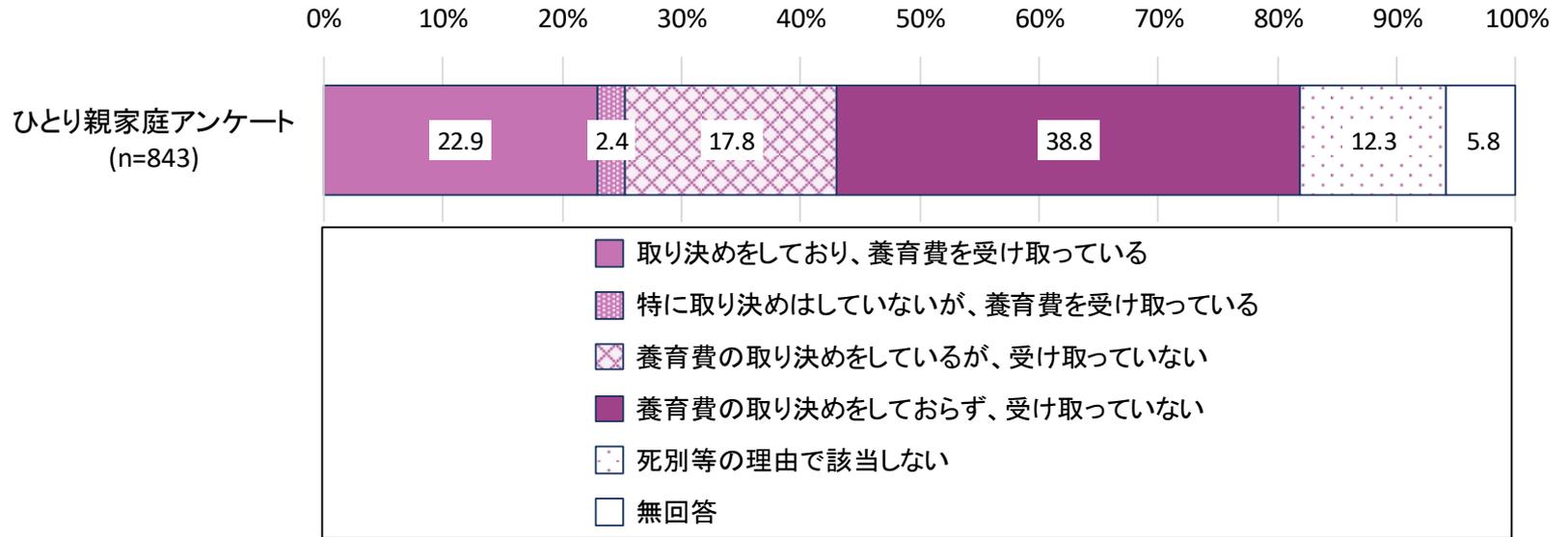
過去1年に必要とする衣類が買えなかった経験【ひとり親Q34】



- 過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類が買えないことが「よくあった」と回答した割合は5.1%、「ときどきあった」と回答した割合は12.5%
- 前回調査(全体)と比較すると、「まったくなかった」が約12ポイント上昇

3-(2) 養育費

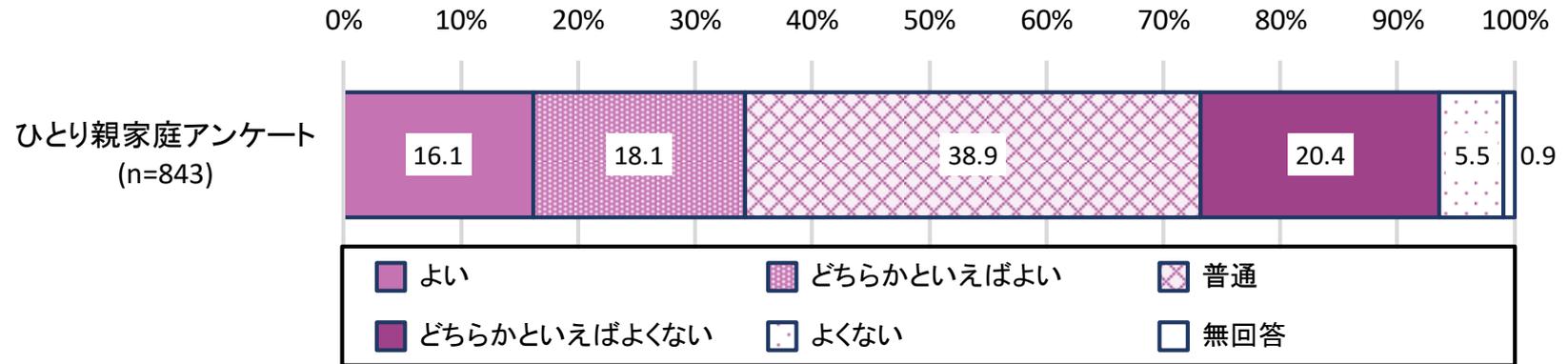
養育費の受け取り・取り決め状況【ひとり親Q28】



- 養育費を「受け取っている」と回答した割合は合わせて25.3%、「受け取っていない」と回答した割合は合わせて56.6%
- なお前回調査では、養育費を「受け取っている」と回答した割合は20.1%であった

3-(2) 保護者の心身の健康

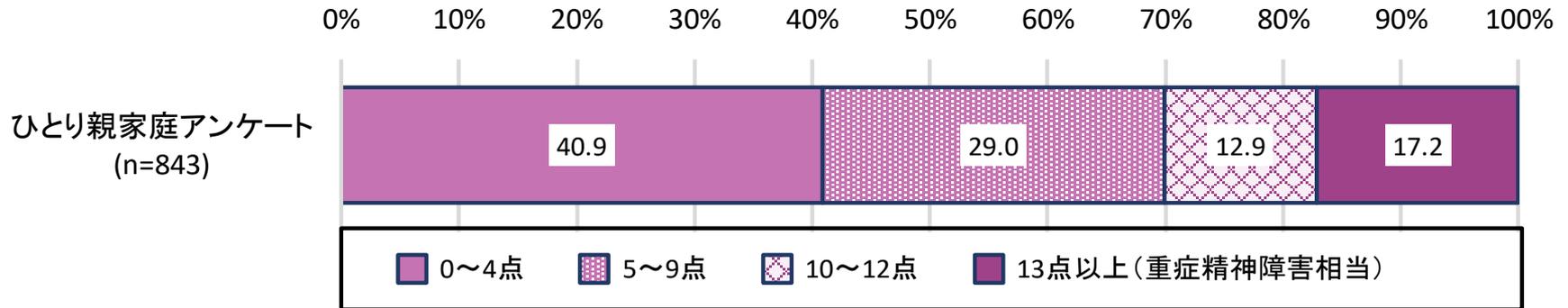
保護者の健康状態【ひとり親Q19】



- 回答者(子どもの保護者)の健康状態を尋ねた設問に対して、「よくない」と「どちらかといえばよくない」の回答割合は合わせて25.9%
- 前回調査(全体)と比較すると、「よくない」と回答した割合が3.5ポイント低下

3-(2) 保護者の心身の健康

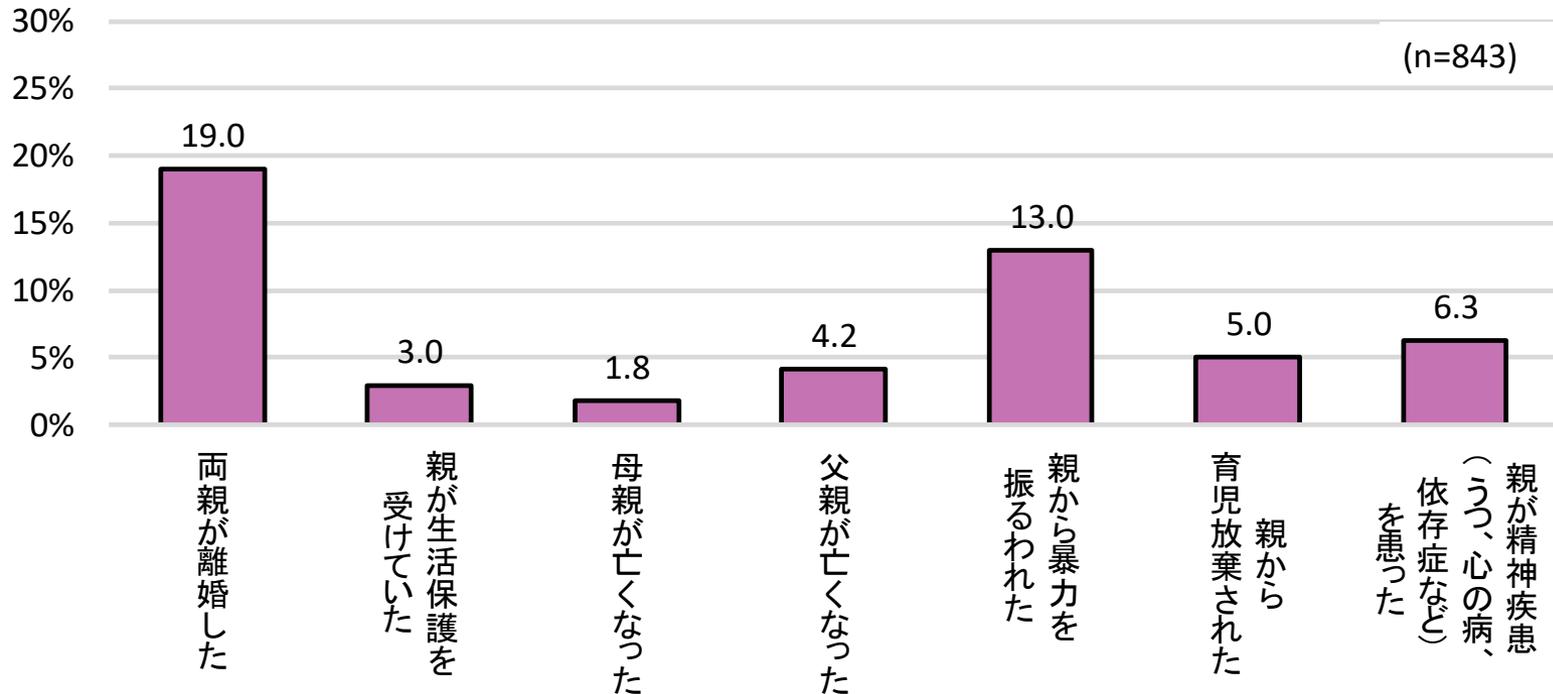
保護者の抑うつ傾向(K6)【ひとり親Q18】



- 回答者のうつ傾向を測る指標(K6)を算出したところ、「10～12点」であったのは12.9%、「13点以上(重症精神障害相当)」であったのは17.2%

3-(2) 保護者が成人する前の体験

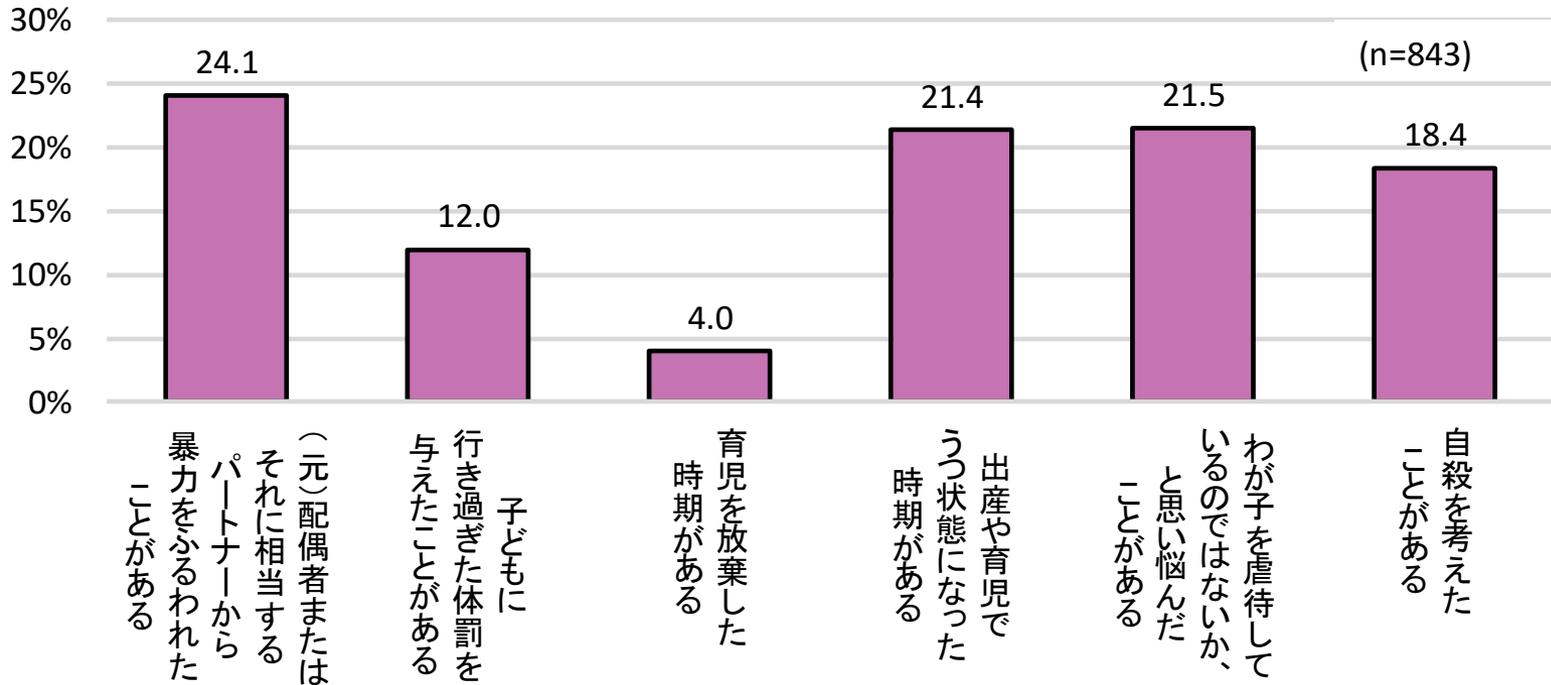
保護者が成人する前の体験【ひとり親Q41】



- 保護者が成人する前に「両親が離婚した」と回答した割合は19.0%、「親から暴力を振るわれた」は13.0%、「親が精神疾患(うつ、心の病、依存症など)を患った」は6.3%、「親から育児放棄された」は5.0%

3-(2) 子どもの養育

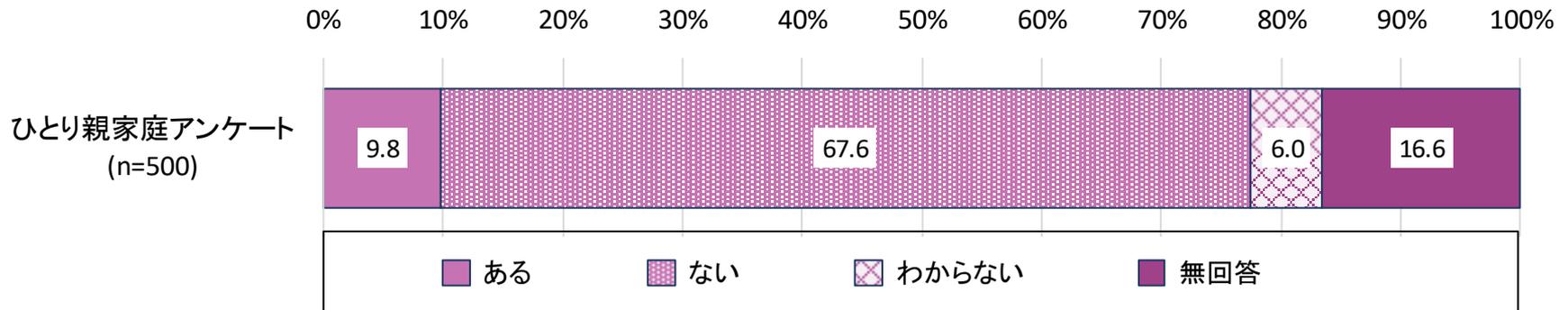
子育てに関わってから経験したこと【ひとり親Q38】



- 「(元)配偶者またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある」割合は、24.1%
- 「わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」割合は21.5%
- 「出産や育児でうつ状態になった時期がある」割合は21.4%

3-(2) 生活習慣／医療へのアクセス

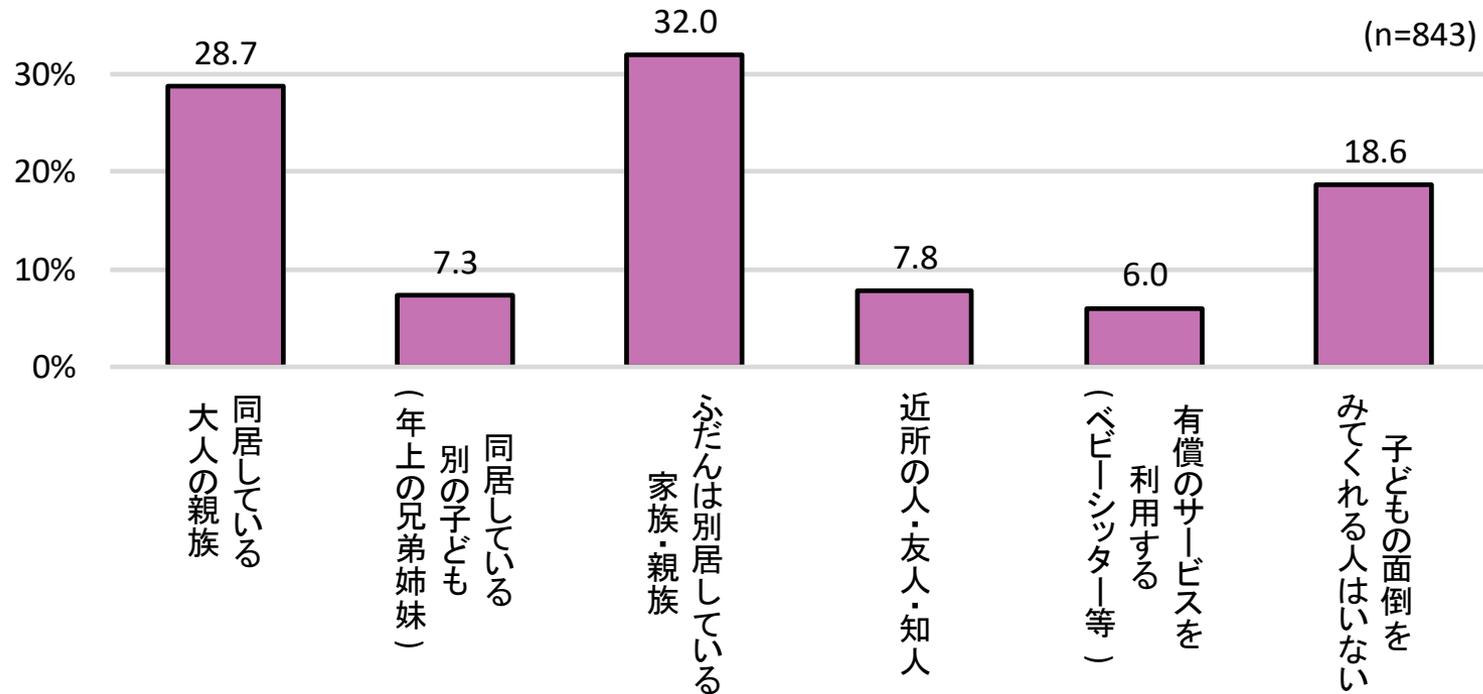
小学生以下の子どもの未治療の虫歯の有無【ひとり親Q8D】



- 小学生以下の子どもの未治療の虫歯の有無について尋ねたところ、「ある」と回答した割合は9.8%、「わからない」は6.0%

3-(3) 相談相手・頼れる人

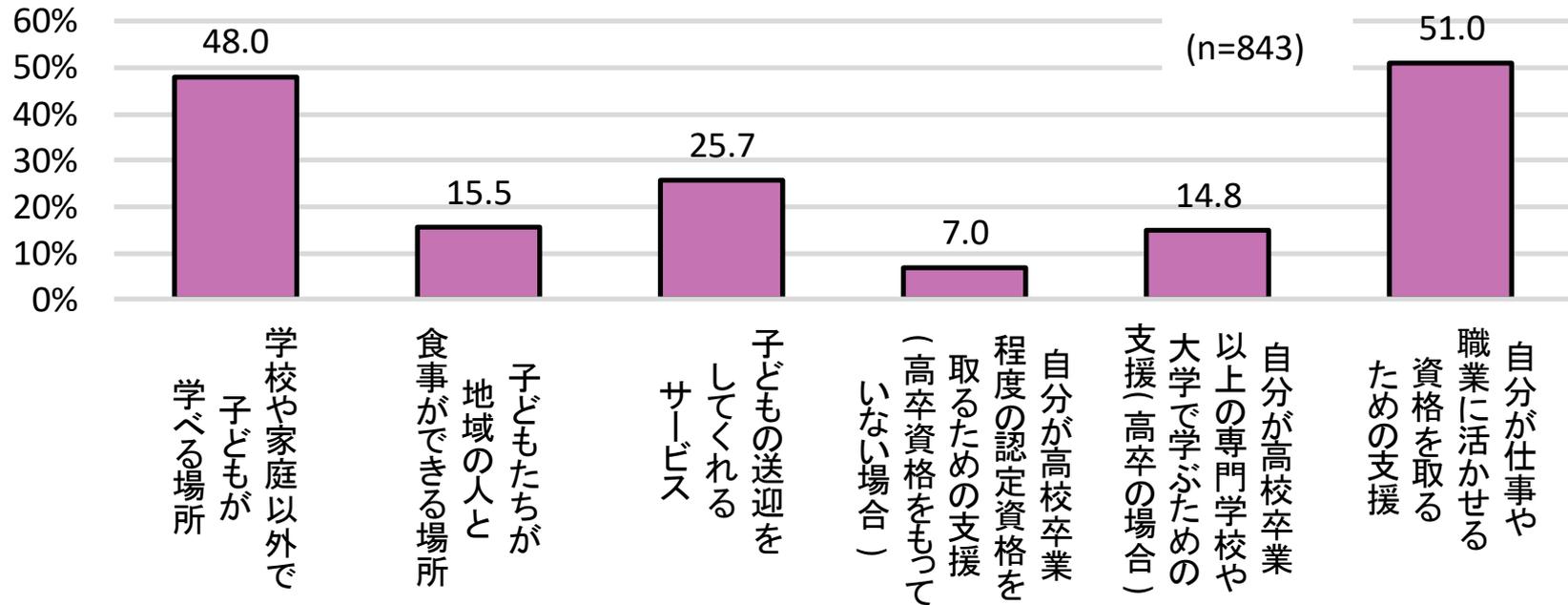
小学生以下の子どもの面倒を見てくれる人の有無【ひとり親Q10】



- 病気の時や不在の時に、小学生以下のお子さんの面倒をみてくれる人の有無を尋ねたところ、「ふだんは別居している家族・親戚」が32.0%、「同居している大人の親族」が28.7%
- 「子どもの面倒をみてくれる人はいない」と回答した割合は18.6%

3-(3) 保護者の支援ニーズ

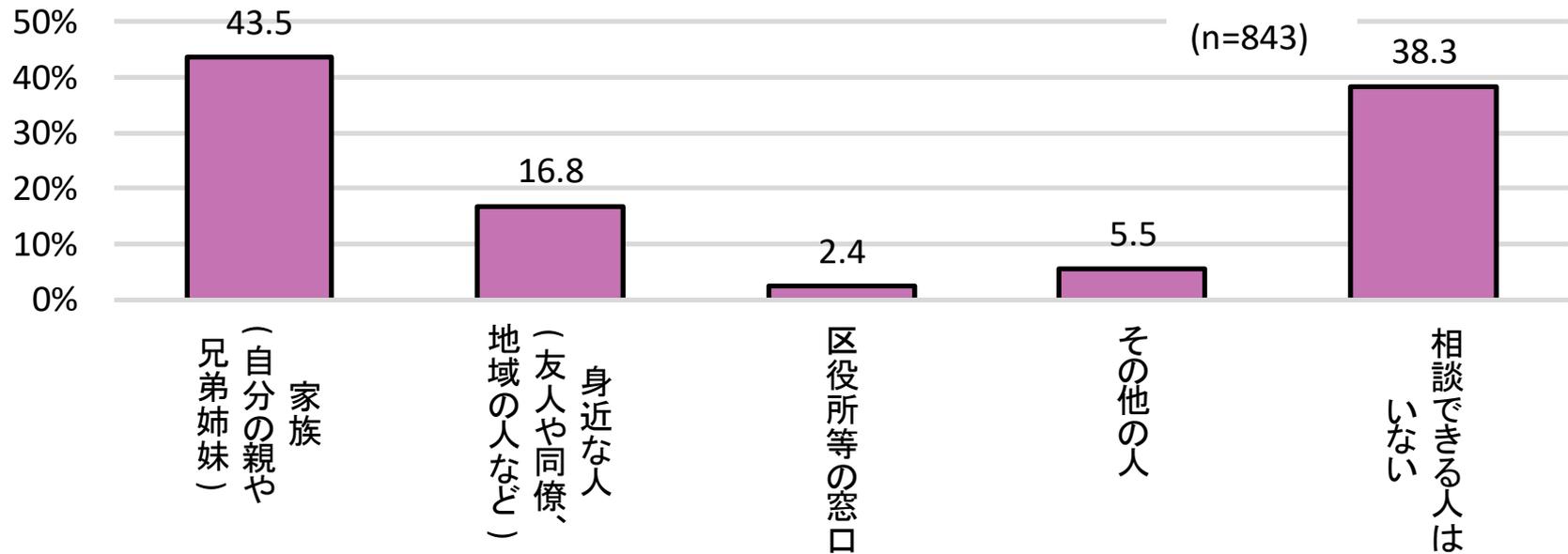
利用したいと思う支援やサービス(ひとり親)【ひとり親Q43】



- 利用したいと思う支援やサービスでは、「自分が仕事や職業に活かせる資格を取るための支援」が51.0%、「学校や家庭以外で子どもが学べる場所」が48.0%、「子どもの送迎をしてくれるサービス」が25.7%
- 前回調査(全体)と比較すると、「子どもの送迎をしてくれるサービス」が5.3ポイント、「子どもたちが地域の人と食事ができる場所」が3ポイント上昇

3-(3) 相談相手・頼れる人

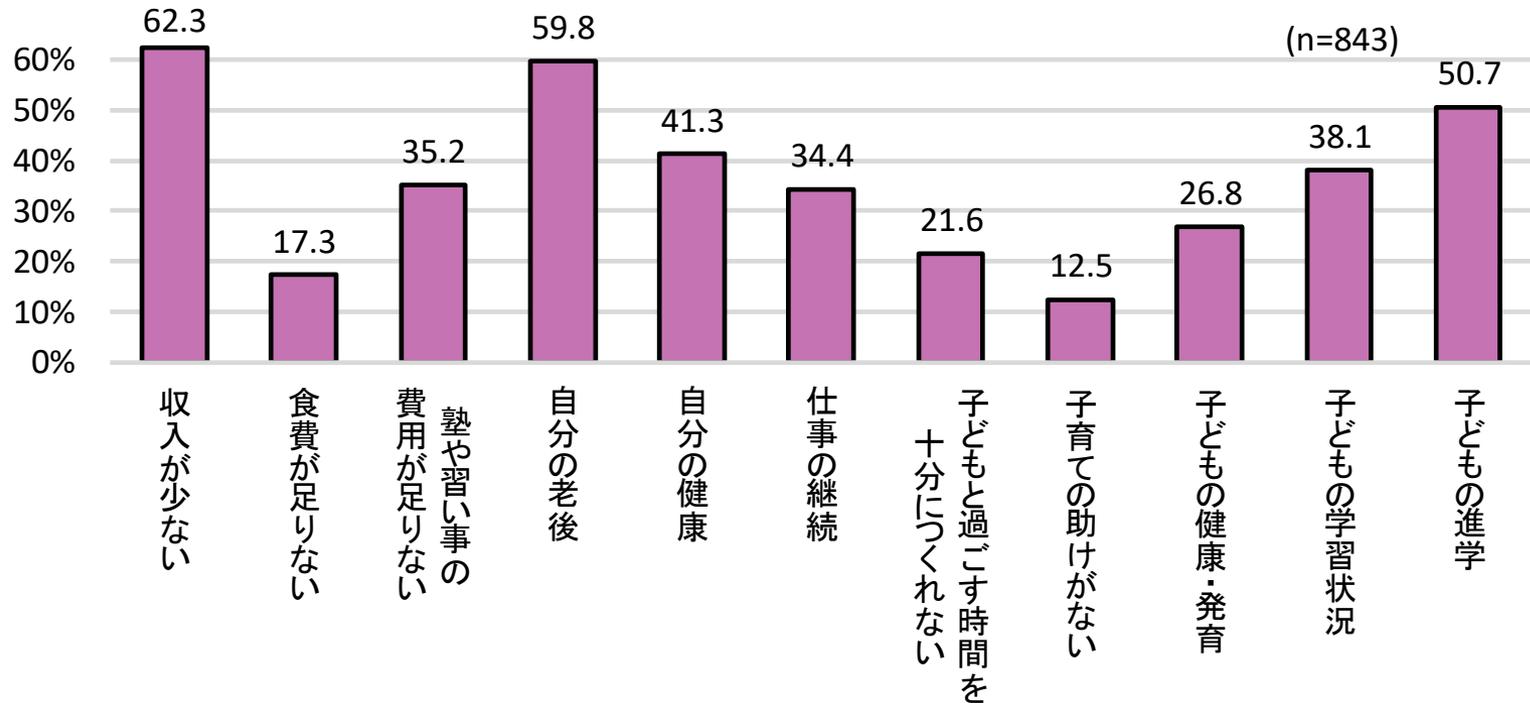
お金の相談・家計管理【ひとり親Q24E】



- 「お金の相談・家計管理」について相談する相手の有無を尋ねたところ、「家族(自分の親や兄弟姉妹)」が43.5%、「相談できる人はいない」が38.3%

3-(3) 悩みごと・困りごと

現在の悩み事(ひとり親)【ひとり親Q23】



- 現在の悩み事で「収入が少ない」と回答した割合は62.3%、「自分の老後」は59.8%、「子どもの進学」は50.7%、「自分の健康」は41.3%
- 前回調査と比較すると、「子どもの進学」が7.2ポイント、「子どもの健康・発育」が4.5ポイント上昇



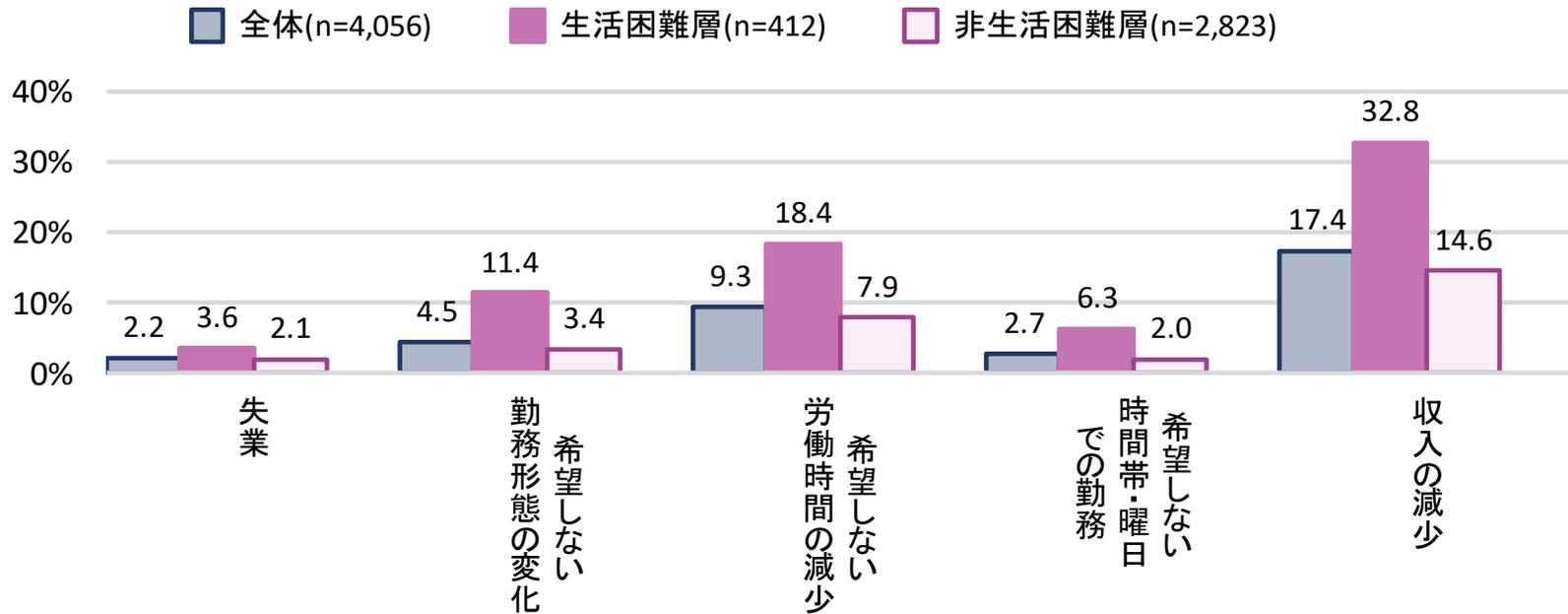
4. 新たな課題

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

(2) 複合課題

4-(1) 新型コロナウイルスの影響(保護者・家庭)

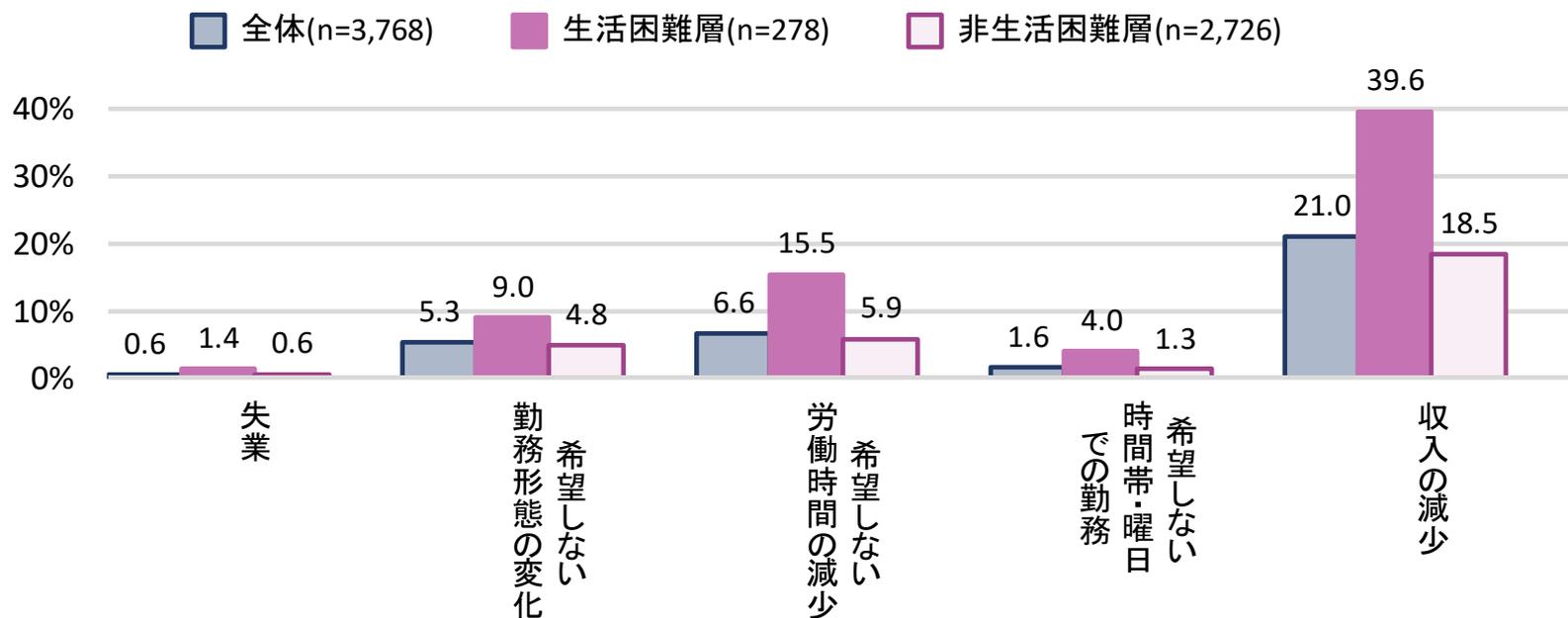
就業状況への影響(母親)【小5保護者Q10-①(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大による母親の就業への影響として、全体では「収入の減少」が17.4%、「希望しない労働時間の減少」が9.3%、「失業」が2.2%
- 生活困難層の母親では、「収入の減少」の回答割合が32.8%、「希望しない労働時間の減少」が18.4%、「失業」が3.6%

4-(1) 新型コロナの影響(保護者・家庭)

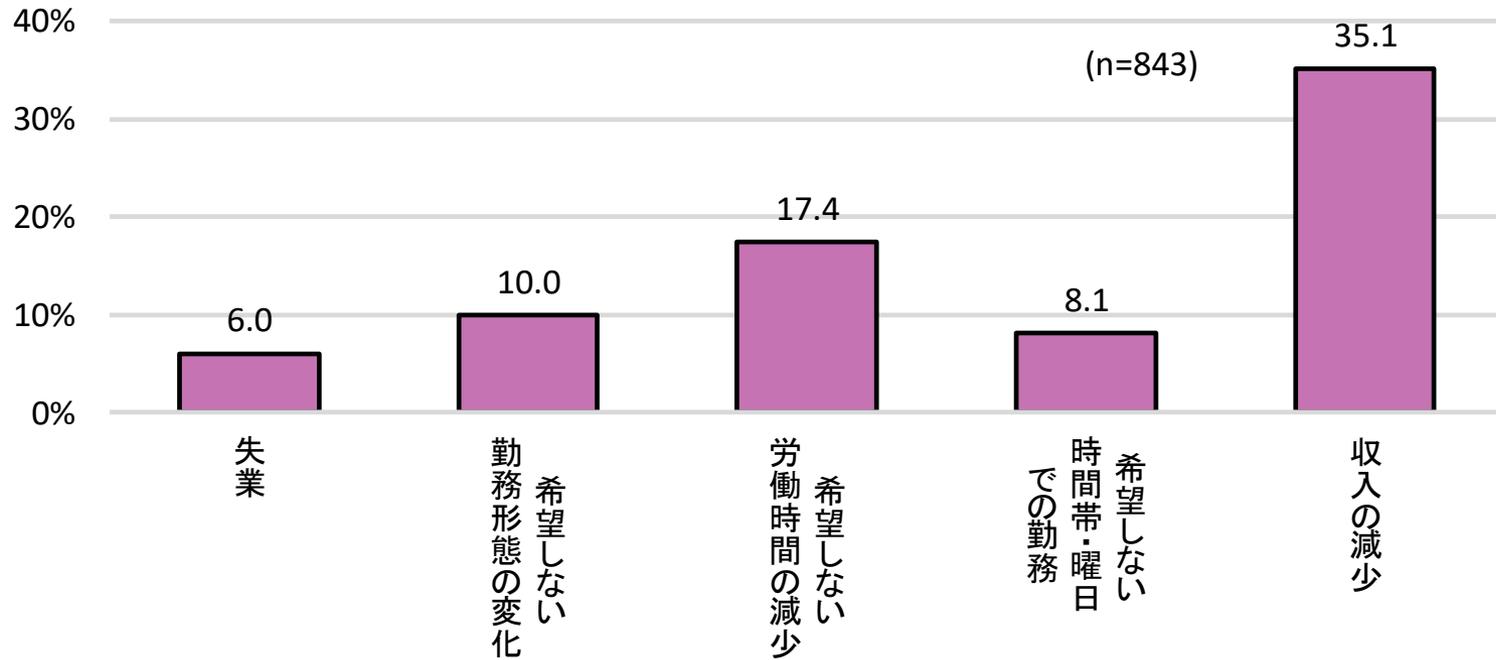
就業状況への影響(父親)【小5保護者Q10-②(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大による父親の就業への影響として、全体では「収入の減少」が21.0%、「希望しない労働時間の減少」が6.6%、「失業」が0.6%
- 生活困難層の父親では、「収入の減少」の回答割合が39.6%、「希望しない労働時間の減少」が15.5%、「失業」が1.4%

4-(1) 新型コロナの影響(保護者・家庭)

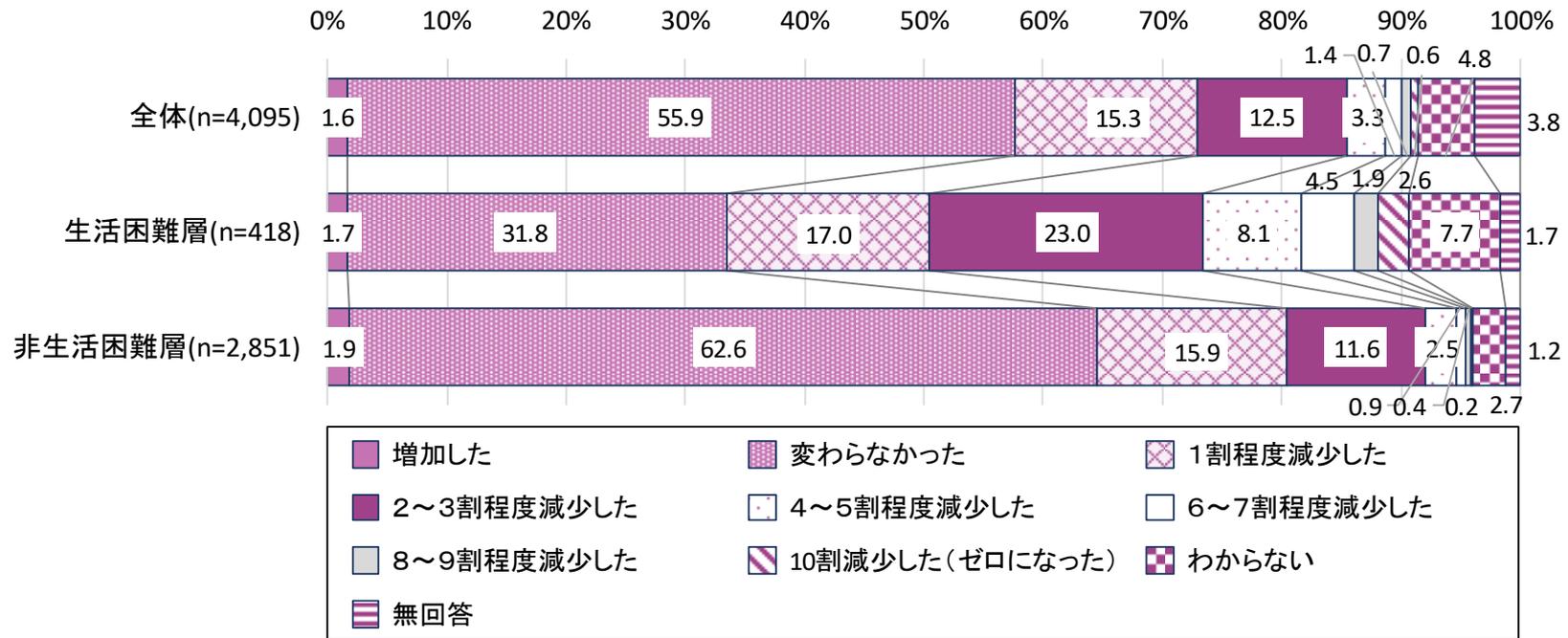
就業状況への影響(ひとり親)【ひとり親Q16(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大による就業への影響として、「収入の減少」が35.1%、「希望しない労働時間の減少」が17.4%、「失業」が6.0%

4-(1) 新型コロナの影響(保護者・家庭)

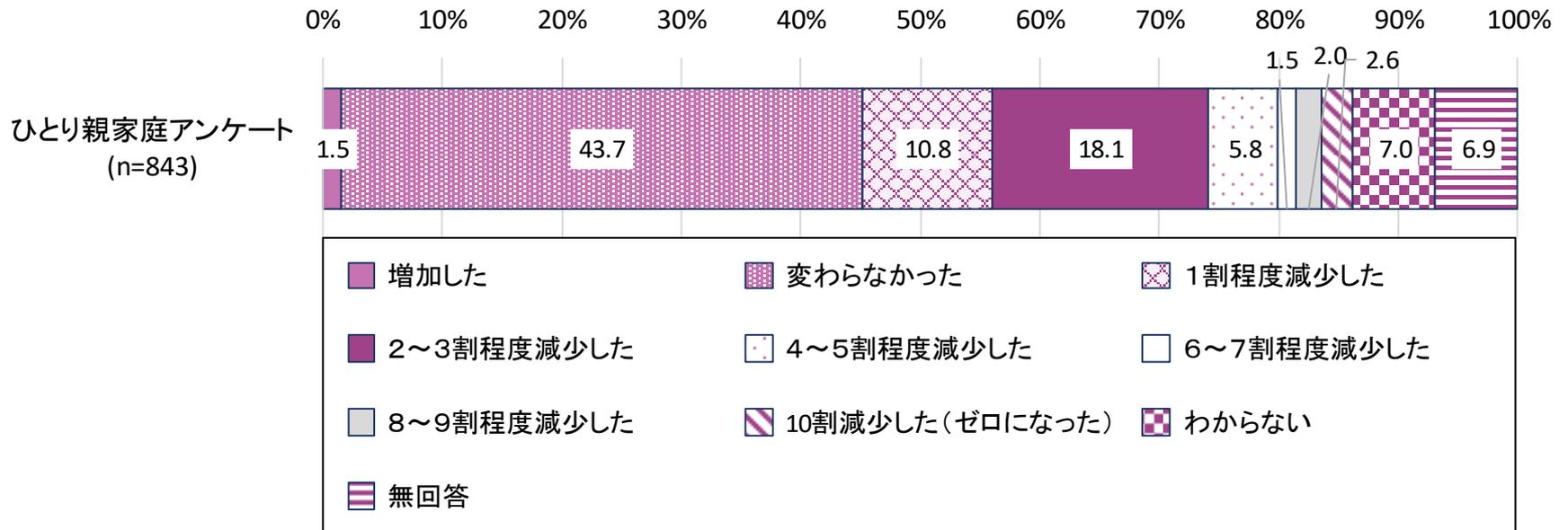
世帯の月間収入の変化【小5保護者Q20(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令の前後で世帯の月間収入が「減少した」という回答の割合を合わせると、全体では33.8%、生活困難層では57.1%

4-(1) 新型コロナの影響(保護者・家庭)

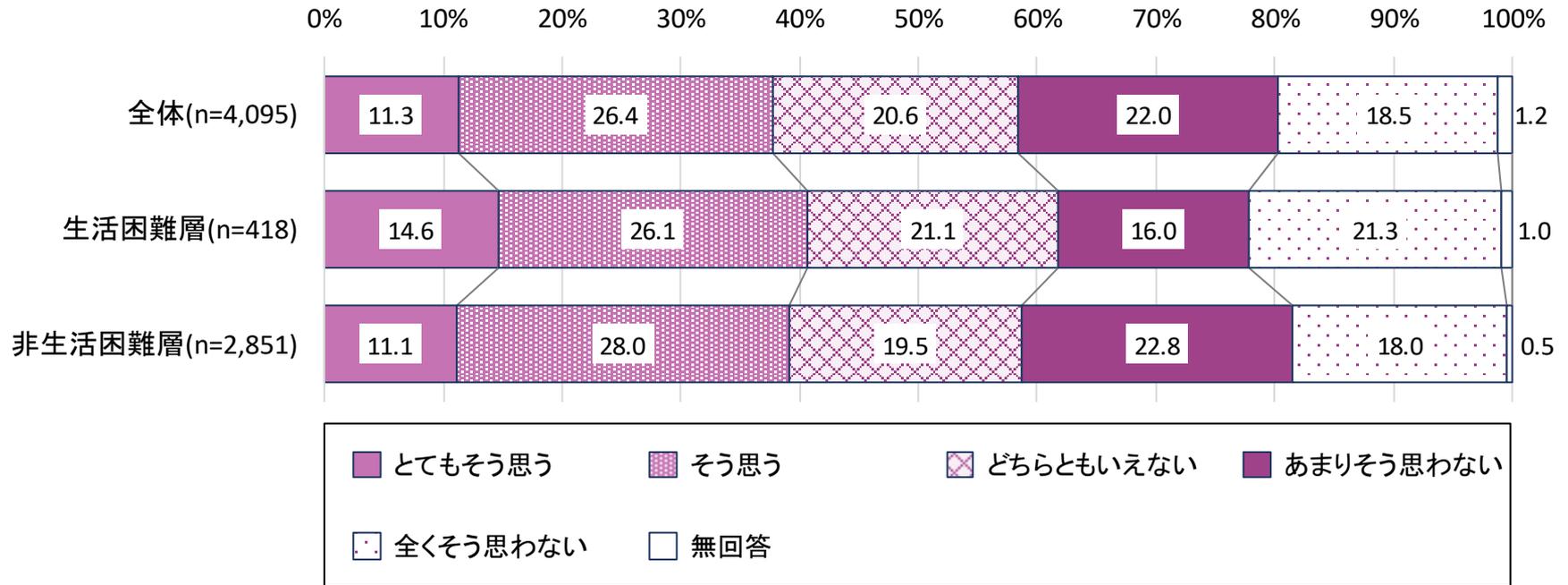
世帯の月間収入の変化【ひとり親Q27(2)(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言発令の前後で世帯の月間収入が「減少した」という回答を合わせた割合は40.8%

4-(1) 新型コロナの影響(保護者・家庭)

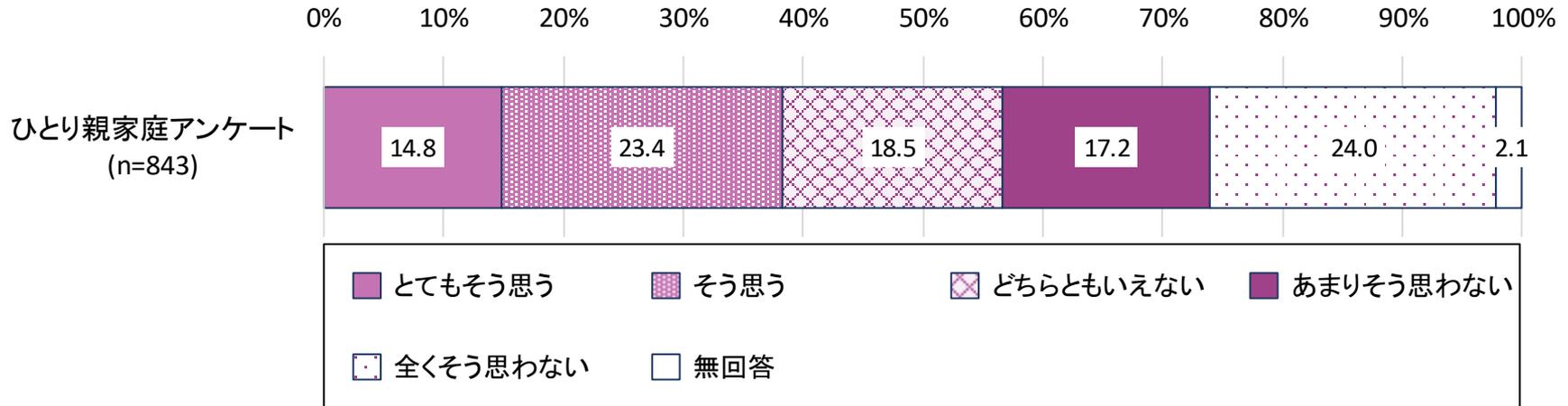
家庭内でのストレスが高まった【小5保護者Q24L(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「家庭内でのストレスが高まった」かに対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を合わせると、全体では37.7%、生活困難層では40.7%

4-(1) 新型コロナの影響(保護者・家庭)

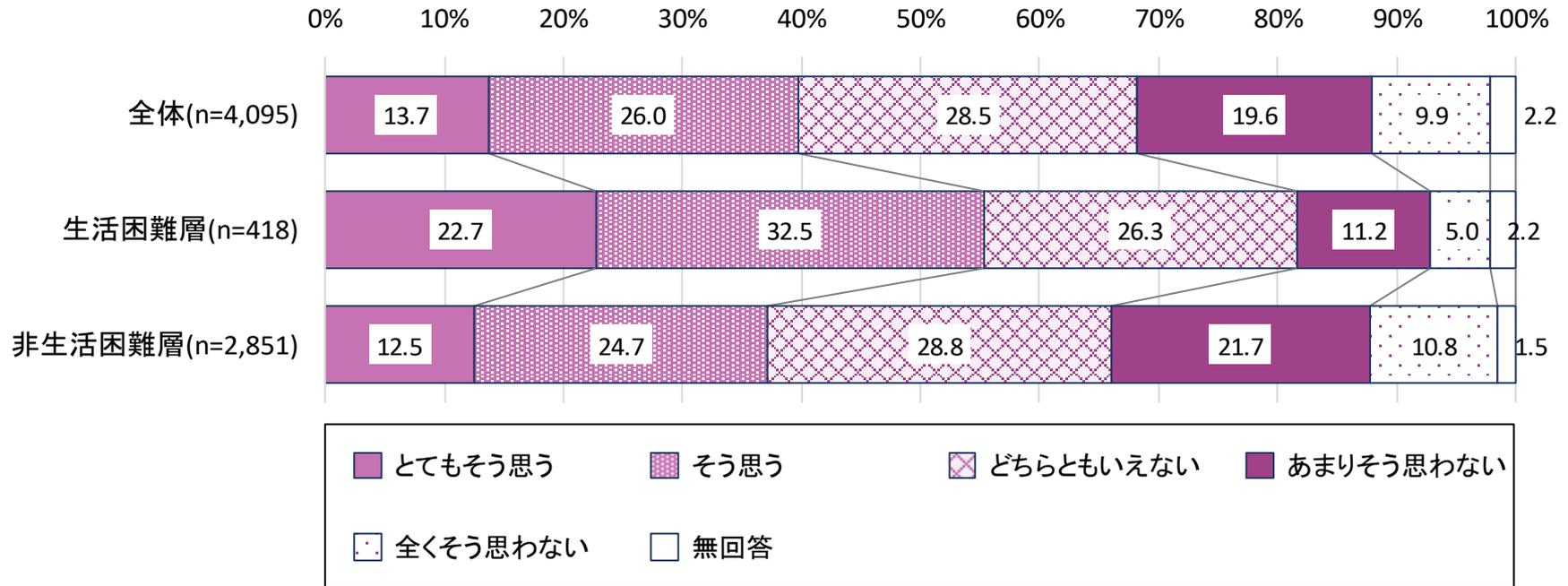
家庭内でのストレスが高まった【ひとり親Q22L(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「家庭内でのストレスが高まった」かに対して、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答割合は38.2%

4-(1) 新型コロナの影響(子ども)

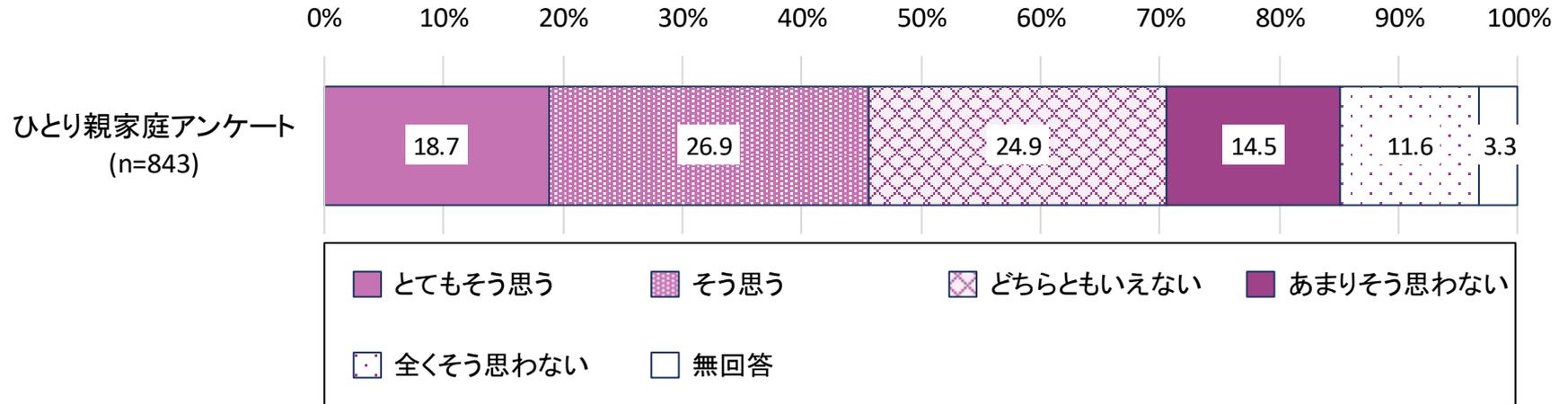
子どもの学力が低下した【小5保護者Q24A(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんの学力が低下した」かに対して、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答割合は全体では39.7%、生活困難層では55.2%

4-(1) 新型コロナの影響(子ども)

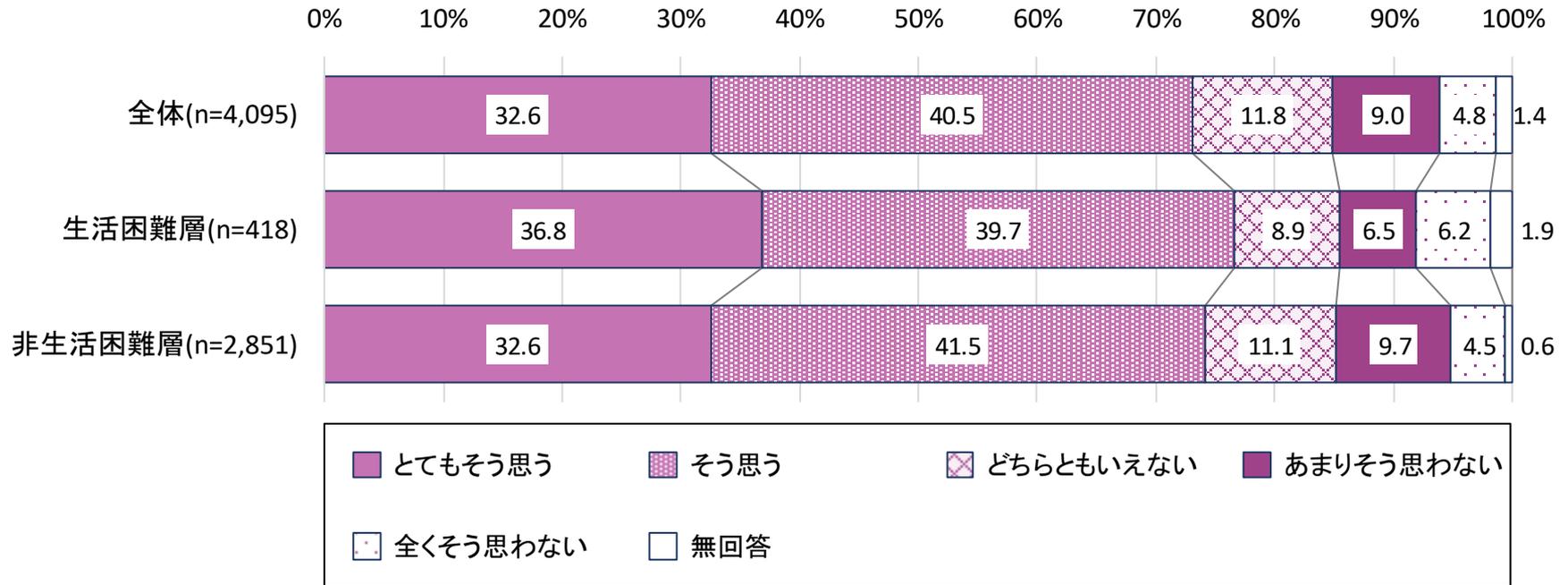
子どもの学力が低下した【ひとり親Q22A(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんの学力が低下した」かに対して、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答割合は45.6%

4-(1) 新型コロナの影響(子ども)

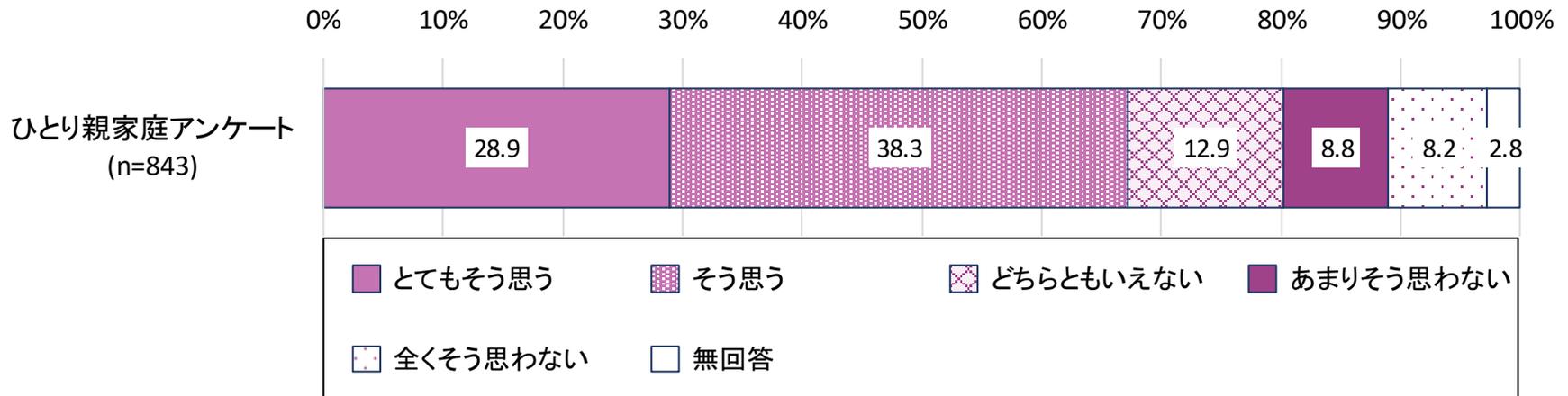
子どもの体力が低下した【小5保護者Q24B(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんの体力が低下した」かに対して、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答割合は全体では73.1%

4-(1) 新型コロナの影響(子ども)

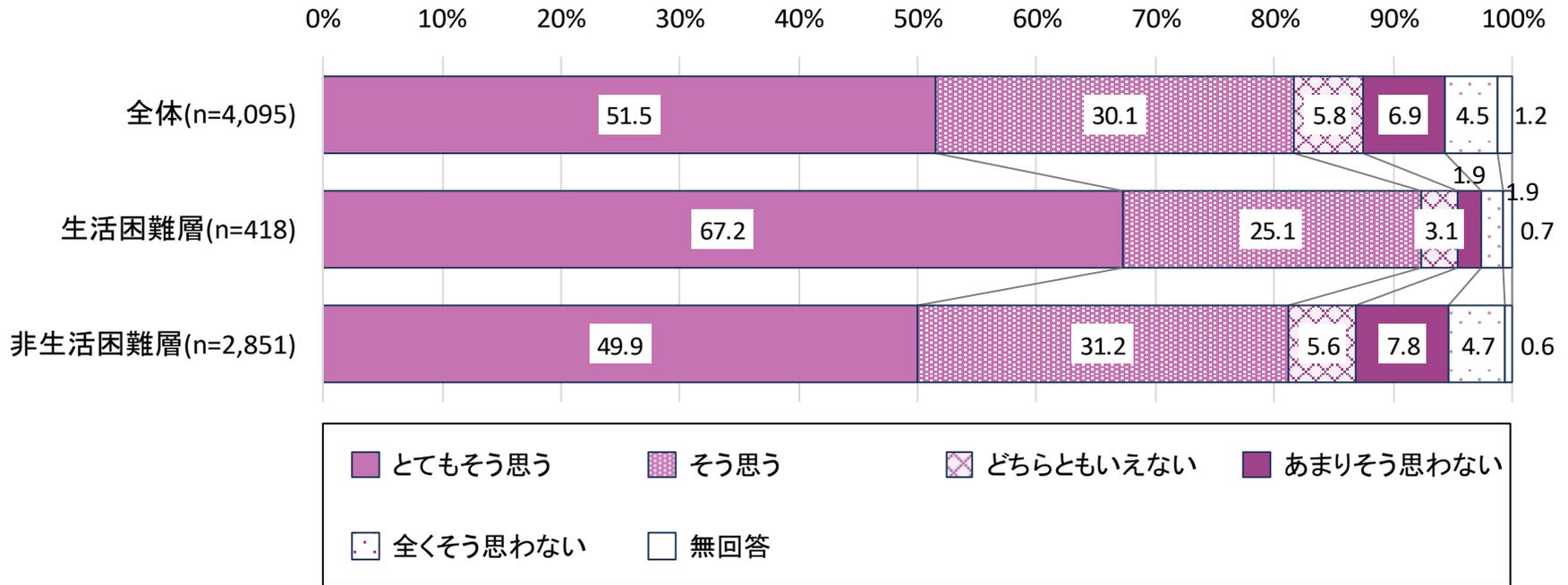
子どもの体力が低下した【ひとり親Q22B(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんの体力が低下した」かに対して、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答割合は67.2%

4-(1) 新型コロナの影響(子ども)

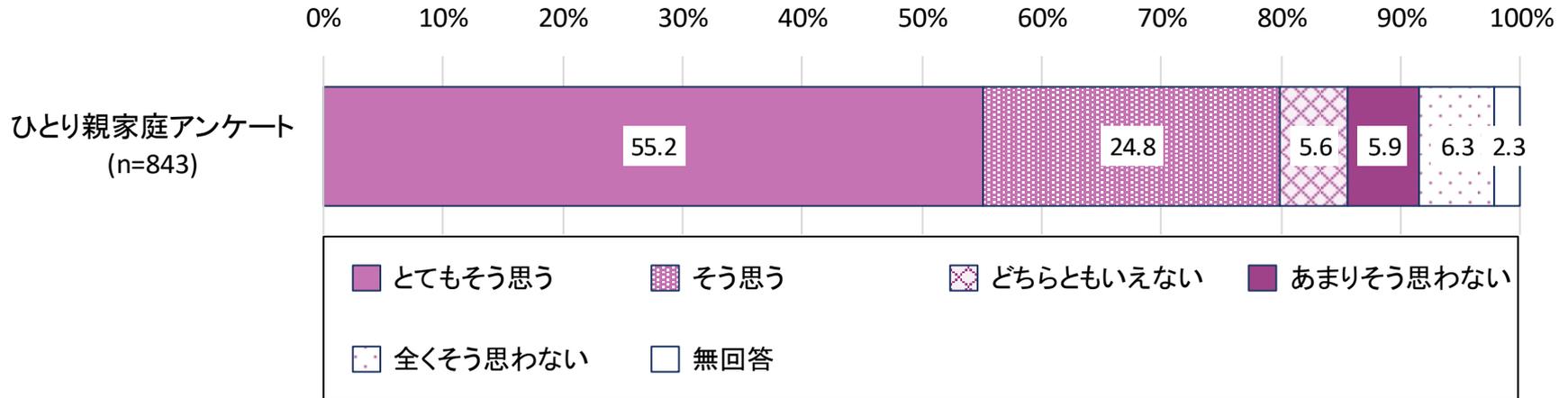
子どもがスマホやゲームをみる時間が増えた【小5保護者Q24C(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんがゲームやスマホをみる時間が増えた」かに対して、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答割合は、全体では81.6%、生活困難層では92.3%

4-(1) 新型コロナの影響(子ども)

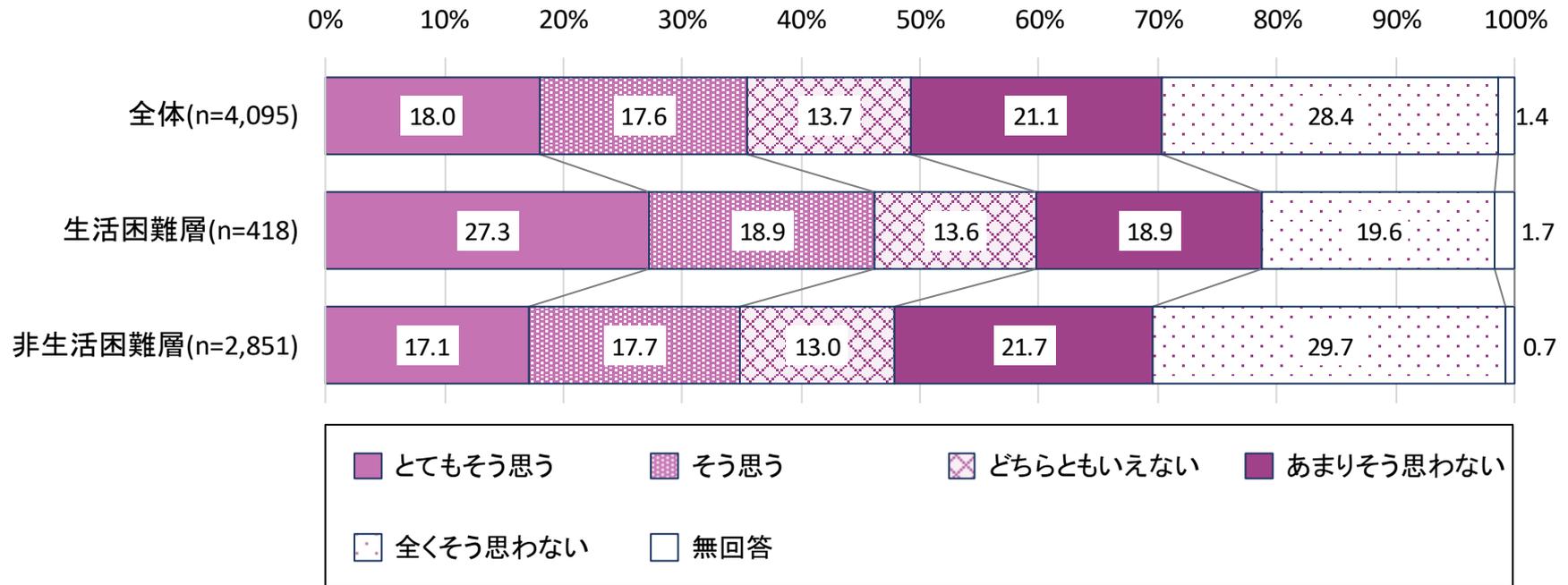
子どもがスマホやゲームをみる時間が増えた【ひとり親Q22C(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんがゲームやスマホをみる時間が増えた」かに対して、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答割合は80.0%

4-(1) 新型コロナの影響(子ども)

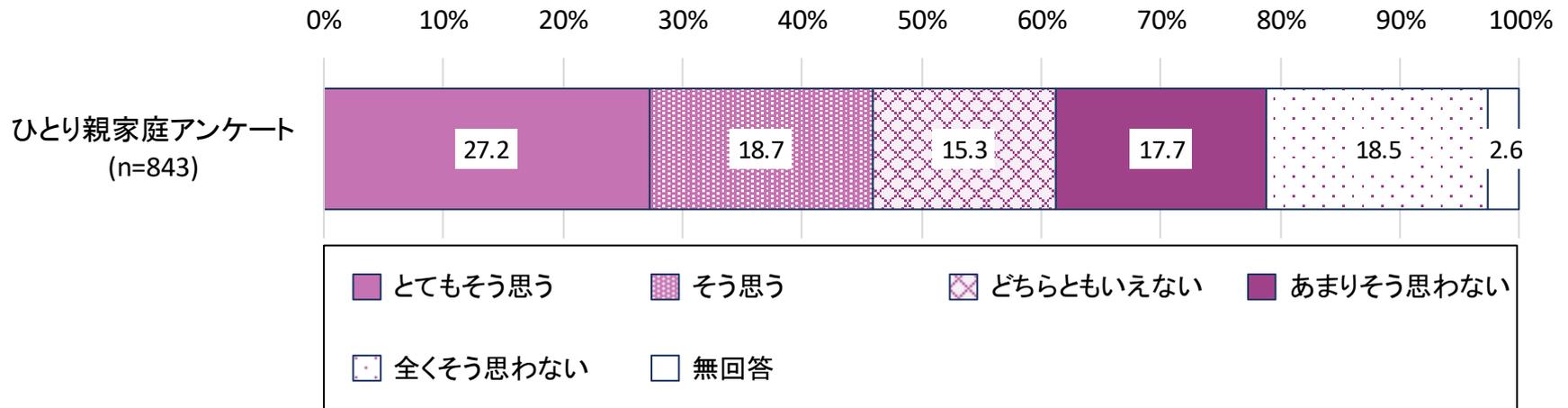
子どもが一人でいる時間が多すぎた【小5保護者Q24D(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための公立小学校臨時休業によって「お子さんが一人でいる時間が多すぎた」かに対して、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答割合は、全体では35.6%、生活困難層では46.2%

4-(1) 新型コロナの影響(子ども)

子どもが一人でいる時間が多すぎた【ひとり親Q22D(新設)】



- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための教育機関・保育施設臨時休業によって「お子さんが一人でいる時間が多すぎた」かに対して、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた回答割合は45.9%

4-(2) 複合課題

要介護者等の有無【小5保護者Q6】

	全体 (n=4,095)	生活困難層 (n=418)	非生活困難層 (n=2,851)
高齢で介護が必要な方	4.8%	6.5%	4.5%
身体障害者手帳をお持ちの方	3.3%	5.0%	3.1%
精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方	0.6%	1.7%	0.5%
愛の手帳をお持ちの方	1.9%	3.1%	1.8%
発達障がいをお持ちの方(疑いを含む)	5.0%	7.4%	4.9%
定期的な通院等が必要な疾患をお持ちの方	6.7%	9.8%	6.6%
精神疾患(うつ、心の病、依存症など)をお持ちの方	1.8%	3.6%	1.6%
引きこもりの方	0.4%	1.0%	0.4%
特に該当する人はいない	70.0%	66.5%	71.8%

- 家族の中に「定期的な通院等が必要な疾患をお持ちの方」がいる割合は全体では6.7%、「発達障がいをお持ちの方(疑いを含む)」は5.0%、「高齢で介護が必要な方」は4.8%
- 「特に該当する人はいない」の回答割合は、全体では70.0%、生活困難層では66.5%

4-(2) 複合課題

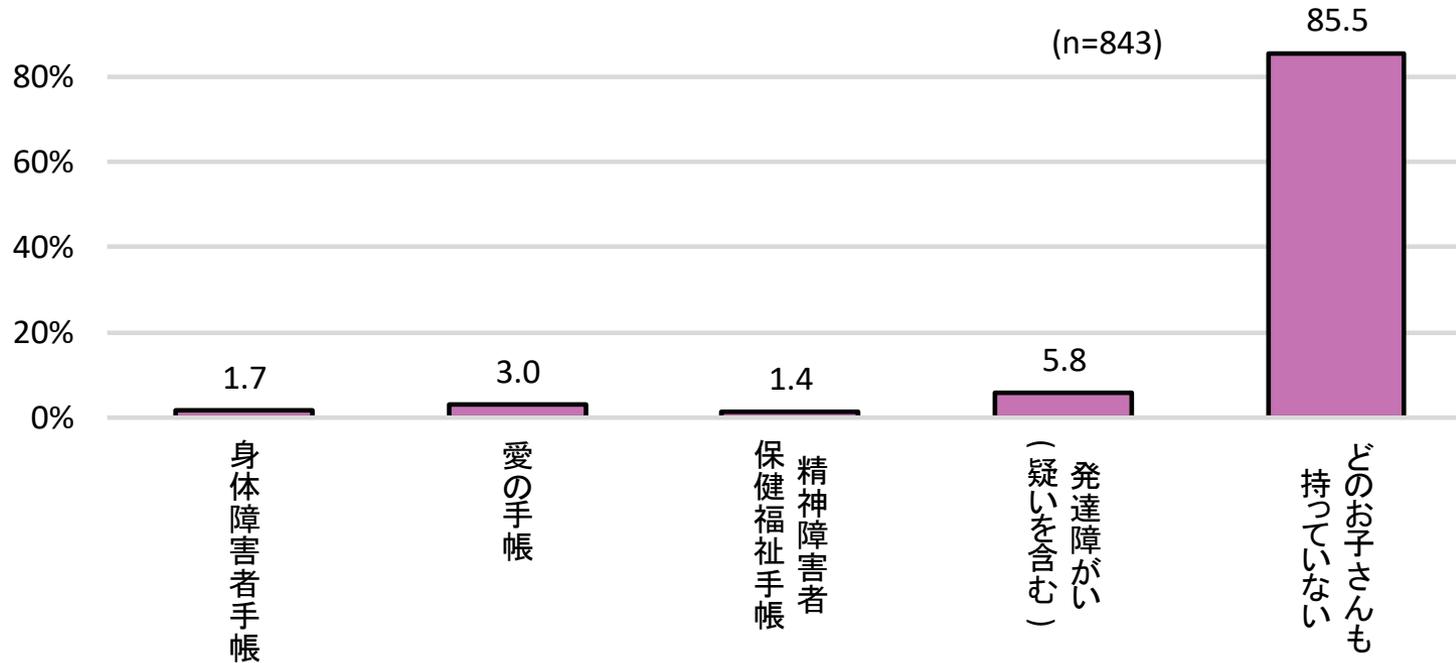
要介護者等の有無【ひとり親Q7-1】

	全体 (n=843)
高齢で介護が必要な方	4.6%
身体障害者手帳をお持ちの方	5.1%
精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方	2.0%
愛の手帳をお持ちの方	2.6%
発達障がいをお持ちの方(疑いを含む)	8.2%
定期的な通院等が必要な疾患をお持ちの方	7.8%
精神疾患(うつ、心の病、依存症など)をお持ちの方	3.4%
引きこもりの方	2.6%
特に該当する人はいない	64.3%

- 家族の中に「定期的な通院等が必要な疾患をお持ちの方」がいる割合は全体では7.8%、「発達障がいをお持ちの方(疑いを含む)」は8.2%、「身体障害者手帳をお持ちの方」は5.1%

4-(2) 複合課題

子どもの障害者手帳等の有無【ひとり親Q9】

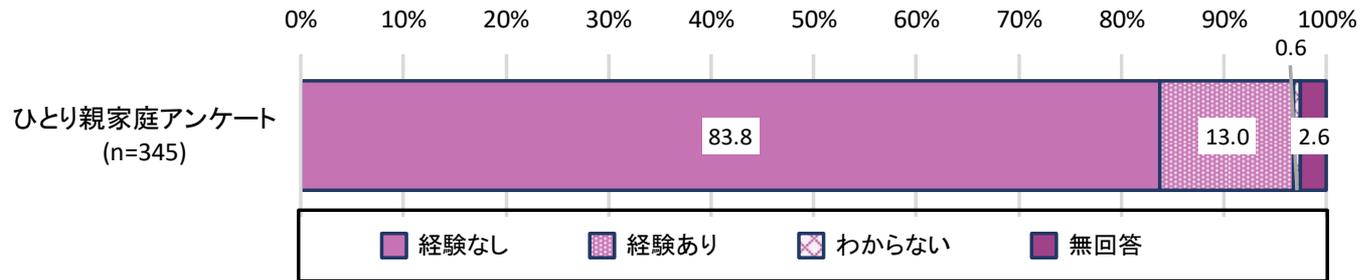


- 家庭にいる全ての子どもについて障害者手帳等の有無を尋ねたところ、「発達障がい(疑いを含む)」は5.8%、「愛の手帳」は3.0%、「身体障害者手帳」は1.7%、「精神障害者保健福祉手帳」は1.4%

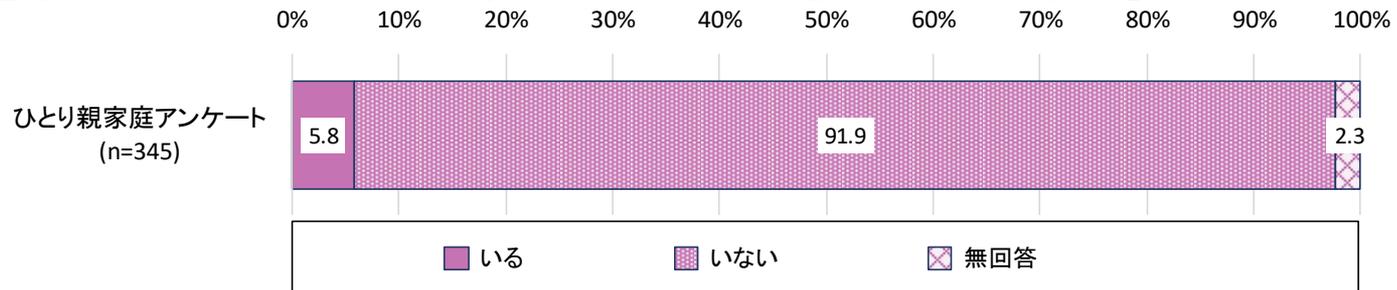
4-(2) 複合課題

子どもの高校・大学等の中退経験、ニート状態【ひとり親Q13・14】

【中学校を卒業した子どものうち、高校・大学等の中退経験の有無】



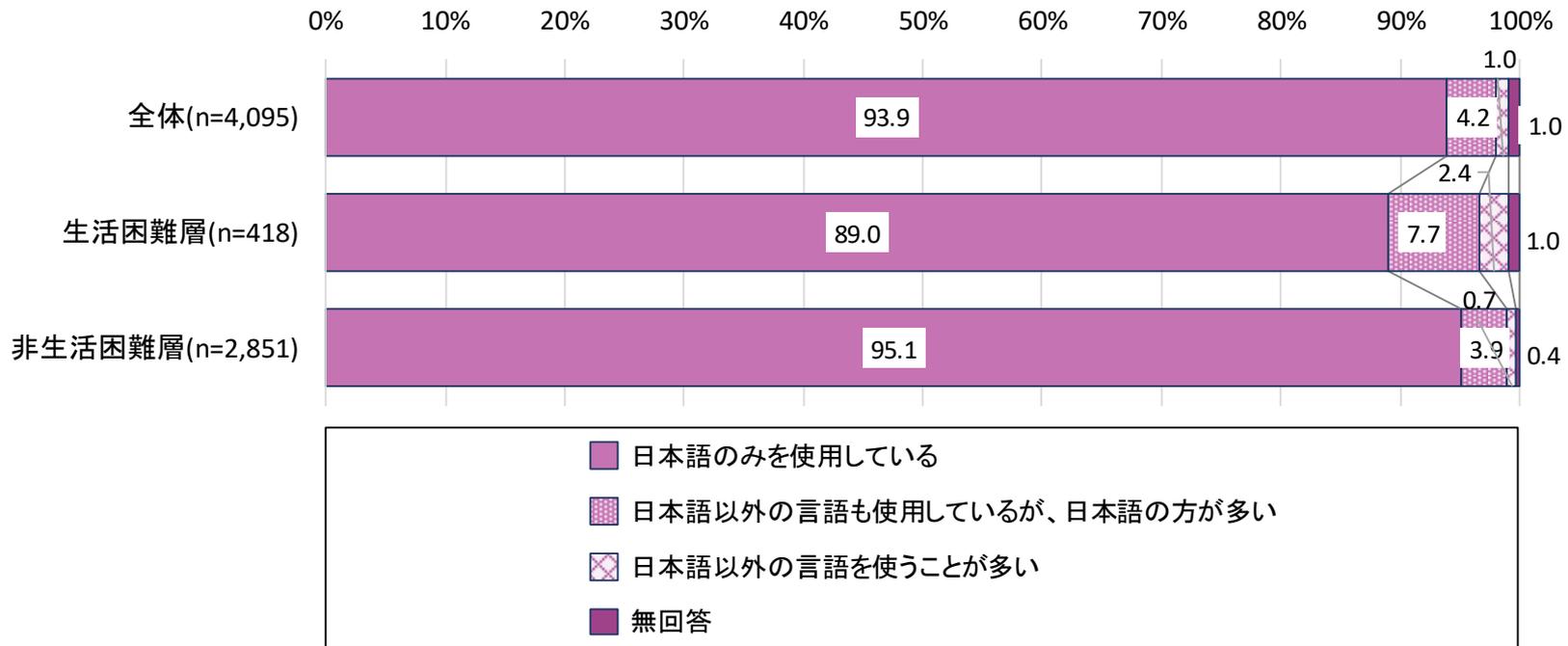
【中学校を卒業した子どものうち、いわゆるニートの状態の子どもの有無】



- 中学校を卒業した子どもについて、高校・大学等の中退経験の有無について、「経験あり」と回答した割合は13.0%
- いわゆるニート状態の子どもの有無について「いる」と回答した割合は5.8%

4-(2) 複合課題

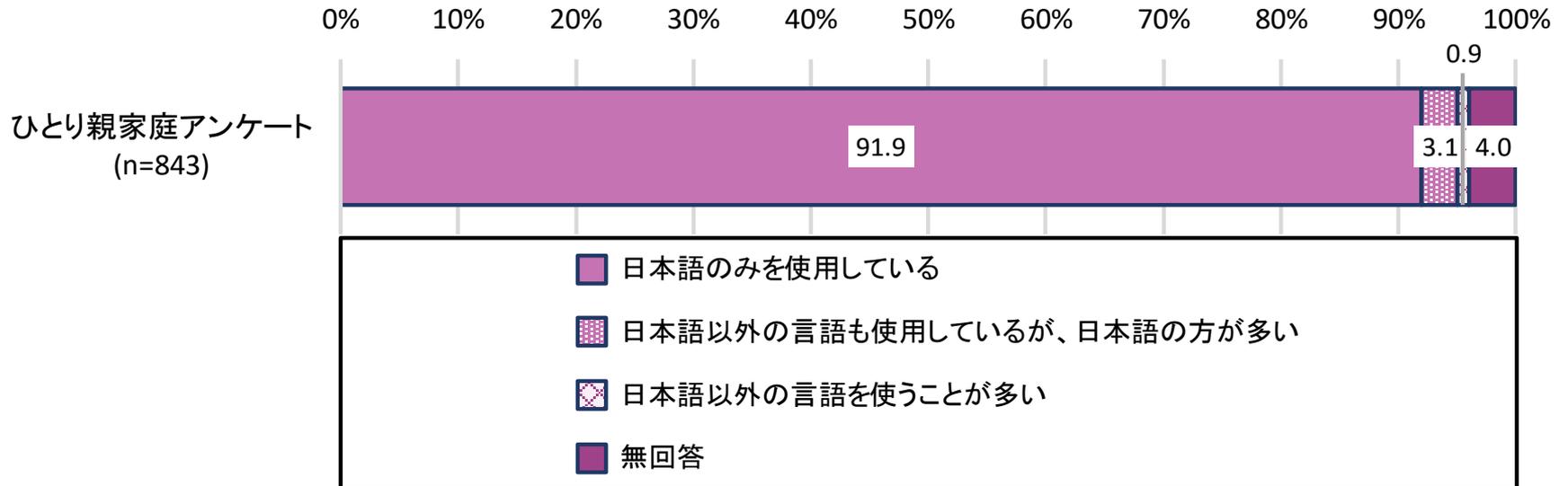
家庭内の使用言語【小5保護者Q8(新設)】



- 家庭内の使用言語を尋ねた設問に対して、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」と「日本語以外の言語を使うことが多い」という回答を合わせた割合は、全体では5.2%、生活困難層では10.1%

4-(2) 複合課題

家庭内の使用言語【ひとり親Q7-3(新設)】



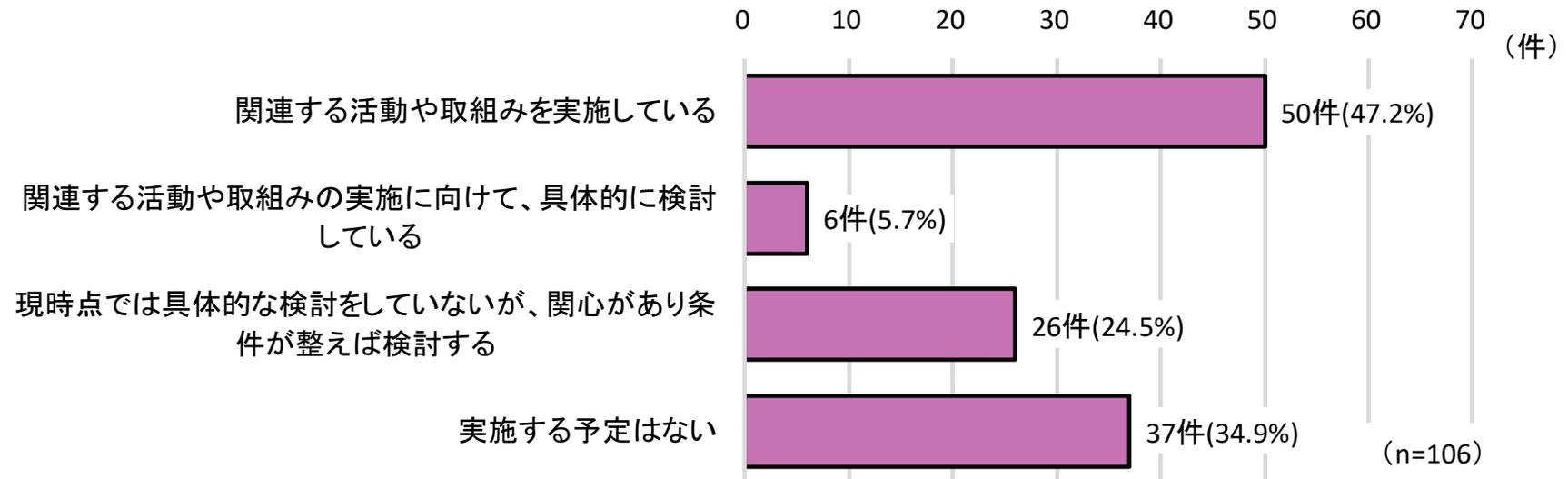
- 家庭内での使用言語について尋ねた設問に対して、「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」と「日本語以外の言語を使うことが多い」を合わせた回答割合は4.0%



5. おおた 子どもの生活応援プランに 関する活動状況等調査結果のポイント

5. 子ども・若者に関連する活動状況

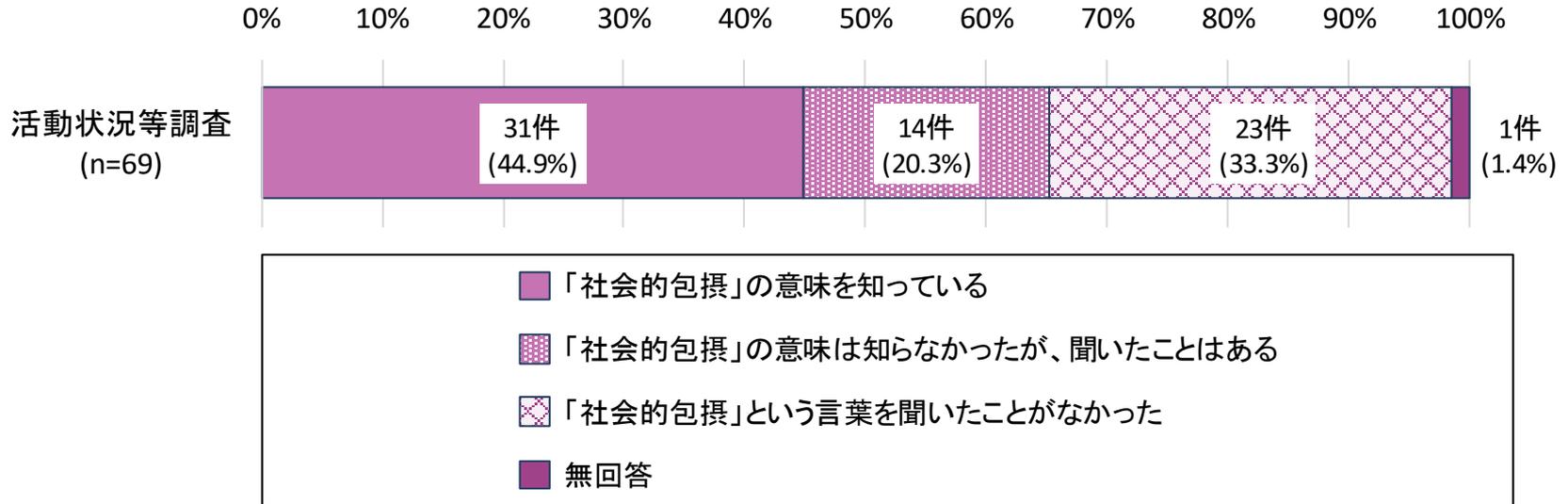
プランに関連のある活動や取組みの実施・検討状況【活動Q1】



- 子どもや若者の生活・学び・体験、子育て支援に「関連する活動や取組みを実施している」と50団体(47.2%)が回答
- 「現時点では具体的な検討をしていないが、関心があり条件が整えば検討する」と26団体(24.5%)が回答

5. 社会的包摂の認知度

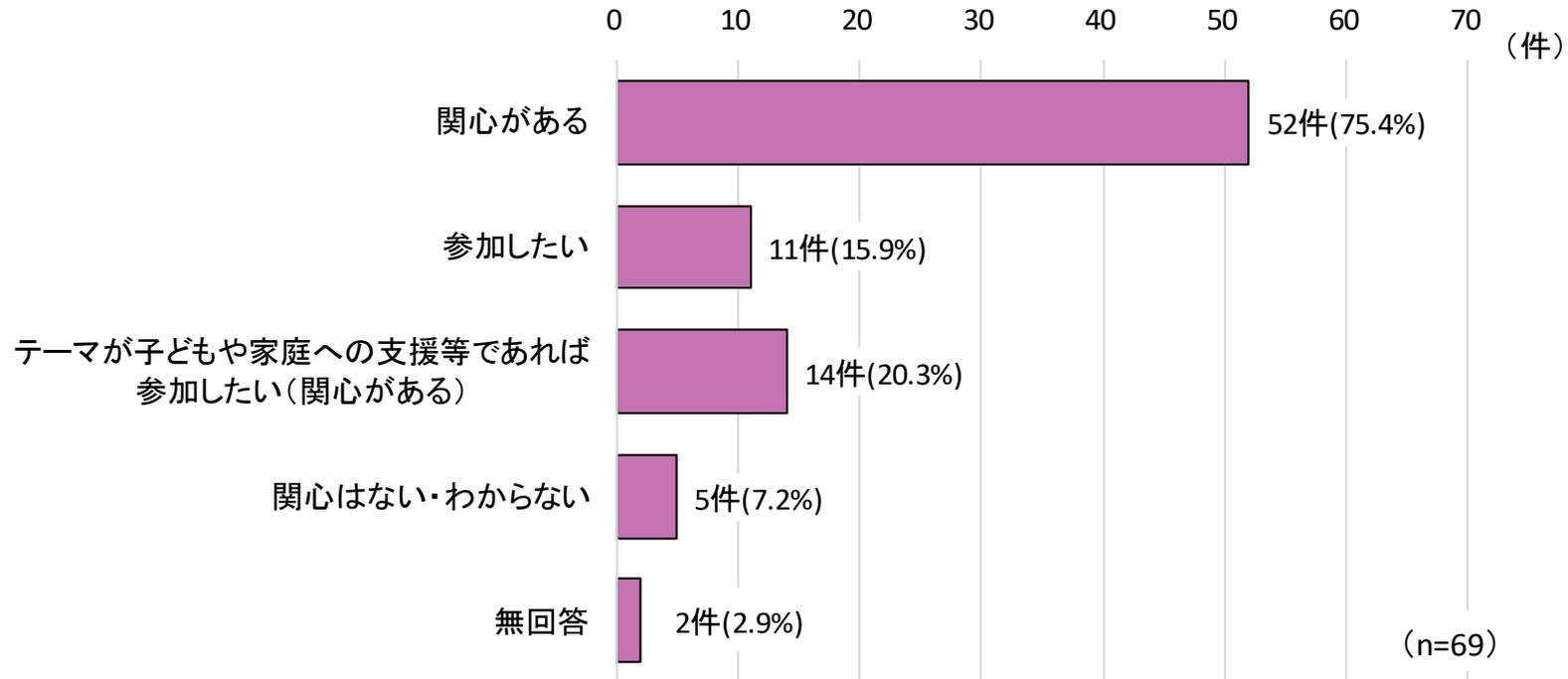
社会的包摂の認知度【活動Q2】



- 区内で子どもの生活応援に関する活動・取組みを実施・検討している69団体 のうち、31件(44.9%)が「社会的包摂の意味を知っている」、14件(20.3%)が「社会的包摂の意味は知らなかったが、聞いたことはある」と回答

5. 地域での対話の場に対する関心

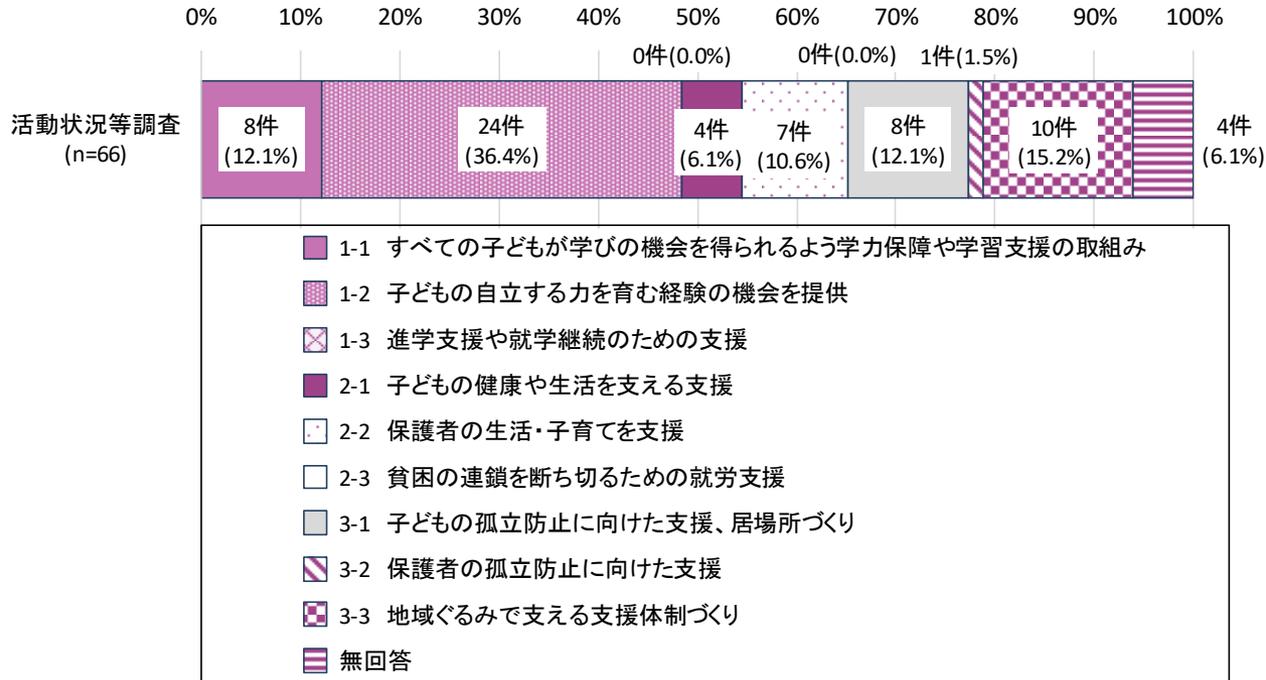
地域での対話の場に対する関心【活動Q3】



- 地域住民や支援団体が集まり、地域課題やその解決策について情報交換や対話する場に対して、「関心がある」と回答した団体は52件(75.4%)

5. 実施している活動のテーマ・領域

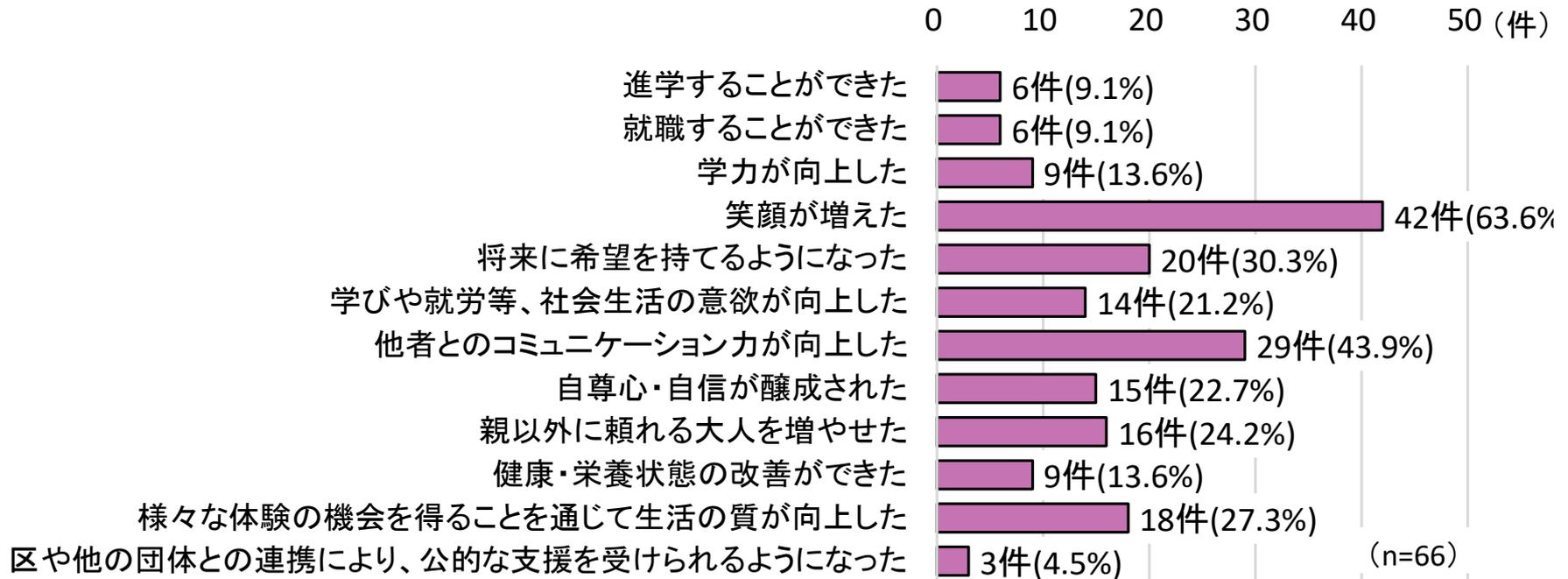
活動・取組みの活動テーマ・領域【活動Q3-2】



- 50団体が取り組んでいる、総計66種類の活動・取組みについて、区の施策体系の「子どもの自立する力を育む経験の機会を提供」に関連する活動テーマ・領域が最も多く24件(36.4%)、次いで「地域ぐるみで支える支援体制づくり」が10件(15.2%)

5. 活動・取組みによる子どもや保護者の変化

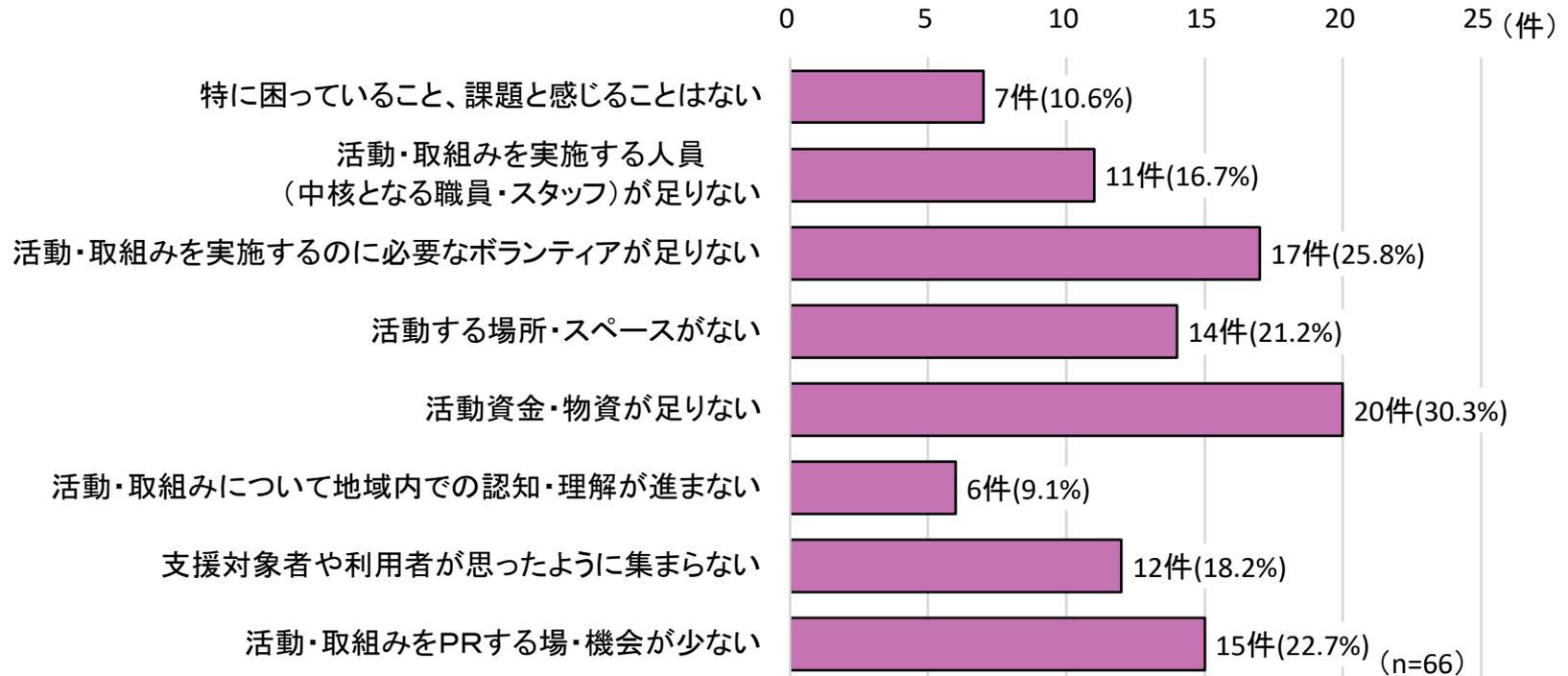
子どもや保護者の変化【活動Q3-11】



- 各団体の活動・取組みによる子ども・保護者の変化を尋ねた設問について、「笑顔が増えた」の回答が42件(63.6%)と最も多く、次いで「他者とのコミュニケーション力が向上した」の回答が29件(43.9%)

5. 活動・取組みの課題

活動・取組みの課題【活動Q3-10】



- 活動・取組みの課題として「活動資金・物資が足りない」が20件(30.3%)が最も多い
- 2番目が「活動・取組みを実施するのに必要なボランティアが足りない」で17件(25.8%)
- 3番目が「活動・取組みをPRする場・機会が少ない」で15件(22.7%)



6. 次期プランの策定に向けて

次期プランの方向性

- 現行プランを基本的には踏襲しながらも、この間の子どもをとりまく社会情勢の変化や新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う新たな課題等も踏まえて策定します。社会的包摂の理念のもと、大田区地域福祉計画が掲げる大田区版地域共生社会の実現をめざす一環として、生活に困難を抱え支援を要する家庭や子どもに想いを寄せる活動団体や個人の支援の輪をさらに広げ、区の個別施策にもつながる、より実効性の高いプランへと発展させていきます。
- 国においても、新型コロナウイルス感染症の影響で、孤独・孤立への対策強化や、子ども行政の一元化の動きがある中、今こそ、区の子どもの貧困対策に関連する各分野のプランで掲げられた課題への解決策を進展させ、子どもの貧困対策により一層取り組むときと考えます。

次期プランの方向性

《調査結果をふまえた策定に向けての着眼点》

- 子どもを孤立させない、夢や希望を持てる ⇒ 自己肯定感を高める
- 学習支援の拡充・多世代の居場所(安心できる・相談支援)づくり・体験の機会の提供
- 子育てや貧困を家庭のみの責任としない
- 支援が必要な子どもや家庭に対し、誰一人とり残すことがないよう、
その複合・複雑化する課題の解決に必要な支援が届くよう細やかに支援します



地域ですべての子どもたちを包み込むような温かい支援(社会的包摂)が行われるよう、
地域における支援の輪の広がりを、地域の活動団体と区が共に進めてきたこれまでの強みを活かし、令和3年度をとおして、調査結果を詳細に分析し、子どもの生活応援プラン推進会議や地域の皆様のご意見を反映しながら、新しい社会情勢に合わせた新プラン策定に取り組みます



子どものための地域共生社会の実現をめざします